

[様式6]

財団法人 大学基準協会

2010(平成22)年度「大学評価」申請用

大学基礎データ(別冊)

[V 研究環境 1 専任教員の教育・研究業績(表 24)]

平成21年5月

北海道文教大学

1. 外国語学部

英米語コミュニケーション学科

	(頁)
・ Stephen Toskar	1
・ 鎌田 清子	4
・ 高橋 順一	8
・ 永原 和夫	10
・ 矢口 以文	12
・ Deepak K. Samida	14
・ Denis Quinn	16
・ 久野 寛之	18
・ 高橋 保夫	20
・ 渡辺 淳	22

中国語コミュニケーション学科

	(頁)
・ 黒坂 満輝	24
・ 城谷 武男	26
・ 蘇 氷	28
・ 藤本 幸三	30
・ 野間 晃	32
・ 山内 智恵美	34

日本語コミュニケーション学科

	(頁)
・ 姥ヶ澤 隆司	36
・ 岡本 佐智子	38
・ 神谷 忠孝	43
・ 鈴木 明美	45
・ 曾我 聰起	48
・ 海老子 格行	51
・ 吉田 夏也	53
・ 新田 隆	55
・ 小西 正人	57

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	Stephen Toskar	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<著書>							

<論文>				
On Philip Levine's Breath: The Shiver of Mortality	单著	March, 2005	Journal of Hokkaido Bunkyo University, Number 6	pp. 25-38
On Carolyn Forché's Blue Hour: Breaking Free from the Poetry of Witness	单著	March, 2007	Journal of Hokkaido Bunkyo University, Number 8	pp. 39-52
On Gerald Stern's American Sonnets: Intimations of Paradise	单著	March, 2008	Journal of Hokkaido Bunkyo University, Number 9	pp. 45-61
<その他>				
Poem: "Yonge St., Ontario"	单著	October, 2005	Poetry Nippon	pp. 29-30
Poem: "Sorry"	单著	October, 2006	Poetry Nippon	p. 28
Poem: "Graybeard"	单著	October, 2007	Poetry Nippon	p. 32
Poem: "Teaching Baby Boy Blue About the Cost of Things"	单著	October, 2008	Poetry Nippon	pp. 27-28
Poem: "My Father was a Megalomaniac"	单著	October, 2009	Poetry Nippon	pp. 25-26
Poem: "My Father was a Megalomaniac"	单著	November, 2009	Cyrano's Journal Dispatch online: http://www.bestcyranoo.org/filesdepot/?p=1496	
Poetry Consultant, Poetry Nippon		2000-2009		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
JALT, 1980-Present				
Nihon America Eibei Bungakukai, 1980-Present				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	鎌田 清子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
① 映像資料を有効に活用		平成17年4月～現在		建築設計・デザイン及び現場での施工状態を理解させる目的で技術を詳細に説明する映像資料を有効に活用しながら講義を進めるように工夫している。			
② 授業内でのレポート作成		平成17年4月～現在		毎回講義内容と学習到達目標とが合致しているか、学生の理解度を確認する目的で出席確認と同時にミニレポート課題を出し、記述させている。			
③ 各種検定試験の受検指導		平成17年4月～現在		各講義の内容は国家試験、各種検定試験の受検指導を兼ねながら、学習内容が学生の将来にわたり活用できる専門資格取得に連動するように設定している。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
<論文>					
住宅・室内環境における炭化材・再生炭の活用法と有効性に関する研究	単著	2005. 3. 31	北海道文教大学研究紀要No29		29頁～54頁
産業廃棄物の抗酸化・空気質改善効果剤への活用法に関する研究ー自然素材・有機廃棄物の有効利用、建築材料開発への一考察ー	単著	2006. 3. 31	北海道文教大学研究紀要No30		63頁～72頁
Study on Healthy Housing Using Recycled Organic Industrial Waste First report:Overview of Trend in the Development of the Technology & Latest new materials in Japan	単著	2006. 07. 21	A&WMA USA2006 New Orleans		(No. 764)
Technical development concernning Effectiveness of charcoal & Carbinized Materials against Sick house Syndrome	単著	2006. 6	Cold Climate HVAC2006 USA		(No. 116)
Research on Healthy Housing using recycled organic Industrial wastes.	単著	2007. 3. 31	北海道文教大学研究紀要No31		1頁～8頁

Preventive measures & Fact research on senile Dentia & depression under the Cold climate report of housing & living in group home and at-home nursingEnvironment	単著	2007. 06. 16	IPA2007 OSAKA JAPAN 日本老年精神医学会共催		ポスターセッションで発表
シックハウス症候群に対する単価建築材料の有効性を検証した実証研究	単著	2007. 03. 31	北海道文教大学研究紀要No31		1頁～8頁
Study on Healthy Housing Using Recycled Organic Industrial Waste First report:Overview of Trend in the Development of the Technology & Latest new materials in Japan	単著	2008. 3. 31	北海道文教大学研究紀要No32		1頁～17頁
『有機産業廃棄物を再生利用した建材活用の健康住宅に関する研究』	単著	2008. 03. 31	北海道文教大学研究紀要No32		1頁～17頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1998年～現在	北方型住宅研究専門員会 委員				
2005年～現在	日本建築学会北海道支部 会員				
～現在	日本福祉学会 会員				

～現在	日本認知症学会 会員
2004年～2007年	札幌国税局オピニオンリーダー
2005年～2007年	北海道環境影響評価審議会 委員
2005年～2007年	北海道固定資産評価審議会 委員
2005年～現在	恵庭市 入札監視委員会 委員
2005年～現在	恵庭市政治倫理審査会 委員
2006年	札幌市PFI設計審査会 委員
2006年～現在	恵庭市妬区別職報酬審議会 委員
2007年	北海道職員住宅FPI審査会 委員 北海道財務局
2007年～現在	文部科学省学術振興会科学研究費助成審査委員
2007年～現在	恵庭市商工業進行協議会 委員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	高橋 順一	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・「英語がわかる」ということ—英語前置詞overの場合—授業		平成20年5月20日		英米語コミュニケーション学科 1 年生への授業実践			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・「英語特別支援講座」の実施		平成18年11月16日		英米語コミュニケーション学科 1 年生への英語資格対策講座			
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

＜論文＞					
音象徴と類像性—英語語頭子音gl—	単著	平成17年3月	北海道文教大学論集第6号		13頁～23頁
英語における凍結現象—認知的視点から—	単著	平成17年3月	札幌学院大学人文学会紀要第77号		65頁～76頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成20年4月1日～	恵庭商工委員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	永原 和夫	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	矢口 以文	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	Deepak K. Samida	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・「インドの英語教育」		2006. 9. 30		インドの小学校における英語教育とその方法について			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・「ニューインド」 (インドの経済と教育について) ・「インド事情」		2005. 11. 14 2008. 10. 1		札幌北ワイズメンクラブ月例会で講演 恵庭市教育委員会 恵庭長寿大学で講演			
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
English Education in Indian Primary Schools	単著	2008.3	Journal of Hokkaido Bunkyo University, Number 9		pp. 73-79
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1996～現在に至る		The Japan Association for Language Teachers (JALT. 全国語学教育学会)			
1998～現在に至る		The English Literary Society of Japan, Hokkaido Branch (日本英文学会北海道支部)			
1999～現在に至る		The Japan Association of College English Teachers (JACET. 大学英語教育学会)			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	Denis Quinn	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	久野 寛之	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	高橋 保夫	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
英語学研究成果を英文法研究に生かすー冠詞を中心にー	単著	2006年	北海道文教大学論集第7号 北海道文教大学		pp. 1-9
統語論の授業についての覚え書き	単著	2008年	北海道文教大学論集第9号 北海道文教大学		pp. 63-72
私家版英和辞典	単著	2009年	北海道文教大学論集第10号 北海道文教大学		pp. 57-61
have to についての覚え書き	単著	2009年	函館英文学48号 函館英文学会		pp. 11-20
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	英米語コミュニケーション学科	職名	講師	氏名	渡部 淳	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月～7月		通訳ボランティアという社会的実践活動を外国語教育活動に組み込む。			
・ G 8 洞爺湖サミット多言語サポートボランティア		2009年2月		知的障害者を支援している製品の実演などを障害者の人と一緒に取り組む			
・ 知的障害者就労支援ボランティア							
2 作成した教科書、教材、参考書							
・ 特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項		2008年11月		在札幌アメリカ総領事館でのオバマ大統領の中継行事に学生を参加させる			
・ 在外公館行事の授業への活用		2009年9月～継続中		在札幌アメリカンセンターで不要になった最新の書籍などを教育で再活用			
・ 在外公館の書籍資料などの教育への再活用							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
政策と文化の融合：総合政策からの出発	共著	2009年3月	中央大学出版部	中央大学総合政策学部・編	231頁-244頁		
< 論文 >							

古典的主流理論におけるパワーとパラダイム：国際関係理論における主概念と三つの分析レベルの相互関係	単著	2009年3月	『メディア・コミュニケーション研究』 55号		147頁-165頁
世界理解における社会科学の理論と概念の布置：国際関係論のパラダイム変遷における分析レベルと主概念を事例に	単著	2009年3月	『総合政策研究』 総合政策学部創立15周年記念特別号		231頁-244頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年10月～平成19年9月		日中関係学会全国評議員			
平成20年4月～現在		北海道日中関係学会理事			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	黒坂 満輝	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						
中国思想の流れ (全三巻)	共著	2006年11月	晃洋書房 (京都)	橋本高勝 編	下巻 p. 127~132	

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成16年4月～平成18年3月		日本中国語学会理事・評議員			
平成20年5月～現在		日本中国語検定協会理事			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	城谷 武男	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	蘇 氷	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ・学習者が主体となる教育方法の改善 ・マルチメディア機器を有効利用した語学学習方法の開発				2005年～現在に至る 2005年～現在に至る		学習者が受身ではなく能動的に語学学習に取り組むための教育方法に取り組む。 マルチメディア機器を講義時間外に利用し、学習者が個々に語学力アップに取り組むべく教材の開発に取り組む	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・詳細は「著書」の項参照				2005年～2009年		研究書兼参考書である『中国語表現法マニュアル』は、著者のこれまでの研究成果を元に「表現法」に着目したものである。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・公開授業（タイトル：「中国語実践」）				2008年7月		教育の質改善を目標とした公開授業を実施した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・公開講座（タイトル：「入門中国語」）講師 ・中学生体験講義「中国語って！」講師 ・高校生体験講義「中国語ABC」講師 ・高校生体験講義「中国語ABC」講師 ・高校生体験講義「中国語って！」講師 ・オープンキャンパス体験講義講師 ・高校生体験講義「中国語って！」講師 ・オープンキャンパス体験講義講師				2005年5月～6月 2006年7月 2006年10月 2007年2月 2007年3月 2007年6月～10月 2007年11月 2008年6月～10月		公開講座の講師担当する。毎週土曜日計5回、高校生を含む市民より応募のあった参加希望者の中から25名に絞り、公開講演講義を実施した。 恵庭市立恵みの中学校生徒168名の体験講義講師を担当する。 千歳北陽高等学校40名に対しての、体験講義を担当する。 千歳北陽高等学校35名に対しての、体験講義を担当する。 鶴川高等学校30名に対しての、体験講義を担当する。 平成19年度オープンキャンパス第1回～第4回の講師を担当する。 長沼高等学校82名に対しての、体験講義を担当する。 平成20年度オープンキャンパス第1回～第4回の講師を担当する。	

・オープンキャンパス体験講義講師（「中国語の音韻」）	2009年6月	平成21年度オープンキャンパス第1回の講師を担当する。			
・オープンキャンパス体験講義講師（「好”でわかる中国語」）	2009年8月	平成21年度オープンキャンパス第2回の講師を担当する。			
・厚別高校体験講義講師（「中国語ABC」）	2009年9月	厚別高校生に対して、国際言語学科講義の講師を担当する。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
< 著書 >					
1. 中国語表現法マニュアル （初・中級）	共著	2005年5月	駿河台出版社	◎蘇氷、山内智恵美	pp. 1～320
2. 続中国語表現法マニュアル （中・上級）	共著	2009年10月	駿河台出版社	◎蘇氷、山内智恵美	pp. 1～330
< 論文 >					
< その他 >					
1. 「靴の比較」やってみましょ うか	単著	2006年11月	『読む中国語世界』No. 399 （日中通信社）		p. 62
III 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	藤本 幸三	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 関連資料および小テストの活用		平成17~18年度		講義授業については、関連資料をできるだけ多く配付し、学生の理解を深めるように努めた。 語学授業については、小テストを多数回実施し、基礎力の育成に努めた。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
< 論文 >							

<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成12年3月～平成18年10月		北海道日中関係学会会長			
平成18年10月～現在		北海道日中関係学会顧問			
講演 平成20年10月		恵庭商工会議所 演題：三国士の歴史から小説へ			
講演 平成20年11月		北広島市教育委員会 演題：中国と日本の歴史認識			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	野間 晃	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	中国語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	山内 智恵美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・マルチメディア機器を有効利用した語学学習方法の開発		2005年～現在に至る	マルチメディア機器を講義時間外に利用し、学習者が個々に語学力アップに取り組むべく教材の開発に取り組む			
・ビデオ活用した効果的言語習得		2005年～現在に至る	学生の中国語による口頭発表朗読をビデオに収録し、ビデオを利用し、発音チェックや抑揚の付け方などを指導し効果をあげている。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
・詳細は「著書」の項参照		2005年～2009年	研究書兼参考書である『中国語表現法マニュアル』は、著者のこれまでの研究成果を元に「表現法」に着目したものである。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
・長寿大学「中国事情」講座講師		2005年9月	恵庭市主催の長寿大学において「中国事情」をテーマに約130名に講義する。			
・公開講座「初級中国語」講師		2006年7月～8月	文教大学主催の公開講座の5回シリーズの中国語講師を勤める。対象者25名。			
・中学生体験講義「中国語って！」講師		2006年7月	恵庭市立恵みの中学校生徒168名の体験講義講師を担当する。			
・高校生体験講義「中国語ABC」講師		2006年10月	千歳北陽高等学校40名に対しての、体験講義を担当する。			
・高校生体験講義「中国語ABC」講師		2007年2月	千歳北陽高等学校35名に対しての、体験講義を担当する。			
・高校生体験講義「中国語って！」講師		2007年3月	鶴川高等学校30名に対しての、体験講義を担当する。			
・オープンキャンパス体験講義講師		2007年6月～10月 (4回)	平成19年度オープンキャンパス第1回～第4回の講師を担当する。			
・高校生体験講義「中国語って！」講師		2007年11月	長沼高等学校82名に対しての、体験講義を担当する。			
・オープンキャンパス体験講義講師		2008年6月～10月 (4回)	平成20年度オープンキャンパス第1回～第4回の講師を担当する。			

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
1. 中国語表現法マニュアル (初・中級)	共著	2005年5月	駿河台出版社	◎蘇氷、山内智恵美	1頁～320頁
2. 続・中国語表現法マニュアル (中・上級)	共著	2009年10月	駿河台出版社	◎蘇氷、山内智恵美	1頁～330頁
< 論文 >					
1. 20世紀漢民族と靴文化の 関係	単著	2005年3月	『北海道文教大学論集』第6 号、中国関係論説資料第49号 (平成19年度版) 所収		81頁～92頁
2. 子供服を通してみる現代に 受け継がれた中国伝統文 化の様相	単著	2006年4月	『北海道文教大学論集』第7号		11頁～24頁
3. 漢民族の服飾統一化への 変遷—五十年代から六十 年代を中心に—	単著	2009年4月	『北海道文教大学論集』第10号		1頁～12頁
III 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	姥ヶ澤隆司	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
源氏物語作中人物事典	共著	平成18年12月	東京堂出版	◎西沢正史、上田尾由香、岡部明日香 川名淳子、斎藤正昭、助川幸逸郎、 中哲裕、萩野敦子、星山健、三村友希 元吉進、吉野知子	52頁～57頁 145頁～151頁 215頁～228頁		

<論文>					
光源氏の柏木評価—若菜下巻における光源氏・柏木の対座場面をめぐって—	単著	平成18年 3月	北海道文教大学論集(第7号)		79頁～86頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
昭和49年4月～現在	北海道大学国語国文学会評議員				
平成19年10月	帯広市市民大学講座講師				
平成20年11月	恵庭市長寿大学講師				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	岡本 佐智子	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・「日本語Ⅰ・Ⅱ」授業改善		2008年4月～2009年3月	チームティーチングを行っている各教員と相互の授業評価と教材作成の点検			
・「日本語コミュニケーション技法」教材作成		2009年4月～8月	これまでの市販教科書ではなく、本学科生の将来の就職活動に対応した実践的教材作成を試みた。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
・非漢字圏の学習者のための日本語学習副教材作成		2006年～2009年 (7月-8月)	毎年、ロシア語母語話者のための漢字学習用教材および夏季日本語講座用の副教材を作成し、日本に適應することを目的とした日本語学習補助教材とした。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
・海外日本語教育実習プログラムの実施		2005年3月～2009年3月	オーストラリア、ロシア、中国の日本語教育機関へ送り出す本学科学生の日本語教育実習の事前・事後指導。現地コーディネーター・指導教員との実習プログラム共同開発。			
・夏季日本語講座のプログラム・コーディネート		2008年6月～2009年8月	夏季日本語講座の授業コーディネーターとして、ホストファミリーとの学習ニーズ調査と教材作成を行った。			
・日本語教育能力検定試験受験者への試験対策勉強会の主催		2005年8月～2009年10月	日本語教師志望学生のために、日本語教育能力検定試験受験対策として、課外および夏休み期間に勉強会を主催し、模擬試験と学習ポイント講義を行った。			

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
日本語教育能力検定試験 第 16回～第18回 傾向徹底分析 問題集	共著	2006年6月	アルク	アルク日本語書籍編集部編 相場康 子、阿部貴人、市瀬智紀、猪塚元、大 野陽子、岡本佐智子、奥田純子、奥野 由紀子、柏崎秀子、家村伸子、川口 良、河路由佳、小林由子、小山紀子、 庄司恵雄、陣内正敬、鈴木伸子、田尻 英二、棚橋明美、徳井厚子、西尾純 二、任都栗新、橋本直幸、春原健一 郎、ボイクマン総子、備前徹、星野恵 子、町田健、松丸真大、松本茂、宮 耕、村澤慶昭、山田泉、吉川正則	pp. 216-229
日本語教育能力検定試験に合 格するための社会言語学10	単著	2008年12月	アルク		
2007年～2009年度日本語教育 能力検定試験 合格するため の問題集	共著	2009年5月	アルク	アルク日本語書籍編集部編 猪塚恵美 子、猪塚元、遠藤藍子、岡本佐智子、 萩原稚佳子、金井隼人、神吉宇一、河 路由佳、小西円、小林由子、坂本勝 信、桜木ともみ、鈴木伸子、高見澤 孟、田仲正江、田中里奈、棚橋明美、 田辺和子、多仁安代、辻和子、堤良 一、中上亜樹、橋本直幸、藤多ラウン ド幸世、星野恵子、本田弘之、真嶋潤 子、村上敬一、楊虹	pp. 68-84
< 論文 >					
日本語教育の現状と課題	単著	2005年3月	『北海道文教大学論集』第6号		pp. 121-135
日本人の自己紹介における自 己開示	単著	2006年3月	『北海道文教大学論集』第7号		pp. 51-63
安泰な言語あるために	単著	2007年3月	『北海道文教大学論集』第8号		pp. 53-73
「不適切な」日本語表現考	単著	2009年3月	『北海道文教大学論集』第10 号		pp. 63-73

＜その他＞					
異文化コミュニケーションと社会	単著	2005年5月	『日本語教育能力検定試験に合格するための本 2006』アルク		pp. 110-117
外国人の大疑問100	単著	2005年11月	『月刊日本語』12月号 アルク		pp. 24-27
「ケータイ小説コンテスト」実施報告	共著	2006年3月	『北海道文教大学論集』第7号	◎岡本佐智子・神谷忠孝	pp. 65-75
異文化コミュニケーションと社会	単著	2006年5月	『日本語教育能力検定試験に合格するための本 2007』アルク		pp. 114-122
外国人の大疑問—日本文化編—	単著	2007年7月	『月刊日本語』8月号 アルク		pp. 24-27
外国人とコミュニケーションするための日本文化を知る	単著	2007年7月	『月刊日本語』8月号 アルク		pp. 28-29
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション (連載)	単著	2008年3月	『月刊日本語』4月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年4月	『月刊日本語』5月号 アルク		pp. 38-39
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年5月	『月刊日本語』6月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年6月	『月刊日本語』7月号 アルク		pp. 44-45
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年7月	『月刊日本語』8月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年8月	『月刊日本語』9月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年9月	『月刊日本語』10月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年10月	『月刊日本語』11月号 アルク		pp. 36-37

非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年11月	『月刊日本語』12月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2008年12月	『月刊日本語』1月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年1月	『月刊日本語』2月号 アルク		pp. 40-41
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年2月	『月刊日本語』3月号 アルク		pp. 40-41
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年3月	『月刊日本語』4月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年4月	『月刊日本語』5月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年5月	『月刊日本語』6月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年6月	『月刊日本語』7月号 アルク		pp. 44-45
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年7月	『月刊日本語』8月号 アルク		pp. 46-47
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年8月	『月刊日本語』9月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年9月	『月刊日本語』10月号 アルク		pp. 36-37
非言語メッセージからながめる日本人のコミュニケーション	単著	2009年10月	『月刊日本語』11月号 アルク		pp. 44-45

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2006年8月～2009年8月 (各年8月～9月実施)	北海道文教大学公開講座 全5回シリーズ「伝え合う日本語Ⅰ～Ⅳ」の内の一回 「日本語と日本文化」「日本語のアクティブリスニング」「日本語の比喩」「多文化社会と日本語」
2006年7月～2008年3月	北海道日本語教育ネットワーク 代表
2009年4月～	大学日本語教員養成課程連絡協議会 理事

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	神谷 忠孝	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						
植民地下のソウル－梶山季 之・田中英光	共著	2007・3	世界思想社	神谷忠孝・木村一信編 『(外地) 日本語文学論』	pp. 3-10 pp. 115-131	

<論文>					
本庄陸男	単著	2005・2	至文堂 「解釈と鑑賞」70巻2号		pp. 50-56
新構想・北海道文学史	単著	2005・3	「北海道文教大論集」6号		(2009/1/8)
権太における戦争の記憶	単著	2006・2	日本社会文学会「社会文学」 23号		pp. 117-120
小林多喜二とモダニズム	単著	2006・9	至文堂 「解釈と鑑賞」別冊	神谷忠孝・北条常久・島村輝編集	pp. 49-54
北の発見	単著	2008・7	「文学・語学」191号		pp. 38-42
保田與重郎と太宰治	単著	2009・6	和泉書院 「太宰治研究」17号		pp. 305-315
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2000年～現在に至る		昭和文学会評議委員			
2002年～現在に至る		中原中也研究会理事			
2003年～現在に至る		財団法人北海道文学館理事長			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	鈴木 明美	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・適時教材用プリントの作成				それぞれの学生の理解度を常にチェックし、理解不足の箇所は個別指導の徹底と、プリント教材で補強している。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・「Давайте говорить по-русски! ロシア語を話しましょう」 ・「Элементарный курс русского языка ロシア語入門」		2006年 2009年		2002年に作成した会話の教科書の改訂版で、さまざまなシチュエーションを設定し、そこで使われる慣用句などを学習する。 ロシア語の基本的文法書で、普段よく使われる単語、文例などを学習する。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・サハリン国立大学生夏期日本語語学研修の立案企画。 ・ロシア語検定試験、ロシア語弁論大会事前講習実施				サハリン国立大学生が1ヶ月間本学で日本語と日本文化を学び、本学の学生と交流する機会を提供する。 ロシア語を学んでいる学生に目的意識をもたせるため、ボランティア通訳を紹介したり、ロシア語検定試験や弁論大会に挑戦させている。そのための事前講習をおこなっている。			

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
「Давайте поговорить по-русски! ロシア語を話しましょう」	単著	2006年3月	自費出版		
「Элементарный курс русского языка ロシア語入門」	単著	2009年11月	自費出版		
< 論文 >					
< その他 >					
III 学会等および社会における主な活動					
1989年8月～現在に至る		日本ロシア文学会員			
2000年6月～現在に至る		日本比較文学会員			
(翻訳・通訳)					
2006年8月		「ミニバレー」公式ルールブック共訳 (全日本ミニバレー協会)			
2007年3月		北海道開拓記念館2006年度事業報告書翻訳 (北海道開拓記念館)			
2005年10月		サハリン医療研修通訳 (旭川市)			
2006年11月		サハリン医療研修通訳 (旭川市)			
2007年11月		サハリン医療研修通訳 (旭川市)			
2008年9月		サハリン公式代表団通訳 (旭川市)			
2008年11月		サハリン医療研修通訳 (旭川市)			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	教授	氏名	曾我 聡起	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・e-Learningシステムの導入 ・授業映像のWeb公開		平成17年度～現在 平成19年度～	一般情報処理科目についてe-learningを導入した。 担当科目において解説映像と音声などをWeb配信している。				
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)			該当頁数
<著書>							
ひと目でわかる最新情報モラル	共著	平成21年8月17日	日経BPソフトプレス	◎大橋真也、森夏節、立田ルミ、小杉直美、橋孝博、早坂成人、曾我聡起、高瀬敏樹、石坂徹、辰島裕美、山田裕仁			第3章
<論文>							
オンデマンドサービスを利用したコンピューターリテラシーのための学習支援サービス	共著	2005	コンピュータ&エデュケーション Vol. 18	◎曾我聡起、塩谷浩之、杉岡一郎			pp. 136-144
OSSを用いた低価格オンデマンドストリーミングサーバーの開発	共著	2005	コンピュータ&エデュケーション Vol. 19	◎曾我聡起、小森良隆			pp. 25-35

オンデマンドストーリーミング映像を用いた学習支援教材システム	共著	2006	国公立大学センター情報システム研究会事務局、大学情報システム環境研究VOL.9	◎曾我聰起、塩谷浩之、杉岡一郎	pp. 75-81
検証、教科「情報」-北海道における実技テストを含めたコンピュータリテラシー調査の分析	共著	2006	CIEC会誌、コンピュータ&エデュケーション、VOL. 21	◎森夏節、青木直史、小杉直美、曾我聰起、棚橋二郎、藤澤法義	pp. 17-23
<その他>					
北海道における情報教育の共通基盤形成に向けた調査	共著	2006	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2006PCカンファレンス論文集	◎森夏節、藤澤法義、曾我聰起、青木直史、片桐実穂、小杉直美、棚橋二郎、皆川雅章	pp. 137-140
オンデマンドストーリーミングサーバを用いた授業支援に関する実証研究の報告	共著	2006	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2006PCカンファレンス論文集	◎曾我聰起、小森良隆、藤澤法義、梅村匡史、森夏節	pp. 361-364
教育用コンテンツにおける動画利用に関する一考察	共著	2006	PCカンファレンス北海道2006実行委員会、PCカンファレンス北海道2006論文集	◎藤澤法義、曾我聰起、川名典人、古郡曜子	pp. 11-14
調理実習科目における映像ストーリーミングの実証実験に関する考察	共著	2007	北海道文教大学論集Vol. 8	◎曾我聰起、古郡曜子、藤澤法義	pp. 16-23
北海道における情報教育の共通基盤形成に向けた調査2007	共著	2007	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2007PCカンファレンス論文集	◎森夏節、藤澤法義、曾我聰起、青木直史、棚橋二郎、小杉直美、皆川雅章	pp. 409-412
授業映像公開の現状と各種授業形態に応じた映像撮影・編集方法に関する検討	共著	2007	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2007PCカンファレンス論文集	◎藤澤法義、曾我聰起	pp. 221-224
北海道の情報教育に関する共通基盤形成に向けた調査	共著	2007	平成19年度 情報教育研究集会講演論文集	◎森夏節、藤澤法義、曾我聰起、小杉直美、棚橋二郎、皆川雅章	pp. 523-526
北海道における情報教育の共通基盤形成に向けた調査2008-1（実技テスト編）	共著	2008	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2008PCカンファレンス論文集	◎森夏節、曾我聰起、小杉直美、棚橋二郎、藤澤法義、皆川雅章	pp. 202-205
カメラマン不要の授業ビデオ映像配信に関する研究の報告	共著	2008	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2008PCカンファレンス論文集	◎曾我聰起、藤澤法義	pp. 232-235
NESSによるコンピューターリテラシーの考察	共著	2008	PCカンファレンス北海道2008実行委員会、PCカンファレンス北海道2008論文集	◎曾我聰起、松岡審爾	pp. 24-27
多様な授業形態に応じたマルチメディア教材作成の基礎的研究（18500723）	共著	2008	平成18年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書	◎藤澤法義、梅村匡史、曾我聰起	pp. 30-51
NESSによるコンピューターリテラシーの考察II	共著	2009	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2009PCカンファレンス論文集	◎曾我聰起、松岡審爾	pp. 25-26
北海道における情報教育の共通基盤形成に向けた調査2009	共著	2009	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2009PCカンファレンス論文集	◎森夏節、小杉直美、曾我聰起、棚橋二郎、藤澤法義、皆川雅章	pp. 385-386

北海道における情報教育の共通基盤形成に向けた調査2009	共著	2009	CIEC（コンピュータ利用協議会）、2009PCカンファレンス論文集	◎森 夏節、小杉直美、曾我聡起、棚橋二郎、藤澤法義、皆川雅章	pp. 385-386
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2008. 4～		CIEC（コンピュータ利用教育協議会）北海道支部世話人会			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	特任教授	氏名	海老子 格行	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	吉田 夏也	大学院における研究指導担当資格の有無	(有)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに適切な評価方法を選択した (筆記試験・口答試験・グループ発表・講義内発表等) ・詳細な資料を作成して配布した ・双方向性の授業・演習を積極的に実施した 							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

＜論文＞					
無声化母音の知覚上の手がかりに関する一考察	単著	2006年4月17日	『ユーラシア諸言語の研究』 (庄垣内正弘先生退任記念論 集 「ユーラシア諸言語の研 究」 刊行会)		93頁-102頁
日本語母音無声化の音声学的研究	単著	2006年4月30日	「音韻研究」 第9号 (日本 音韻論学会編 開拓社刊)		173頁-180頁
/p/に後続する無声化母音を知覚する音響上の手がかり	単著	2008年12月1日	「音声研究」 第12巻3号 日 本音声学会		52頁-58頁
＜その他＞					
(口頭発表) 無声化母音の知覚について	単著	2005年7月16日	関西音韻論研究会(神戸大学)		
(口頭発表) 日本語母音無声化の音声学的研究	単著	2005年8月26日	音韻論フォーラム2005(福岡大学)		
(書評) 城生伯太郎著『実験音声学入門』	単著	2008年12月1日	「音声研究」 第12巻3号 日 本音声学会		98頁-99頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2009年4月1日		日本音韻論学会理事			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	准教授	氏名	新田 隆	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	日本語コミュニケーション学科	職名	講師	氏名	小西 正人	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・ 口頭試験を導入			2006年	各人の理解度をその場で確実に確かめることができるようにした。		
・ 毎回授業時に質問用紙を配布			2006年	授業内容の理解や新たな始点などさまざまなフィードバックができるようにした。		
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
< 論文 >					
現代日本語の到達事象 (achievement event) について	単著	2009年3月	『北海道文教大学論集』第10号		33頁～45頁
< その他 >					
現代日本語の動作事象 (activity events) について	単著	2008年6月	『日本言語学会 第136回大会 予稿集』		98頁～103頁
III 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

2. 人間科学部

健康栄養学科

	(頁)
・佐藤 節子	59
・侘 美 靖	62
・豊田 修次	66
・中河原 俊治	71
・中矢 雅明	76
・真嶋 光雄	78
・宮下 洋子	80
・荒井 三津子	85
・近藤 文衛	88
・中 島 亮	90
・笹谷 美恵子	92
・濱 田 康	95
・小 原 効	97
・田中 律子	100
・峯 尾 仁	102
・井本 佳宏	106
・木藤 宏子	108
・齋藤 郁子	113
・坂 本 恵	116
・鈴木 純子	120

理学療法学科

	(頁)
・青 木 藩	132
・橘 内 勇	134
・佐々木 鐵人	136
・松岡 審爾	139
・松本 博之	141
・宮本 重範	145
・若林 淳一	153
・大 森 圭	155
・齋藤 正美	157
・村上 雅仁	161
・横井 裕一郎	163
・池野 秀則	167
・白幡 知尋	169
・西村 由香	171
・手嶋 哲子	123
・西尾 久美子	125
・菅原 千鶴子	127
・杉村 留美子	129

作業療法学科

	(頁)
・池田 官司	176
・木村 浩一	178
・深澤 孝克	181
・渡辺 明日香	183
・奥村 宣久	189
・向井 聖子	192
・大川 浩子	196
・北島 久恵	200
・中村 充雄	206

看護学科

	(頁)
・岩田 銀子	208
・大 澤 栄	212
・小堀 ゆかり	215
・榊原 千佐子	217
・羽原 美奈子	222
・辻 慶 子	227
・松本 真希	231
・矢嶋 俊彦	233
・泉澤 真紀	239
・長多 好恵	243
・永谷 智恵	246
・坂田 朋子	248
・滋野 和恵	250
・出村 由利子	252
・岡本 麗子	254
・高井 奈津子	256
・早坂 寿美	258
・前垣 綾子	260

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	佐藤 節子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ヘルスケア施設における患者・入所者のQOL向上のみならず、衛生管理の改善、また厨房要員の人的問題の解決のために検討すべき新しい給食のシステムに関する講義と実習の実施。	平成17・18・19・20年 4月・5月・6月	新しい給食のシステムに関する講義と実習とを全国の管理栄養士養成課程に先駆けて実施した。具体的には、欧米のヘルスケア施設で支配的であるクックチルシステムの特徴とプロセスの優位性を従来のクックサーブシステムと比較して解き明かし、さらにこれを世界標準の食品衛生管理システムであるハサップ (HACCP) に準拠して計画・実施する方法について講義で示した後、実習において体験させた。			
2	作成した教科書、教材、参考書 ・クックチルシステムのプロセスをハサップ (HACCP) 管理に準拠して計画・実施するための授業プリントの作成	平成17・18年 5月・6月	クックチルシステムに関して、学生が卒業後に適切に応用できるレベルで解説した教科書や参考書はまだ存在しないため、一連の工程をハサップ (HACCP) の視点で分析して解説し、かつ現場で使用できる書式を含めてプリントとして作成し、講義で使用した。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項 ・大量調理における適切な盛付・配膳システムに関する講義と実習	平成17・18・19年 11月	給食は調理と配食という2大工程で捉えるのではなく、一連の工程を細分化して各プロセスを温度・時間でコントロールするという欧米の食品衛生管理の概念が育成されなければハサップ (HACCP) 管理の実施は難しい。この意味において盛付・配膳作業は重要な工程であるにもかかわらず、わが国では看過されがちであるため、全国の大学で初めてベルトコンベアを導入して使用し、従来の方法と比較して作業動線や食品温度等のデータがどのように異なるかを体験的に学習させた。これによって、学生は当該工程の重要性を認識し、卒業後の実践現場での適切			

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
給食の品質管理	単著	2005年10月	給食マネジメント論、東京化学 同人社		p. 99～p. 122
< 論文 >					
盛付・配膳工程における人員管 理と食品温度管理改善のための 2つのシステムの比較	共著	2006年3月	北海道文教大学研究紀要第29号	◎佐藤節子、新井田洋子	p. 1～p. 10
盛付・配膳作業における交通量 とその態様の比較検討	共著	2007年3月	北海道文教大学研究紀要第31号	◎佐藤節子、新井田洋子、諸橋京美	p. 93～p. 97
病院食改善のための食材下処理 法の検討ークックチルvs流水下 曝露冷却法	共著	2008年3月	北海道文教大学研究紀要第32号	◎佐藤節子、佐藤理紗子	p. 149～p. 154
< その他 > 学会発表					
栄養ケアマネジメントの出発点 としての食材下処理法の検討	共著	2006年11月	第5回日本栄養改善学会北海道 支部学術総会講演集	◎坂本知美、坂田葉子、佐藤節子	p. 35
クックチルシステムにおける冷 却法の比較に関する検討	共著	2008年11月	第7回日本栄養改善学会北海道 支部学術総会講演集	◎佐藤節子、佐藤理紗子	p. 40
クックチル食品の冷却法別食味 の比較検討	共著	2009年9月	第56回日本栄養改善学会学術総 会講演集	◎田中瞳、佐藤節子、佐藤理紗子	p. 190
III 学会等および社会における主な活動					
平成17年4月～平成20年3月	第4・5・6回日本栄養改善学会北海道支部学術総会幹事				
平成20年4月～平成21年3月	第7回日本栄養改善学会北海道支部学術総会会長				
平成21年4月～平成22年3月	第56回日本栄養改善学会学術委員				
平成19年4月～平成21年3月	(社)北海道水産物検査協会官能検査専門家審査員				
平成17年4月～平成20年3月	北海道食品協議会委員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	侘美 靖	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2	作成した教科書、教材、参考書 ・生涯スポーツと運動の科学 ・平成19年度食に関する指導支援資料「食に関する個別指導」 ～運動部活動などでスポーツをする児童生徒のために～ (DVD, VTR)	平成18年4月18日 平成20年3月	7章 中・高齢者のスポーツp.73～82 企画) 独立行政法人日本スポーツ振興センター 平成19年度食に関する指導支援委員会			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項 ・北海道文教大学及び北海道文教大学大学院並びに北海道 文教大学短期大学部教育開発センター カリキュラム開発 部門長	平成18年2月1日～ 平成20年3月31日				

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
生涯スポーツと運動の科学	共著	平成18年4月	市村出版	上杉尹宏, 晴山紫恵子, 川初清典編 侘美靖 ら24名 著	73頁～82頁
< 論文 >					
週1回12週間の水中ウォーキング教室に参加した中高年女性の健脚度関連体力、感情及び冬道セルフエフィカシーの向上	共著	平成17年6月	日本生気象学会雑誌 (第42巻1号)	◎侘美靖, 森谷梨	5頁～15頁
週2回12週にわたって水中運動を実施した高齢女性の健脚度関連体力、冬道セルフエフィカシー、精神的健康度とQOLの改善	共著	平成17年6月	日本生気象学会雑誌 (第42巻1号)	◎侘美靖, 森谷梨, 小田史郎, 福岡永告子, アディカリ・メリサ・オカンポ	17頁～27頁
YOSAKOIソーラン祭り参加による運動量増加と体力の向上	共著	平成17年12月	日本生気象学会雑誌 (第42巻4号)	◎侘美靖, 森谷梨	145頁～157頁
北国における運動の生活化と心身の健康向上-健脚度関連体力とメンタルヘルス向上からの検討-	単著	平成17年12月	北海道大学大学院教育学研究科 博士学位論文		177頁
スポーツ選手の食生活と栄養摂取に関する研究—スポーツ関係者の関心事項と講習会指導の進め方—	単著	平成18年3月	(財)北海道体育協会スポーツ 科学委員会研究報告 (第26巻)		11頁～17頁
YOSAKOIソーラン祭り参加による感情とメンタルヘルスの改善	共著	平成19年2月	日本生気象学会誌 (第43巻4号)	◎侘美靖, 森谷梨	117頁～129頁

BOSUバランストレーナーを利用した動的 バランステストの開発ーBOSUバランステスト の信頼性と妥当性ー	共著	平成19年3月	北海道文教大学研究紀要 (第31号)	◎佐美靖, 森谷梨	9頁～11頁
スポーツ選手の栄養摂取状況と 食生活に関する研究ー血液検査 データを活用した栄養摂取状況 評価と食生活改善の試みー	単著	平成19年3月	(財)北海道体育協会スポーツ 科学委員会研究報告 (第27巻)		9頁～17頁
YOSAKOIソーラン祭り参加者の取り 組み意識と健康づくりへの影響	共著	平成20年3月	北海道文教大学研究紀要 (第32号)	◎佐美靖, 森谷梨	33頁～47頁
スポーツ選手の栄養摂取状況と 食生活に関する研究ー北海道高 校トップアスリートのサプリメ ント利用に関する調査ー	単著	平成20年3月	(財)北海道体育協会スポーツ 科学委員会研究報告 (第28巻)		1頁～8頁
<その他>					
平成19年度食に関する指導支援 資料「食に関する個別指導」 ～運動部活動などでスポーツ をする児童生徒のために～ (DVD, VTR)	共著	平成20年3月	独立行政法人日本スポーツ振興 センター 平成19年度食に関する指導支援 委員会	麻見直美, 佐美靖, 西川智子, ◎村田光範, 渡辺三郎, 森泉哲也	
III 学会等および社会における主な活動					
現在の所属学会	北海道体育学会、日本体育学会、日本体力医学会、北海道スポーツ医科学研究会、アメリカスポーツ医学会、 日本運動生理学会、日本生気象学会				
平成18年4月～平成21年3月	北海道体育学会 理事				
平成19年4月～現在に至る	日本体力医学会北海道地方会理事				
平成6年4月～現在に至る	(NPO) 日本健康運動指導士会 北海道支部長				

平成11年7月～現在に至る	北海道体育協会スポーツ科学委員会委員
平成14年4月～現在に至る	北広島市スポーツ振興審議会委員（平成20年4月～現在：委員長）
平成19年4月～現在に至る	(財)さっぽろ健康スポーツ財団 評議員
平成19年4月～現在に至る	札幌圏域地域・職域連携推進連絡会委員（学識経験者枠）：千歳保健所管轄
平成19年7月～平成20年3月	(独立行政法人)日本スポーツ振興センター 食に関する指導支援委員会委員
平成19年7月～現在に至る	北海道 糖尿病等生活習慣病予防のための人材育成研修ワーキング会議委員
平成21年8月～現在に至る	北海道「幼児の生活習慣改善事業」 事業検討委員会委員長

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	豊田 修次	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度「食品加工学実験」の授業評価アンケートの実施 		平成21年1月13日	人間科学部健康栄養学科2年1組(42名)の学生を対象に、「学生による授業評価」アンケートを実施した。このアンケート調査は、教育開発センターが2008年度後期開講の全科目について、授業を改善するための基礎資料を収集する目的で実施したものである。			
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度「生物工学」の授業評価アンケートの実施 		平成21年1月16日	人間科学部健康栄養学科4年生(73名)を対象に、「学生による授業評価」アンケートを実施した。			
<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度「食品加工学」の授業評価アンケートの実施 		平成21年7月15日	人間科学部健康栄養学科2年1組(35名)の学生を対象に、「学生による授業評価」アンケートを実施した。このアンケート調査は、教育開発センターが2009年度前期開講の全科目について、授業を改善するための基礎資料を収集する目的で実施したものである。			
<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度「生物工学」の授業評価アンケートの実施 		平成21年7月17日	人間科学部理学療法学科1年生(18名)、作業療法学科1年生(6名)、健康栄養学科4年生(13名)を対象に、「学生による授業評価」アンケートを実施した。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
<ul style="list-style-type: none"> 「分子生物学・微生物学実験」テキスト(改訂版) 		平成17年10月1日	分子生物学実験及び微生物学実験の操作手順を解説。			
<ul style="list-style-type: none"> 「分子生物学・微生物学実験」資料集(改訂版) 		平成17年10月1日	分子生物学及び微生物学の基本事項を解説。			

・「食品衛生学実験」テキスト

平成19年4月1日

食品衛生学実験予定表、実験室の注意事項、出欠、レポートの提出、評価、微生物実験実習中の注意事項、化学実験実習中の注意事項、及び微生物実験（1. 一般生菌数の測定、2. 大腸菌群の測定、3. 調理器具・手指の衛生試験・空中落下菌の測定、4. 食中毒原因菌の測定）と化学実験（5. 水道水の分析、6. 水分活性の測定、7. 牛乳の新鮮度試験、8. 揮発性塩基窒素の測定、9. ヒスタミンの検出、10. 油脂の変敗試験、11. 合成タール色素の検出、12. 抗菌性物質の検出、13. 亜硫酸塩の検出・定量）の各項目別による実験の目的、方法（試料・器具・装置・試薬）、操作手順について記載した。A4版、全48頁のテキストを作成した。

・「分子生物学・微生物学実験」テキスト（改訂版）

平成19年10月1日

分子生物学実験及び微生物学実験の各項目別による実験目的、方法（器具・試薬）、操作手順及び課題を見直し、その改訂版を作成した。

・「分子生物学・微生物学実験」資料集（改訂版）

平成19年10月1日

微生物学実験に必要な基本技術、顕微鏡操作法、微生物の観察方法、分子生物学実験の基本操作、試薬の調製法、形質転換や制限酵素の解説、電気泳動や分光光度計の操作法などを見直し、その改訂版を作成した。

・「食品加工学」授業資料

平成20年4月1日

食生活と食品加工、食品加工法の基礎、食品の包装、食品加工操作技術、食品加工と成分変化、食品加工と安全性、保健機能食品、加工食品の規格基準と品質表示、農産物の加工、畜産物の加工、水産物の加工、発酵食品、調味料と嗜好食品、インスタント食品などの内容を記述。

・「食品加工学」演習問題集

平成20年4月1日

管理栄養士国家試験レベルの演習問題集（1. 食品加工の目的・食品産業界の課題、2. 食品の変質、3. 食品の保存、4. 食品中の水分、5. 容器と包装、6. 食品成分の加熱による変化、7. 食品成分の酸化反応による変化、8. 食品成分の酵素的褐変・非酵素的褐変、9. 食品添加物、10. 保健機能食品、11. 食品の規格、12. 食品の品質表示、13. 農産加工、14. 畜産加工、15. 水産加工、16. 発酵食品、17. 調味料・嗜好食品、18. インスタント食品、19. 食用油脂・コピー食品、20. 食品への酵素の利用）を作成した。

<ul style="list-style-type: none"> ・「生物工学」授業資料 	平成20年4月1日	<p>バイオテクノロジーとは、微生物とバイオテクノロジー、細胞融合技術、遺伝子組み換え技術、バイオリアクター、細胞・組織培養、醸造と発酵食品、微生物工業、遺伝子組み換え食品、クローン研究、などの内容を記述。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「生物工学」演習問題集 	平成20年4月1日	<p>演習問題（1. バイオ概論、2. バイオ基本技術（その1）、3. バイオ基本技術（その2）、4. バイオの応用（その1）、5. バイオの応用（その2））を作成した。</p> <p>また、授業に関連して、管理栄養士国家試験対策用問題集（発酵食品への微生物の利用、食品への酵素の利用、核酸関連）を作成した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「食品加工学実験」テキスト 	平成20年10月1日	<p>食品加工学実験予定表、実習室・実験室の注意事項、出欠、レポートの提出、評価、及び実習・実験項目（1. うどん・中華麺の製造と分析、2. 食パンの製造と分析、3. 豆腐の製造と分析、4. 味噌の分析、5. トマトピューレ・トマトケチャップの製造と分析、6. みかんのシロップづけ（缶詰）の製造と分析、7. ヨーグルトの製造と分析、8. チーズ・バターの製造と分析、9. かまぼこ・ちくわの製造と分析、10. ソーセージの製造と分析、11. ドライソーセージの水分活性の測定、12. マヨネーズの製造と分析）についての目的・加工の原理・材料・器具・実験操作・検査・分析・課題を記載したA4版、全48頁のテキストを作成した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会・環境と健康」演習問題と資料集 	平成21年4月1日	<p>管理栄養士国家試験対策用の問題集と資料集（A3版、35頁）を作成した。健康栄養学科の講習会に使用するため。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物と健康」演習問題と資料集 	平成21年4月1日	<p>管理栄養士国家試験対策用の問題集と資料集（A3版、38頁）を作成した。健康栄養学科の講習会に使用するため。</p>

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度恵庭市長寿大学にて講演 北海道文教大学公開講座にて講義 (社) 日本メディカル給食協会主催講習会にて講義 恵み野中学校上級学校見学会にて体験講義 (社) 日本メディカル給食協会主催講習会にて講義 	<p>平成18年9月20日</p> <p>平成19年8月28日</p> <p>平成20年8月3日</p> <p>平成21年7月16日</p> <p>平成21年8月2日</p>	<p>恵庭市民を対象に、恵庭市民会館において「乳製品と健康」と題し講演した。</p> <p>千歳市民、恵庭市民及び北広島市民を対象に、本学において「発酵食品を食べて元気で長生き」と題し講義した。</p> <p>管理栄養士国家試験受験対策講習会（札幌市内）で、「社会・環境と健康」について講義した。</p> <p>恵み野中学校3年生を対象に、本学において「牛乳の成分と健康」と題して講義した。</p> <p>管理栄養士国家試験受験対策講習会（札幌市内）で、「社会・環境と健康」について講義した。</p>			
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道文教大学就職等支援委員長 北海道文教大学人間科学部健康栄養学科国家試験対策委員長 	<p>平成19年4月1日</p> <p>平成19年4月1日</p>	<p>各種就職セミナー（特別就職ガイダンスなど）を視察して就職支援などの情報収集活動を行い、学内の進路支援センターとの情報交換を行った。</p> <p>学科内の管理栄養士国家試験対策委員長として、国試対策解説講習会・夏季講習会・秋季講習会・冬季講習会や、学内模試（計4回）と学外模試（計4回）を立案・企画し実施した。</p>			
<p>II 研究活動</p>					
<p>著書・論文等の 名称</p>	<p>単著・ 共著の別</p>	<p>発行 または 発表の 年月（西暦でも可）</p>	<p>発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称</p>	<p>編者・著者名 （共著の場合のみ記入）</p>	<p>該当頁数</p>
<p>< 著書 ></p>					

<論文>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成16年4月～現在に至る	日本酪農科学会会員				
平成16年4月～現在に至る	日本乳酸菌学会会員				
平成16年4月～現在に至る	北海道バイオ産業振興協会会員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	中河原 俊治	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・ 食べ物の成り立ち、食品科学における学習促進のための 取り組み		平成17年4月	講義内容に関する質問を講義時間内に行なうことを毎回課した。しかしながら口頭での質問はなかなか出にくいので、質問用紙を作成しひとりひとりに配布して、各自で記述するようにした。その結果、その日の講義の中から質問事項を見つけ出す必要性から、ひとりひとりが講義に集中するようになり、また適切な文章化の必要性から講義内容をその場で整理することとなり、学習促進効果が認められた。(現在に至る)			
・ 食べ物の成り立ち、食品科学における視聴覚教材の活用		平成17年4月	食品の分類と、その食品成分の化学構造ならびに反応特性の理解がポイントとなるが、プレゼンテーションアプリケーションや化学構造描画アプリケーションの導入、活用により、視覚的にとらえることが可能となる。そのため、学生はそれらをイメージとしてとらえやすくなり、記憶にも残りやすい、したがって理解度が高まるという効果が得られた。(現在に至る)			
・ 食べ物の成り立ち、食品科学、食品科学実験における授業 評価の実施		平成18年1月	大学の自己評価のための授業評価とは別に、授業評価アンケートを実施し、次年度の講義・実験をより良いものとする改善のための情報として活用している。(現在に至る)			
・ 基礎化学の補習の実施		平成18年2月	専門(基礎)科目の履修に支障が生じる場合が少なくないため補習を行ない、化学構造式の意味など有機化学の基礎を担当した。(現在に至る)			
・ 食べ物の成り立ち、人間科学総合講座、現代社会総合講座 における学生の私語の根絶		平成18年4月	私語の原因を無くするために、履修学生の全てに座席を割り当てた。その際、座席は隣同士にならないよう一列間隔で指定した。ただ、座席を学生ごとに固定すると場所によっては遠くて黒板が見にくいといったことも考えられるので、機会均等にするために、授業毎に毎回、数学的に発生させた乱数を用い、各学生に対しランダムに座席を指定することにした。(現在に至る)			

<ul style="list-style-type: none"> ・ H19年度前期学生による授業評価 ・ H20年度後期学生による授業評価 	<p>平成19年7月</p> <p>平成21年1月</p>	<p>「食べ物の成り立ち」の授業評価は受講者182名中147名の評価があり、19設問に対し5点満点中平均4.4であった。最も評価が高かった設問は「授業は十分に準備されたものでしたか(4.74)」、最も評価が低かった設問は「授業内容への関心を高めるよう工夫していましたか(4.08)」であった。</p> <p>「食品科学実験」の授業評価は受講者70名中13名の評価があり、19設問に対し5点満点中平均4.4であった。最も評価が高かった設問は「安全や人格・プライバシー保護についての配慮がなされていましたか(4.86)」、最も評価が低かった設問は「黒板などの字は見やすかったですか(3.71)」であった。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品科学実験テキスト ・ 食べ物の成り立ちテキスト ・ 食品科学テキスト ・ 食品機能論テキスト 	<p>平成17年4月</p> <p>平成17年4月</p> <p>平成17年4月</p> <p>平成17年4月</p>	<p>日常的な食品材料を用いて、それらに含まれる成分を抽出・精製・定量したり、成分間反応を確認するなど食品分析においてよく行われる実験法を選定し、それらについて詳細な実験書を作成した。(現在に至る)</p> <p>人間と食べ物の関わりについて食品の歴史的変遷と食物連鎖の両面から解説し、食品の栄養特性、物性等について項目ごとに解説したスライド資料と詳細な補足資料とを作成した。(現在に至る)</p> <p>植物性、動物性食品の成分と機能性など「食べ物と健康」分野について項目ごとに簡潔に解説したテキストを作成し、同時に図表写真などを中心としたスライドをプレゼンテーションアプリケーションを用いてを作成し、学習のポイントを明確にすることによって学生の勉学意欲の向上を図った。(至H20年7月)</p> <p>各種食品に含まれる「食べ物と健康」分野について項目ごとに簡潔に解説したテキストを作成し、同時に図表写真などを中心としたスライドをプレゼンテーションアプリケーションを用いて作成し、学習のポイントを明確にすることによって学生の勉学意欲の向上を図った。(現在に至る)</p>

<p>・食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学 第1版 5刷</p> <p>・食べ物と健康 II 食品と特性 初版 第4刷</p> <p>・食べ物と健康 I 食品と成分 初版 第5刷</p> <p>・Nブックス実験シリーズ 食品学実験 初版 第1刷</p>	<p>平成20年2月</p> <p>平成21年3月</p> <p>平成21年4月</p> <p>平成21年4月</p>	<p>(共著 医歯薬出版 東京) 管理栄養士養成課程の食品学教育のために編纂した教科書として分担執筆した。Chapter. VII 各種食品の栄養特性、加工特性と機能特性 1. 農産食品 (p. 141~170)、練習問題 (p. 251~253)、練習問題解答 (p. 276~278) を担当し、作物としての特徴とその成分、さらに機能性について最新のデータを用いて解説した。(共著者) 長澤治子、川端康之、中野隆之、市川和昭、和田律子、白土英樹、吉田博、竜口和恵、阿部一博、真部孝明、中河原俊治、木村万里子、高松伸枝 (再掲)</p> <p>(共著 三共出版 東京) 管理栄養士養成課程の食品学教育のために編纂した教科書として分担執筆し、4. その他の食品 4-2. し好飲料 (p. 104~109)、4-4. 微生物利用食品 (p. 118~129) を担当し、食品の成分とその特徴、さらにその機能性について最新のデータを用いて解説した。(共著者) 荒川義人、池添博彦、太田智樹、小川貴代、鮫島邦彦、中河原俊治、前田利恭、松坂裕子 (再掲)</p> <p>(共著 三共出版 東京) 管理栄養士養成課程の食品学教育のために編纂した教科書として分担執筆した。第3章 食品成分の特性と化学構造 3-4. たんぱく質 (p. 43~58)、3-5. 酵素 (p. 58~64) を担当し、基本的な栄養素としてのたんぱく質の化学的特徴とその機能、並びに食品としての特徴について解説した。(共著者) 知地英征、荒川義人、池添博彦、葛西隆則、鮫島邦彦、中河原俊治、藤島利夫、前田利恭 (再掲)</p> <p>(共著 建帛社 東京) 管理栄養士養成課程・栄養士養成課程の食品学教育のために編纂した詳細な実験書として分担執筆した。第2章 食品成分の性質と変化 7. 食品の色素と変色 (p. 64~77) を担当し、化学実験の基礎的なトレーニングとして初心者にも興味を持たせられるように身近な食品を実験材料に選定し内容を工夫した。(共著者) 青柳康夫、有田政信、海老塚広子、小嶋文博、川端康之、竹山恵美子、中川禎人、中河原俊治、福島正子、間瀬民生、三宅義明、茂木秀喜 (再掲)</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		

4 その他教育活動上特記すべき事項 ・学内国家試験対策講習会 ・教育研究農場の活用	平成18年4月	年4回の国家試験対策講習会において「食べ物と健康」を担当し、これ以外の時期にも随時行っている。(現在に至る)
	平成17年4月	野菜・果実類を栽培することによって食品の生産について学生が実体験として経験することを目的とした学科付属農場を活用している。収穫した作物は食品加工学実習、調理科学実習などで使用し、生産・製造・消費までを概観できるようにした。農場を利用して活動する学生サークルも結成され多くの学生に利用されており、またそれが本学の特色のひとつにもなっている。(現在に至る)

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学	共著	平成20年2月	医歯薬出版 東京	長澤治子、川端康之、中野隆之、市川和昭、和田律子、白土英樹、吉田博、竜口和恵、阿部一博、真部孝明、中河原俊治、木村万里子、高松伸枝	pp. 141-170 pp. 251-253 pp. 276-278
食べ物と健康 II 食品と特性	共著	平成21年3月	三共出版 東京	荒川義人、池添博彦、太田智樹、小川貴代、鮫島邦彦、中河原俊治、前田利恭、松坂裕子	pp. 104-109 pp. 118-129
食べ物と健康 I 食品と成分	共著	平成21年4月	三共出版 東京	知地英征、荒川義人、池添博彦、葛西隆則、鮫島邦彦、中河原俊治、藤島利夫、前田利恭	pp. 43-58 pp. 58-64
Nブックス実験シリーズ 食品学実験	共著	平成21年4月	建帛社 東京	青柳康夫、有田政信、海老塚広子、小嶋文博、川端康之、竹山恵美子、中川禎人、中河原俊治、福島正子、間瀬民生、三宅義明、茂木秀喜	pp. 64-77
<論文>					

＜その他＞					
アスパラガス擬葉乾燥粉末の摂取による脂質代謝への影響	共著	平成20年5月	第62回日本栄養・食糧学会大会(埼玉)	山腰智子、奥村純子、金澤匠、佐藤博二、福島道広、西村直道、中河原俊治、知地英征	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
Effect of asparagus cladophylls on lipid metabolism in rats.	共著	平成20年9月	第15回国際栄養士会議(神奈川) Abstract book	Tomoko Yamakoshi, Junko Okumura, Takumi Kanazawa, Hiroji Sato, Seisuke Mtonishi, Michihiro Fukushima, Naomichi Nishimura, Shunji Nakagawara, Hideyuki Chiji	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
E L S D-H P L Cによる食肉中のL-カルノシン・L-アンセリンの定量	共著	平成21年9月	第56回日本栄養改善学会学術総会(札幌)講演要旨集	佐藤 真奈美、加勢 宏樹、森 樹沙、榎野いく子、知地 英征、中河原 俊治	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
昭和56年4月(現在に至る)		日本農芸化学会正会員			
昭和62年4月(現在に至る)		American Society of Plant Biologists正会員			
平成13年4月(現在に至る)		日本栄養・食糧学会正会員			
平成17年3月(現在に至る)		日本農芸化学会2005年度大会実行委員会学術委員			
平成15年6月(現在に至る)		北方性機能性植物研究会会員			
平成16年4月(現在に至る)		北海道バイオ産業振興協会会員			
平成17年4月(現在に至る)		グリーンテクノバンク正会員			
平成21年4月(現在に至る)		日本栄養改善学会正会員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	中矢 雅明	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・「食べ物の成り立ち」教育方法の工夫		平成20年7月		講義において理解度を高めることが難しい場合は、視覚に頼ることが多い。食品の物性に関わる講義で触覚を利用し、深く印象に残した。			
・「人間科学総合講座」出席率の改善		平成21年4～8月		学生150名のオムニバス授業、毎回授業開始前の10分間スピーチ及び重複出欠チェックによる出席率を著しく改善した。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
・明清高校食物科体験学習「卵の科学」講演		平成21年10月1日		大学の授業を短時間で紹介し、卵を通して科学発展の流れと研究への興味・関心を持たせるよう解説した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
テーブルコーディネートの誕生とその機能	共著	平成18年3月	北海道文教大学、北海道文教大学研究紀要第30号	◎中矢雅明・清水千晶・荒井三津子	13頁～35頁
「現代の食事作法－家庭の教育と新しい方向性－」	共著	平成19年3月	北海道文教大学、北海道文教大学研究紀要第31号	清水千晶・荒井三津子・◎中矢雅明	43頁～55頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成14年6月29日～現在		恵庭市学校給食協会理事			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	真嶋 光雄	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書 ・栄養学実験～実験書		平成17年4月	北海道文教大学における担当授業科目「栄養学実験」では、学生にとってより分りやすい実験書としてのプリントを作成し、これを教材とした。(現在に至る)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						
<論文>						

＜その他＞					
研究技術指導					
化学処理によるグリコサミノグリカンオリゴ糖の調製法	単著	平成20年11月	弘前大学大学院医学研究科 附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学講座		
グリコサミノグリカンオリゴ糖の分離方法	単著	平成21年6月	弘前大学大学院医学研究科 附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学講座		
III 学会等および社会における主な活動					
Comparative studies of 4-methylumbelliferone-derivatives-mediated inhibitory effect on hyaluronan synthesis		平成17年10月。第78回日本生化学会大会(抄録：生化学77巻8号)			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	宮下 洋子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
	(1) 視聴覚教材の活用	平成17年4月～現在	学生の理解を助けるため、プレゼンテーションソフトを使用し、スライド、動画、ビデオ等を活用した授業を行っている。			
	(2) 講義前後のクイズ形式の小テスト	平成17年4月～現在	学生の予備知識、理解度、疑問点などを把握でき、次回の講義に反映させることができる			
	(3) 札幌医科大学標本館での見学・体験学習	平成21年11月	北海道文教大学健康栄養学科第2学年の解剖生理実習において、札幌医科大学標本館の見学・体験学習を行なっている。ヒトの各発生段階標本、病理標本、法医学標本などに実際に接し、生命の不思議さと尊さを学ぶことができる			
2	作成した教科書、教材、参考書					
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項					
	(1) 学生の講義感想文の編集・発行	平成19年3月	札幌医科大学医学部第1学年の講義科目「21世紀問題群—地球環境問題」のコーディネーターを務めた。学外講師5名を含む各分野の先端研究者を講師に招き行われた。講師の先生たちの講義で伝えたいこと、また全講義に対する受講生の感想文をまとめて冊子として発行した。			
	(2) 特色ある大学教育支援プログラム「学部一貫教育による地域医療マインドの形成」(特色GP)	平成20年8月	札幌医科大学の医学部と保健医療学部の1学年を対称にこの特色GPの一部である「利尻島における離島医療実習」が行われた。このプロジェクトに加わり主に生物学実習を担当した。			

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<論文>					
男女高校生ならびに男女学生の食生活を中心とした生活習慣調査	共著	平成17年(2005)	札幌医科大学保健医療学部紀要 8	高橋英子、川端朋枝、皆川智子、宮下洋子、山田正二、山田恵子	pp. 99-106
Thermoreceptive and photoreceptive pigment cells as sensors of changing environmental conditions.	共著	平成17年(2005)	Zool Sci 22	Miyashita Y and Moriya T	pp.1383-1384
専門学校生に対する呼気CO濃度測定を用いた実効的禁煙教育	共著	平成18年(2006)	札幌医科大学保健医療学部紀 9	高橋英子、山田正二、武田秀勝、宮下洋子、山田恵子	pp. 17-23
Color Changes and behavior in Siamese Fighting Fish (Betta splendens) I Cellular receptors concerned in melanophore movements.	共著	平成18年(2006)	J Lib Arts & Sci Sapporo Med Univ. 47	Miyashita Y, Yamada K, Moriya T.	pp. 59-68
Misconception about Self-evaluated Physique and Interest in Shape and Weight Control/loss Behaviors in Adolescent Males Desiring Weight Loss.	共著	平成19年(2007)	School Health 3	Yamada K, Takahashi H, Miyashita Y, Yamaguti A, Takeda H, Yamada S.	pp. 30-38
医療系男子専門学校生の骨の健康に対する関心の有無は食を中心とした生活習慣や自覚的健康状態と関係する	共著	平成19年(2007)	札幌医科大学保健医療学部紀要 10	高橋英子、山田正二、宮下洋子、三上智子、山田恵子	pp. 1-9

マイクロバブルのサイズと通気水槽の酸素濃度の測定	共著	平成19年(2007)	札幌医科大学人文自然科学紀要48	山田大邦, 宮下洋子	pp. 11-17
ユキムシ飼育環境作成と綿毛成長の測定	共著	平成19年(2007)	札幌医科大学人文自然科学紀要48	山田大邦, 宮下洋子	pp. 19-23
Measurement of temperature preference of various small poikilotherms using a temperature gradient apparatus.	共著	平成19年(2007)	J Lib Arts & Sci Sapporo Med Univ. 48	Moriya T, Miyashita Y, Yamada H, Katagiri C, Tanaka K, Watari Y, Furukawa Y	pp. 25-36
利尻島における離島地域医療実習から得た学生の学び ー参加学生の実習後レポートの分析ー	共著	平成21年(2009)	札幌医科大学保健医療学部紀要12	仲田みぎわ、山田恵子、高橋延昭、宮下洋子、片倉洋子、石川 朗、田野英里香、明石浩史、相馬 仁	印刷中
〈国際学会〉					
Differences in dietary habits and other health-related behaviors between pubescent and adolescent Japanese male and female students.	共著	平成17年(2005)	18th International Congress of Nutrition, Durban, Republic of South Africa 19-23 September 2005.	Yamada K, Yamada S, Kawabata S, Miyashita Y, Takahashi H	
Characterization of white colored waxy strands of woolly ash aphid, Prociphilus oriens Mordvilko. Characterization of white colored waxy strands of woolly ash aphid, Prociphilus oriens Mordvilko.	共著	平成18年(2006)	5th International Symposium on Molecular Insect Science, Arizona 20-24 May 2006.	Katagiri C., Yamada H., Miyashita Y. Akimoto S.	

Understanding of lipid nutrition and dietary habits with intake of food high infat and oil in male and female vocational school and university students in japan	共著	平成21年 (2009)	19th International Congress of Nutrition in Bangkok 4th-9th October 2009.	Yamada K, Miyashita Y, Takahashi H, Oyama Y, Shibuya K, Mikami, T Yamada S,	
<学会発表>					
皮膚色素細胞の光応答	共著	平成17年(2005)	分子研研究会 「ロドプシンの仲間・G蛋白質共役型レセプターの機能と構造」 岡崎 6月4日	宮下洋子, 山田大邦, 山田恵子, 森谷常生	
トドノネオオワタムシ有翅成虫(ユキムシ)の綿毛の構造と機能	共著	平成17年(2005)	第65回日本昆虫学会大会要旨	山田大邦, 宮下洋子, 片桐千仞, 秋元信一	p55
ユキムシ(トドノネオオワタムシ)の綿毛の組成2	共著	平成17年(2005)	第65回日本昆虫学会大会要旨	山田大邦, 宮下洋子, 片桐千仞, 秋元信一	p55
タマネギバエ幼生の光受容	共著	平成18年(2006)	第66回日本昆虫学会大会要旨	宮下洋子, 山田大邦, 渡 康彦, 田中一裕, 片桐 千仞, 森谷常生	p51
ユキムシ(トドノネオオワタムシ)の綿毛と発生基部の構造.	共著	平成18年(2006)	第66回日本昆虫学会大会要旨	山田大邦, 宮下洋子, 片桐千仞, 秋元信一	p96
ユキムシ(トドノネオオワタムシ)の綿毛の組成3	共著	平成18年(2006)	第66回日本昆虫学会大会要旨	107 片桐千仞, 山田大邦, 宮下洋子, 秋元信一	p95
Characterization of white colored waxy strands of woolly ash aphid, Prociphilus oriens Mordvilko	共著	平成18年(2006)	Zool Sci 23	108 Katagiri C, Yamada H, Miyashita Y, Akimoto S.	p1206
タマネギバエの概日歩行活動リズム光同調における波長依存性	共著	平成19年(2007)	第67回日本昆虫学会要旨	110 宮下洋子, 山田大邦, 渡 康彦, 田中一裕, 片桐 千仞	p46
ユキムシ(トドノネオオワタムシ)有性世代の綿毛	共著	平成19年(2007)	第67回日本昆虫学会要旨	109 山田大邦, 宮下洋子, 片桐千仞, 秋元信一	p93

ヨトウガ蛹のワックス層	共著	平成20年(2008)	第68回日本昆虫学会要旨	山田大邦、片桐千仞、木村勇司、田中一裕、渡康彦、宮下洋子	p89
トドノネオオワタムシ(ユキムシ)とエゾヨスジワタムシの綿毛構造の比較	共著	平成21年(2009)	第69回日本昆虫学会要旨	山田大邦、片桐千仞、宮下洋子、秋元信一	p73
ユキムシ(トドノネオオワタムシ:Prociphilus oriens)の綿毛;組成と構造	共著	平成21年(2009)	第51回日本脂質生化学会	片桐千仞、山田大邦、高橋浩、上野聡、秋元信一、宮下洋子	p73
<その他>					
皮膚色素細胞の光応答	単著	平成18年(2006)	平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書(14540631)		
2006年度 札幌医科大学第1学年 授業科目「21世紀問題群」-地球環境問題- 受講学生の感想文		平成19年(2007)	札幌医科大学医学部生物学	宮下洋子(編集)	p150
医学部・保健医療学部1年生を対象とした利尻島における離島地域医療実習 I 学習目標と実習内容	共著	平成21年(2009)	札幌医科大学人文自然科学紀要50	山田恵子、高橋延昭、宮下洋子、仲田みぎわ、石川 朗、片倉洋子、田野英里香、相馬 仁	印刷中
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
第20回色素細胞学会国際連合学術会議 第5回メラノーマ研究会 学会国際コンgres合同会議	平成20年(2008) 5月7日～12日札幌で開催された合同会議の事務局メンバーとして運営に参加				

- [注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	荒井 三津子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
①視聴覚器材の効率的な利用		平成17年～現在	①生命科学、食生活論ともに、文系と理系の学生が混在する講義のため、より多くの学生が興味を持てる資料を、OHPとパワーポイントで作成し、学習意欲の向上につなげている。			
②授業内でのレポート作成		平成19年～現在	②学生の理解度を把握するために、講義内容等のレポートを授業の終りに書かせ、指導法の改善と授業の進行に役立てている。			
③サブテキストの選択と利用		平成18年～現在	③生命科学の講義に際して、学生たちの高校時代の生物の履修状況に差が大きいことを鑑み、サブテキストとして生物学関連の一般新書を選択し、生命科学に興味を持たせ、学習意欲を喚起している。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・教材プリントの作成		平成17～現在	受講する学生の専攻分野が多岐に渡るため、一冊の特定の教科書を選定するのは難しいので、数多い教科書から必要な内容を抜粋し、授業中提示したパワーポイント等をまとめたプリントを配布している。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
<論文>					
食生活の変遷—その現状と問題—	共著	平成17年3月	北海道文教大学紀要29号	中矢雅明・清水千昌・荒井三津子	1頁～14頁
テーブルコーディネートの誕生 とその機能	共著	平成18年3月	北海道文教大学紀要30号	中矢雅明・清水千昌・荒井三津子	13頁～35頁
現代の食作法—家庭の教育と新 しい方向性—	共著	平成19年3月	北海道文教大学紀要31号	荒井三津子・清水千昌・中矢雅明	43頁～55頁
食卓の縁起に関する研究—恵方巻 の受容とその背景—	共著	平成20年3月	北海道文教大学紀要32号	荒井三津子・清水千昌	131頁～143頁
年中行事の菓子—日本と中国の 比較研究—	共著	平成23年 3月	北海道文教大学紀要33号	荒井三津子・云 梢梅	69頁～80頁
<その他>					
「HAVE A NICE TABLE」、 「NICE CUP OF TEA」他	単著	平成4年～平成20年	日本建材新聞社 月刊連載		
荒井三津子の暮らしのパレット	単著	平成13年～現在	函館新聞社 週刊連載		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成4年～平成19年	生活文化学会会員
平成9年～現在	日本生活文化史学会会員
平成11年～現在	人と動物の関係学会会員
平成21年～現在	日本食生活学会会員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	近藤 文衛	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 毎回、説明資料を作成し使用		平成17～現在	説明資料を作成し、テキストと併用することにより理解度を高めた。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 毎講義ごとにプリントを作成		平成17～現在	病理学アトラスを併用し、さらに国家試験を視野に入れ講義内容をまとめたプリントを配付している。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 他大学標本館を利用した学習 ・ モデル人形を活用した実習		平成17年度 平成17年度	他大学標本館を利用して、人体の系統解剖、病理解剖標本の観察スケッチ、病理解剖のビデオによる学習を取り入れた。 人体モデルを使って救急蘇生法、AEDの実習を取り入れた。			
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年4月1日～現在に至る	恵庭市長寿大学学習プログラム検討委員会 委員				
平成17年9月	北海道文教大学公開講座 「老いのパラダイム」				
平成20年9月	恵庭市長寿大学講座 「老いを考える」				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	中島 亮	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・講義の終わりに10分間テストを実施 ・分子模型による有機分子の構築を体験させる。		平成17年度～現在 平成17年度～現在	目的：①授業への集中力を高めること ②工具内容の理解度をたしかめること 添削して返すことや、次の授業で復習することにより理解度を高める試みとして続けた。 化学結合・分子の形に対する理解を促すと共に化学へのハードルを低くする目的で行ってきた。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・毎講義ごとにプリントを作成 内容：①基礎知識の補充 ②教科書の要約			授業時間 (単位数) と学生の理解度に則した内容のプリントを作成。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・平成20年度、平成21年度入学試験問題を作成 (化学)						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	笹谷 美恵子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
<教科書> ・栄養教育論 ・小児栄養・実践書 ・地域栄養活動論		平成17年4月 平成18年4月 平成20年4月	<p>生活習慣病が増加していく中で、これらの疾患と関係の深い食生活の改善や教育の充実を図ることの必要性から、栄養教育のあり方を社会的ニーズに沿って解説。(執筆)井川聡子、江田節子、落合敏、笹谷美恵子、鈴木里子(担当部分) p 11-18・67-80・123・129-136・162-168/医歯薬出版株式会社</p> <p>内科・外科医、歯科医師、検査技師、保育士、栄養士と共著で、小児の疾病も理解しながら発育要件を踏まえ、食育のあり方を多面的に理解する。(編者)笹谷美恵子、江田節子(執筆)工藤協志、平間敏憲、老克敏、千葉加名代、山田りよ子、三田村理恵子、菊池和美、小松信隆、山際睦子、江田節子、野田艶子、久保ちづる、緑川英子、笹谷美恵子(担当部分)第1章、第11章症例/同文書院</p> <p>地域における栄養活動プログラムの円滑な展開を図り、活動の目的を達成できるように、住民参加型のワークショップ形式の実践例を解説。更に、国際活動を展開して、NGOの活躍なども学べる書である。(編者)笹谷美恵子、江田節子(執事)石川みどり、岡崎眞、川名伸治、川中信、菊地和美、佐藤香苗、手嶋哲子、藤田智子、山内美穂、江田節子、笹谷美恵子(担当部分、編集及び第1章1.2.3.4、第6章1.、第8章4.)同文書院</p>			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
1 栄養教育論	共著	平成17年4月	医歯薬出版株式会社	井川聡子、江田節子、落合敏、笹谷美恵子、鈴木里子	pp. 11-18・67-80・123・129-136・162-168
2 小児栄養実践書	共著	平成18年4月	同文書院	編者：笹谷美恵子、江田節子	第1章、第11章症例
3 地域栄養活動論	共著	平成20年4月	同文書院	編者：笹谷美恵子、江田節子	第1章1・2・3・4、第6章1、第8章4
< 論文 >					
1 ゼリー状寒天ドリンク摂取による大学生の排便状況の改善効果	共著	平成18年	健康・栄養食品研究学術雑誌 vol. 9 No. 2 2006	宮下博紀、明尾一実、沖村由香、笹谷美恵子、山内美穂、清水千晶、佐々木一晃	pp. 1-8
2 幼児の生活習慣、食生活状況と乳歯ウ蝕との関連	共著	平成19年	小児保健研究学術雑誌 vol. 66 No. 3 2007	三田村理恵子、笹谷美恵子、山内美穂、齋藤郁子、高橋正子	pp. 442-447
< その他・学会発表 >					
1 メープルシロップの調理科学的な研究	共著	平成17年9月	平成17年度日本調理科学会 vol. 38 No. 4 2005	山岸未穂、笹谷美恵子、川村和子、本間守、楠木伊津美、高橋セツ子	p. 40
2 おいしさの評価に影響する諸因子の分析	共著	平成18年1月	第12回未病システム学会 vol. 12 No. 1 2006	高橋正子、瀧川哲夫、藤井義博、笹谷美恵子	pp. 165-166

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
未病システム学会幹事 未病専門指導士	

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	教授	氏名	濱田 康	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・臨床心理学を体験的に学べる工夫 ・心理学を体験的に学べる工夫	平成19年4月 平成21年4月	心理検査、心理療法の道具を豊富に用意した。 視覚実験、聴覚実験の道具を豊富に用意した。			
2	作成した教科書、教材、参考書 ・コーチングテキストブック (基礎編、応用編、プロ編) ・心理検査、心理療法参考資料集 (教材)	平成18年4月 平成19年4月	コーチングに関する実験的なテキストを作った。 心理の授業に適した総合的な資料集を作成した。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・北海道PTA連合会教育研究会 講師 ・大学教育に活かすコーチング研修会 講師	平成19年12月 平成20年9月	青少年心理へのアプローチ法について講義した。 教育実践にコーチングを取り入れるよう提案した。			
4	その他教育活動上特記すべき事項 ・北海道高等学校校長協会研究会 講師 ・社会教育主事研修会 講師	平成19年12月 平成20年4月	学校教職員のメンタルヘルスについて講義した。 学校教職員のコミュニケーションスキルについて講義した。			
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						
シンプル化インタビュー	単著	平成19年8月	Cosmic. Dance. Co.		p. 46	

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年4月～現在に至る		団体・法人の依頼による年間約60回の講演活動			
平成19年9月～現在に至る		北海道立高等学校スクールカウンセラー			
平成20年1月～現在に至る		北海道立生涯学習推進センター運営協議会 委員			
平成21年9月～現在に至る		北海道立生涯学習（道民活動）センター指定管理者選定委員会 委員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	准教授	氏名	小原 効	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
(1) 視覚教材の利用		平成17年4月 ～現在に至る	教育内容が医学系ということもあり、図表で説明しなければならないことが多いため、プレゼンテーションソフトを利用して解説し、講義の中で理解させることに努めている。			
(2) 小テストの実施		平成17年4月 ～現在に至る	学生の理解度を把握するとともに、学生自身の復習のために毎時間10分間程度の小テストを実施している。			
(3) 実験科目におけるデモの実施		平成17年4月 ～現在に至る	実験科目については、はじめにバックグラウンドを概説した後、教員が実験の要所をデモンストレーションし、学生の理解を深めるとともに、事故防止を啓発している。			
(4) 学生による授業評価の実施		平成17年4月 ～現在に至る	大学全体の授業評価とは別に、講義及び実験の最終日に学生による授業評価のアンケートを実施しており、次回の講義へフィードバックさせている。			
(5) 補習の実施		平成17年4月 ～現在に至る	いわゆる下位学生に対して、通常の講義とは別に、少人数で適宜補習を実施している。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
<教科書の執筆>						
(1) 「わかりやすい生化学」同文書院		平成19年5月	管理栄養士養成施設学生向けの生化学の教科書を分担で執筆した。ホルモン、免疫部分を担当した。			
(2) 「はじめてみよう生化学実験」三共出版		平成20年3月	主として管理栄養士養成施設学生向けの生化学実験の教科書を分担で執筆した。糖質の定性反応、及びSDS-PAGEの部分を担当した。			
(3) 「Nブックス実験シリーズ 生化学実験」建帛社		平成21年8月	主として管理栄養士養成施設学生向けの生化学実験の教科書を分担で執筆した。電気泳動の原理の部分を担当した。			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 北海道社会福祉協議会主催栄養士専門研修（児童施設） (2) 北海道社会福祉協議会主催栄養士専門研修（成人施設） (3) 日本メディカル給食協会主催管理栄養士国試対策講習会	平成18年9月 平成18年11月 平成19年～平成21年	幼児期の口腔衛生と栄養に関する講義を行った。 高齢期の口腔衛生と嚥下障害に関する講義を行った。 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野の講義を行った。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
<著書>					
歯科国試Answer2006 歯科保健 医療総論・歯科疾患の予防・管理	共著	平成17年6月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2007 必修の基本的事項	共著	平成18年4月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2007 歯科保健 医療総論・歯科疾患の予防・管理	共著	平成18年5月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2008 必修の基本的事項	共著	平成19年3月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2008 歯科保健 医療総論・歯科疾患の予防・管理	共著	平成19年4月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
わかりやすい生化学	共著	平成19年5月	同文書院	阿左美章治、佐藤七枝、村上誠、小原効 他	157～182頁
はじめてみよう生化学実験	共著	平成20年3月	三共出版株式会社	山本克博、小原効 他	26-27, 52-54頁
歯科国試Answer2009 必修の基本的事項	共著	平成20年4月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2009 歯科保健 医療総論・歯科疾患の予防・管理	共著	平成20年4月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	

歯科国試Answer2010 必修の基本的事項	共著	平成21年4月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2010 歯科医学総論	共著	平成21年5月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
歯科国試Answer2010 歯科保健医療総論、歯科疾患の予防・管理	共著	平成21年5月	医学評論社	小原効、加藤和秀 他	
Nブックス実験シリーズ 生化学実験	共著	平成21年8月	建帛社	後藤潔、小原効 他	105～109頁
<論文>					
高齢者の社会活動と摂食・食生活を含めた生活習慣との関連	共著	平成17年3月	北海道食品科学技術振興財団調査・研究報告(No. 10)	小原効、新井田洋子、清水千晶、安田直美	49～56頁
西米良村の保育園児における口腔衛生の現状について	共著	平成18年10月	宮崎県国保地域医療学会誌(17)	小原効、東中修一、中武清美、川口和代、高森晃一	110～114頁
<その他>					
III 学会等および社会における主な活動					
平成15年4月～平成22年10月		日本栄養改善学会評議員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	准教授	氏名	田中 律子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書 ・給食経営管理・運営論 改定第4版第2刷発行 ・給食経営管理実習記録ノート		平成20年4月1日 平成21年9月	同文書院 発行 (平成15年5月20日初版) 授業の記録ノートとして毎年改定			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・大学1年生の食生活に関する実態調査 ・給食経営管理実習におけるスチームコンベクション オープンの用効果 ・給食経営管理実習における手洗いの2回洗浄効果について		平成19年9月 平成20年9月 平成21年9月	第54回日本栄養改善学会学術総会 示説発表 第55回日本栄養改善学会学術総会 示説発表 第56回日本栄養改善学会学術総会 示説発表			
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						

<論文>					
大学1年生の食生活に関する実態調査	共著	2007年3月	北海道文教大学研究紀要第31号	◎安田直美・坂本恵・齋藤郁子	99～115項
学生の意識を引き出す臨地実習の取り組み	共著	2007年3月	北海道文教大学研究紀要第31号	◎手嶋哲子・侘美靖・安田直美	115～126項
スチームコンベクションオープンとガス回転釜における活用効果	共著	2008年3月	北海道文教大学研究紀要第32号	◎諸橋京美・石澤恵美子	155～159項
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成16年4月～18年3月	(社) 北海道栄養士会 理事・事業部長・研究教育栄養士協議会 会長				
平成20年4月～22年3月	(社) 日本栄養士会 幹事				
平成20年7月～21年9月	第56回日本栄養改善学会学術総会 実行委員会 広報・渉外委員長				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	人間科学部 健康栄養学科	職名	准教授	氏名	峯尾 仁	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・食品衛生学講義		2007年度以降毎年	食品衛生学の講義に際し、視覚的教育効果が期待される分野、統計表やグラフ、動植物に起因する食中毒に関して、パワーポイントを活用して、教科書の文章にあった画像をみせることにより、わかりやすい講義をこころがけた。また、教科書の各章ごとに設問を設定し、指名した学生に回答させ、その内容について解説して、講義内容の把握度合いを学生自身がチェックできるようなシステムをつくり教育効果を高めた。			
・食品衛生学実験		2008年度以降毎年	実験項目を細菌学・化学分析に分け、それぞれの項目が終了するごとに研究報告会を実施した。各個人が必ず1回は報告会で各自のデータを発表し説明をする機会を設けることで、実験内容の理解度が深まると同時に、プレゼンテーション技術の向上にもつながった。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
・食品科学 (まとめとキーワード)		2007年度以降毎年	講義の重要ポイントとキーワードを教科書と連動して検索できるプリントを作成し配布した。			
・食品衛生学 (まとめとキーワード)		2007年度以降毎年	講義の重要ポイントとキーワードを教科書と連動して検索できるプリントを作成し配布した。			
・食品衛生学 (食中毒原因動植物)		2007年度以降毎年	自然毒に起因する食中毒に関して、原因となる動植物のカラー写真を取り入れた図説を作成し、希望者に電子データとして配布した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
難消化性オリゴ糖類による腸管 のカルシウム吸収亢進メカニズ ムについて	単著	2005年1月	特定非営利活動法人 国際生命 科学研究機構 ILSI Japan 85		pp. 23 - 33
Mechanism for stimulatory effect of indigestible oligosaccharides on passive calcium absorption form the small intestine.	単著	2005年11月	財団法人日本食品化学振興財団 Food & Food Ingredient Journal of Japan 210		pp. 1001 - 1007
< 論文 >					
Structure-dependant and receptor-independe nt increase in osmotic fragility of rat erythrocytes by short-chain fatty acids. proliferation in isolated rat cecal mucosa	共著	2005年2月	Biochimica Biophysica Acta Biomembrane 1713	©Mineo, H., Hara, H.	pp. 113-117
Two weeks feeding of difructose anhydride III enhances calcium absorptive activity with epithelial cell proliferation in isolated rat cecal mucosa	共著	2006年3月	Nutrition 22	©Mineo, H., Amano, M., Chiji, H., Shigematsu, N., Tomita, F., Hara, H.	pp. 312-320
Newly developed primary culture of rat visceral adipocytes and their characteristics in vitro.	共著	2006年4月	Cell Biology International 30	©Shimizu, K., Sakai, M., Ando, M., Chiji, H., Kawada, T., Mineo, H., Taira, T.	pp. 381-388

Ingestion of potato starch decreases chymotrypsin but does not affect trypsin, amylase or lipase activity in the pancreas in rats.	共著	2007年2月	Nutrition Research 27	©Mineo, H., Ishida, K., Morikawa, N., Ohmi, S., Machida, A., Noda, T., Fukushima, M., Chiji, H.	pp. 113-118
Chemical specificity in short-chain fatty acids and their analogues in increasing osmotic fragility in rat erythrocytes in vitro.	共著	2007年6月	Biochimica Biophysica Acta Biomembrane 1768	©Mineo, H., Hara, H.	pp. 1448-1453
Thiazolidinediones exhibit different effects on preadipocytes isolated from rat mesenteric fat tissue and cell line 3T3-L cells derived from mice. y in rat erythrocytes in vitro.	共著	2007年9月	Cell Biology International 31	©Mineo, H., Oda, C., Chiji, H., Kawada, T., Shimizu, K., Taira, T.	pp. 703-710
Ingestion of gelatinized potato starch containing a high level of phosphorus decreases serum and liver lipids in rats	共著	2008年6月	Journal of Oleo Science 57	©Kanzawa T., Atumi M., Mineo H., Fukushim M., Nishimura N., Noda T., Chiji H.	pp. 335-343
Feeding of potato starch increases maltase and sucrase activity only in duodenal segment of the small intestine in rats	共著	2009年3月	Journal of Applied Glycoscience 55	©Mineo, H., Kanazawa, T., Morikawa, N., Ishida, K., Ohmi, S., Machida, A., Noda, T., Fukushima, M., Chiji, H.	pp. 203-209
Ingestion of potato starch containing high levels of esterified phosphorus reduces calcium and magnesium absorption and their femoral retention in rats	共著	2009年	Nutrition Research 29	©Mineo, H., Ohmi, S., Ishida, K., Morikawa, N., Machida, A., Kanazawa, T., Chiji, H., Fukushima, M., Noda, T.	pp. 648-655

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
昭和58年4月～平成8年3月	日本獣医学会会員
平成8年4月～現在	日本獣医学会評議員
平成11年4月～現在	日本栄養食糧学会会員
平成11年4月～現在	日本消化吸収学会会員
平成11年4月～現在	日本食物繊維研究会会員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	井本 佳宏	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・ミニレポートの活用による、講義形式の授業における双方向性確保のための工夫			平成 20年度 21年度	北海道文教大学において担当している現代の教育、教育原理論、教育行政論の授業では、講義形式の授業においても双方向性を確保し、学生の主体的な参加を促すため、ミニレポートを活用している。これにより、大人数での講義においても、受講生全体とのコミュニケーションを通じた授業の展開を図っている。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・特になし						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・特になし						
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・特になし						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						
『日本における単線型学校体系の 形成過程—ルーマン社会システム 理論による分析—』	単著	平成20年7月	東北大学出版会		(全182頁)	
『専門職養成の日本的構造』	共著	平成21年9月	玉川大学出版部	編著者：橋本鉦市 著者：石井美和、猪股歳之、井本佳宏 白旗 (京須) 希実子、鈴木道子 高橋哲、橋本鉦市、丸山和昭 渡部芳栄	84-103頁	

『世界から見た日本の教育』 (リーディングス 日本の教育と 社会 20巻)	共著	平成21年9月	日本図書センター	編著者：ローレンス・マクドナルド 監訳者：菊地栄治、山田浩之、橋本鉦市 訳者：菊地栄治、橋本鉦市、山田浩之 平山雄大、鶴海未祐子、栗原真孝 阿内春生、澤里翼、丸山和昭 井本佳宏、石井美和、大橋隆広 上寺景子、西本佳代、吉岡一志	156-171頁 172-199頁
<論文>					
「終戦前後における中等教育シ ステムの構造変動」	単著	平成17年1月	『東北教育学会研究紀要』第8号 東北教育学会		15-27頁
「1935年青年学校令の成立基盤と しての青年教育システム形成」	単著	平成17年3月	『東北大学大学院教育学研究科研 究年報』第53集第2号 東北大学大学院教育学研究科		89-103頁
「家庭科の変遷にみる戦後中等教 育システムにおける男女区分の再 編過程—ルーマンの社会システム 理論からのアプローチ—」	単著	平成18年7月	『社会学年報』第35号 東北社会学会		189-209頁
<その他>					
III 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	木藤 宏子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				平成17年～平成20年	臨地実習へのガイダンス的要素が入っている授業と「就職講座」が連携することにより、社会で活躍する管理栄養士の学外講師から、仕事内容や就職活動の実際を学び、また、就職指導のプロから、コミュニケーション術、自己分析を学ぶことが、実習準備に効果を示すことが期待できる。		
<ul style="list-style-type: none"> 「管理栄養士活動演習Ⅰ」と「就職講座」との連携授業により、臨地実習事前準備と就職活動が相乗効果を上げる 							
2 作成した教科書、教材、参考書				平成18年5月	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科発行の「臨地実習Ⅰ (給食経営管理論) 実習記録ノート」を作成		
<ul style="list-style-type: none"> 臨地実習Ⅰ (給食経営管理論) 実習記録ノート 臨地実習Ⅰ・Ⅱ 学生ポリシー&プロシージャールハンドブック 				平成20年12月	臨地実習管理運営委員会で共著 (著作者: 木藤宏子、佐藤節子、田中律子、手嶋哲子、西尾久美子)。「管理栄養士活動演習Ⅰ」の授業や臨地実習指導のテキストとして活用。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項				平成17年9・10月	平成16年からの継続特別企画事業として「食育教室」を計画実施、平成17年度からは、健康栄養学科の学生にボランティアとして、食育体験ができる機会を作り、学生の栄養教諭や管理栄養士に向けての学習活動をサポートしている。		
<ul style="list-style-type: none"> 「食育教室」の開催により、地域の子どもたちへの教育活動及び学生の食育事業への体験学習の機会を作る。 北海道文教大学「食育教室2006」の開催により、地域の子どもたちへの教育活動及び学生の食育事業への体験学習の機会を作る。 				平成18年から毎年実施	平成18年度からは、大学による地域に根ざした食育事業として毎年回数を増やしなが、恵庭市教育委員会の通学合宿や食育フェア等とも連動する事業として企画運営を担当し、学生に食育の学びの場を提供している。平成21年度は年7回6・7・8・9・10(2回)・12月に実施		

<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省学校給食DR I 策定の為の基礎資料調査である「学校給食における児童・生徒の食事摂取基準策定に関する調査」に係わる ・地域と学生が関わる中で生まれる食育推進を目指して、幼稚園への栄養教材の提供や給食試食会への参加や訪問など積極的に関わる機会を提供している 	<p>平成19年6月～平成20年12月</p> <p>平成19年3月～</p>	<p>お茶の水女子大学山本教授が統括する研究調査に参加する。恵庭市教育委員会の協力を得て、恵庭市の栄養教諭と本学の管理栄養士教職員、4年の栄養教諭課程の学生を調査員に、小学校・中学校の対象学年の保護者・生徒への説明会を実施、各3日間の食事摂取調査、生活活動記録、排便記録調査の実施を本学の責任担当者として係わる。</p> <p>食育活動の盛んな幼稚園と協力し、幼児やその保護者への食育、学生の栄養教育の実践の場として、卒業研究やゼミナール活動などの教育効果を上げている</p>
--	---	--

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
応用栄養学実習 ーライフステージ別の栄養管理ー	共著	平成17年5月	講談社サイエンティフィック	江田節子、木藤宏子、佐藤トキ子、清水典枝、白尾美佳、角田美恵、厩田昌恵、沼野富子、原田まつ子、東愛子、東川尅美、若杉人美	pp. 92～108
< 論文 >					
北海道文教大学『食育教室』実施記録 [2004～2008]	共著	平成21年3月	北海道文教大学研究紀要第33号	◎木藤宏子、手嶋哲子、諸橋京美、神原史織	pp. 151～162
< その他 >					
管理栄養士家庭を有する大学の「食育教室」への取り組みと地域との連携について	共著	平成20年11月	第7回日本栄養改善学会北海道支部学術総会講演集 p. 21	◎木藤宏子、手嶋哲子	p. 21
食育教室にスタッフとして関わる学生への教育効果	共著	平成21年9月	栄養学雑誌 Vol. 67 No. 5 第56回日本栄養改善学会学術総会講演集 (示説)	◎木藤宏子、手嶋哲子	p. 290

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
(学会)	
昭和58年4月～平成3年、平成15年4月～現在に至る	日本家政学会会員
昭和59年4月～現在に至る	日本栄養改善学会正会員
平成14年6月～現在に至る	日本保健医療行動科学会会員
平成15年11月～現在に至る	る日本栄養・食糧学会会員
平成18年12月～現在に至る	日本食育学会会員
(社会活動 委員等)	
昭和53年～56年、昭和58年4月～現在に至る	日本栄養士会・北海道栄養士会会員
平成12年4月～平成18年3月	恵庭市社会教育委員
平成13年9月～現在に至る	B P W札幌クラブ会員
平成14年10月～平成20年3月	恵庭市すこやかプラン推進協議会委員
平成17年5月～平成19年5月	恵庭市小学校給食自校炊飯方式検討委員会副委員長
平成17年11月～現在に至る	恵庭市食育推進懇話会委員
平成18年7月～平成19年3月	恵庭市子育て支援プロジェクト委員会委員
平成19年3月～平成20年3月	札幌市食に関する指導検討委員会副委員長
平成20年6月～平成21年3月	札幌地区食育推進検討委員会委員
平成20年9月～平成21年9月	第56回日本栄養改善学会学術総会実行委員会委員

(社会活動・講演など)		
平成17年6月29日	北海道立総合体育センター スポーツ教室 「親子ふれあい塾」	第4回 「栄養教室」
平成17年7月4日	北海道社会福祉協議会 平成17年度調理員専門研修会	「アレルギーと食事」 (児童施設)
平成17年10月15日	北海道教育庁石狩教育局 平成17年度 フォーラム石狩	パネディスカッション コーディネーター「なぜ『食育』が求められるのか？」
平成17年10月18日	恵庭市 市民フォーラム	パネディスカッション コーディネーター「あったか やわらか ゆったり子育て～ブックスタートで深まる親子の絆～」
平成17年10月29日	北海道栄養士会釧根支部研修会	日本人の食事摂取基準 (2005年版) ～その考え方と活用のポイント～
平成17年12月6日	北海道立総合体育センター 「きたえる きつずくらぶ (親子ふれあい塾)」	3rd.Step 「食育の話し」
平成18年3月28日	恵庭市 食育推進懇話会 食育講演会	「今、なぜ食育が必要か?～それぞれの立場でできること～」
平成18年4月5日	保育所ちびっこランド札幌支局 講演会	「乳幼児の食育について」
平成18年8月28日	豊富町立豊富保育園 子育て講演会	「食べることは 生きること」～親に与えられた最も大切な子育て 食べることを通じて子どもの心とからだを育む～」
平成18年9月5日	北海道立総合体育センター 「きたえる きつずくらぶ (親子ふれあい塾)」	「食べることは 生きること」～親に与えられた最も大切な子育て 食べることを通じて子どもの心とからだを育む～」
平成18年10月17日	恵庭市 「お母さんのためのニコニコ食育講座」	「あなたの食育、家族の食育」～おいしく、楽しく食べる～
平成19年9月25日	恵庭市 保健事業 食育講座	「楽しく食育～早寝早起き朝ごはん～」
平成19年10月12日	岩見沢市 食事バランス講演会	「あなたの食育、家族の食育」～おいしく楽しく食べる～
平成20年7月10日	(学)リズム学園 恵庭幼稚園 子育て講座	「おやつについて」
平成20年7月11日	美唄市 子育て講演会	「食べることは生きること～親に与えられた最も大切な子育て 食べ物を通じて子どもの心と身体を育む～」
平成20年9月6日	北海道自治体学会フォーラム第1分科会 コーディネーター	「子どもと育つまちづくり最前線～食育・読書・子育てから～」

平成20年10月30日	地域食育推進事業 札幌市立美しが丘小学校食育講演会	「食べる楽しさは家庭から」～今、家庭でできる食育のあり方とは～
平成21年2月26日	第3回美唄市食育推進計画策定市民検討委員会 講演	食育推進に向けた情報提供
平成21年5月22日	リズム学園 恵庭幼稚園 子育て講座	「家庭のご飯で子どもが変わる」
平成21年8月25日	中頓別町学校給食食育推進委員会食育講演会	「家のごはんで子どもが変わる」食べ物を通じて子どものからだと心を育む
平成21年10月28日	平成21年度農林水産省 につぼん食育推進事業 食育先進地モデル実証事業 講演会	「食事バランスガイドセミナー」
(社会活動 講習)		
平成17年9月10日、10月15日	北海道文教大学「食育教室2005」年2回	小学生4・5・6年生と保護者を対象とした調理実習を主とした食育教室
平成18年8月2日、9月23日、10月14日	北海道文教大学「食育教室2006」年3回	小学生4・5・6年生と保護者を対象とした調理実習を主とした食育教室
平成19年9月1日、23日、10月27日、11月10日	北海道文教大学「食育教室2007」年4回	恵庭食育フェア・通学合宿との連動、就学前の幼児と保護者を対象とした回数も増加
平成20年7月5日、8月23日、9月7日、10月10日	北海道文教大学「食育教室2008」年4回	食の体験ランド・通学合宿と連携、小学生4・5・6年生と保護者を対象とした調理実習を主とした食育教室、学校給食センターと連携
平成20年12月6日	北海道文教大学「親子わくわく料理教室」	「たのしいクリスマス」就学前の幼児と保護者を対象とした調理実習と会食を主とした食育教室
平成21年6月20日、7月4日、8月29日、9月6日、10月3日、10月31日、12月5日	北海道文教大学「食育教室2009」年7回	小学生4・5・6年生と保護者を対象（3回）、小学生・中学生と保護者を対象（1回）、就学前の幼児と保護者を対象（3回）とした調理実習を主とした食育教室を教育委員会や生産者団体と連携して実施
平成21年10月28日	札幌市第1回公私幼稚園連携研修会	「食育を意識した幼児と共に取り組める簡単料理」

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	齋藤 郁子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績				年月日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・教科書以外の資料配布等 ・復習テストや、理解したことをプレゼン				科目に理解を深めるため、教科書以外の配布資料を準備し、パワーポイントおよび、ビデオなど映像により、講義内容の更なる理解を促す。 単元ごと復習テストや、理解したことを、プレゼンする機会を提供し応用力をつける。評価 授業態度と応用力10%復習テスト40%、定期テスト50%と総合的な評価をおこなう。	
2	作成した教科書、教材、参考書 ・「いきいきゼリー食」				摂食・嚥下障害者への嚥下食テキストとして「いきいきゼリー食」のレシピ集の本を作成	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4	その他教育活動上特記すべき事項					

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
いきいきゼリー食	単著	2005. 1	厚生科学研究所		p. 71
高齢者の栄養管理	単著	2006. 9	医歯薬出版 臨床栄養 V o l 109 N o 4 臨時増刊号		pp. 584～587
在宅での栄養ケアの進め方	共著	2008. 12	日本企画		pp. 75～85
高齢者用語辞典	共著	2007. 4	中央法規		pp. 524～526
< 論文 >					
幼児の生活習慣、食生活状況と 乳歯う蝕との関係	共著	2007. 5	日本小児保健協会小児保健研究 巻66号 3	○三田村理恵子、笹谷美恵子、山内美 穂、齋藤郁子、高橋正子	pp. 442～447
幼児の食生活と虫歯について	共著	2007. 7	日本未病システム学会誌 V o l 3. 1	○山内美穂、笹谷美恵子、齋藤郁子、三 田村理恵子、高橋正子	pp. 114～115
大学1年生の食生活に関する実 態調査	共著	2007. 1	北海道文教大学紀要	○安田 直美、坂本 恵、田中 律 子、齋藤 郁子	pp. 99～115
高齢者における食環境と社会活 動の関係	共著	2007. 1	日本未病システム学会 V o l 13	○齋藤 郁子、笹谷 恵美子、山内 美 穂、韓 萌、一戸 由美	pp. 303～304
介護予防と望ましい高齢者の食 生活—老化遅延の食生活指針か らの学び—	単著	2009. 10	保健の科学 第51巻 10		pp. 713～717

＜学会発表＞					
幼稚園児の食生活と虫歯について	共著	2006. 11	日本未病システム学会	○三田村理恵子、笹谷美恵子、山内美穂、齋藤郁子、高橋正子	
高齢者における食環境と社会活動の関係	共著	2006. 11	日本未病システム学会	齋藤 郁子、笹谷 恵美子、山内 美穂、韓 萌、一戸 由美	
パッキングにおける加熱・冷却・保管について	共著	2009. 11	北海道栄養改善学会	覚張 沙奈恵、杉山 和美、齋藤 郁子	
訪栄研会員による在宅訪問栄養指導の実態調査	共著	2009. 9	日本栄養改善学会	齋藤 郁子、中村 育子、前田 佳予子、井上 啓子、高崎 美幸、水野 美千代、佐藤 慶子、工藤 美香、田中 弥生、手嶋 登志子	
III 学会等および社会における主な活動					
2005. 4～現在に至る		全国在宅訪問栄養指導研修会 北海道支部長			
2007. 4～現在に至る		北海道介護予防市町村支援委員			
2008. 4～現在に至る		北海道栄養会介護予防対策委員長			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	坂本 恵	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・小テストの実施 ・自主献立実習と媒体の作成 ・補習の実施		平成17年4月～現在に至る 平成17年4月～現在に至る 平成17年4月～現在に至る		学生の理解度を把握し、講義内容の復習のために小テストを実施している。 2年生の実習最終日にグループごとに違うテーマ (行事食や世界の料理など) による自主献立実習 (献立作成・発注・準備など) と関連する媒体 (ポスターなど) の作成を協調性と実践力を養うために実施している。 希望する学生に対して包丁の技術指導を実施している。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・教材プリントの作成		平成17年4月～現在に至る		実習関係の担当科目で使用する資料やレシピを作成し教材として使用している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・学会発表 日本調理科学会平成18年度大会 (岡山) 「大学生が次世代に伝えたい料理」 第54回日本栄養改善学会学術総会 (長崎) 「調理用語の理解と行事食の実態に関する調査」		平成18年9月 平成19年9月		本学の1年生を対象にアンケート調査と料理作成 (写真添付) を実施した。家庭料理や地域に伝承される料理を選択した学生がいた一方、調理経験不足の学生が多いことが明らかになった。 本学の1年生を対象にアンケート調査を実施した。調理用語を正しく理解している学生が少なく調理経験不足の学生が多いことが明らかになった。行事食についても個人差が大きく、担当科目の中での教育の必要性が確認された。		
4 その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
<論文>					
正月料理の実態	共著	平成17年3月	北海道文教大学紀要 第29号	坂本恵、石澤恵美子	p. 99～106
正月料理の実態 (第2報)	共著	平成18年3月	北海道文教大学紀要 第30号	坂本恵、石澤恵美子	p. 83～94
大学1年生の食生活に関する実態調査	共著	平成19年3月	北海道文教大学紀要 第31号	安田直美、坂本恵、田中律子、斎藤郁子	p. 99～115
大学1年生が考える次世代に伝えたい料理	共著	平成19年3月	北海道文教大学紀要 第31号	石澤恵美子、坂本恵、竹内奈生美	p. 75～83
北海道産機能性食材の生理機能調査と活用に関する研究	単著	平成19年3月	放送大学大学院文化科学研究科総合文化プログラム修士論文		
調理用語の理解と行事食・家庭料理の現状に関する一考察	共著	平成20年3月	北海道文教大学紀要 第31号	石澤恵美子、神原史織、坂本恵	p. 103～116
保育園児の食生活に関する検討	共著	平成20年3月	北海道文教大学紀要 第31号	安田直美、坂本恵、石澤恵美子 川畑亜矢子、島本梓	p. 117～130
北海道産機能性食材の活用が地域の活性化に与える影響について	単著	平成20年3月	Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告) 第4号		p. 86
北海道における米の摂取状況と調理状況について—年代別による比較—	共著	平成20年10月	酪農学園大学紀要第33巻第1号	菊池和美、坂本恵、石澤恵美子、中澤留美 菅原久美子、高橋セツ子、土屋律子 村上知子	p. 85～98
北海道における米の摂取・調理状況と米に対する意識調査—就業別による比較—	共著	平成21年3月	函館短期大学紀要第35号	村田まり子、坂本恵、中澤留美、鵜飼光子 芳賀みづえ、山本未穂、山口敦子	p. 13～22
北海道における米の摂取状況と利用者意識	共著	平成21年3月	食生活研究誌Vol. 29 No. 3	菅原久美子、高橋セツ子、土屋律子 菊池和美、石澤恵美子、坂本恵、中澤留美 酒向史代	p. 42～52
地産地消を生かした学校教育のあり方	共著	平成21年6月	日本調理科学会誌Vol. 42, No3. 204～207	酒向史代、坂本恵	p. 56～59

＜その他＞					
北海道の正月料理について	共著	平成17年9月	日本調理科学会平成17年度大会 (新潟)	坂本恵、石澤恵美子	
大学生が次世代に伝えたい料理	共著	平成18年9月	日本調理科学会平成18年度大会 (岡山)	坂本恵、石澤恵美子	
北海道における米の摂取・調理状況 と米に対する意識調査（第1報）	共著	平成19年8月	日本調理科学会平成19年度大会 (東京)	村上知子、菅原久美子、菊池和美 石澤恵美子、鶴飼光子、木下教子、坂本恵 酒向史代、村田まり子、山岸未穂 山口敦子、山崎圭子、高橋セツ子 土屋律子、中澤留美、芳賀みづえ	
北海道産小果実に関する調査と活用 方法の検討	共著	平成19年8月	日本調理科学会平成19年度大会 (東京)	坂本恵、石澤恵美子	
調理用語の理解と行事食の実態に関 する調査	共著	平成19年9月	第54回日本栄養改善学会学術総会 (長崎)	坂本恵、石澤恵美子	
大学1年生の食生活に関する実態調 査	共著	平成19年9月	第54回日本栄養改善学会学術総会 (長崎)	安田直美、坂本恵、田中律子、齋藤郁子	
北海道における米の摂取・調理状況 と米に対する意識調査（第3報） －米の嗜好や食頻度等の就業別によ る比較－	共著	平成20年6月	日本調理科学会東北・北海道支部 会研究発表（宮城）	村田まり子、菅原久美子、菊池和美 石澤恵美子、鶴飼光子、木下教子、坂本恵 酒向史代、村上知子、山岸未穂、山口敦子 山崎圭子、高橋セツ子、土屋律子 中澤留美、芳賀みづえ	
北海道における米の摂取・調理状況 と米に対する意識調査（第4報） －米の嗜好や食頻度等の同居家族人 数による比較－	共著	平成20年6月	日本調理科学会東北・北海道支部 会研究発表（宮城）	坂本恵、菅原久美子、菊池和美、石澤恵美子 鶴飼光子、木下教子、村田まり子、酒向史代 村上知子、山岸未穂、山口敦子、山崎圭子 高橋セツ子、土屋律子、中澤留美 芳賀みづえ	
北海道における米の摂取・調理状況 と米に対する意識調査（第2報） －米料理の実態と特徴－	共著	平成20年8月	日本調理科学会平成20年度大会 (名古屋)	村上知子、菅原久美子、菊池和美、 石澤恵美子、鶴飼光子、木下教子、村田まり子 酒向史代、坂本恵、山岸未穂、山口敦子 山崎圭子、高橋セツ子、土屋律子、中澤留美 芳賀みづえ	
北海道における米の摂取・調理状況 と米に対する意識調査（第5報） －就業別と同居家族人数からみた実 態と特徴－	共著	平成21年6月	日本調理科学会東北・北海道支部 会研究発表（秋田）	土屋律子、菅原久美子、菊池和美 石澤恵美子、鶴飼光子、木下教子 村田まり子、酒向史代、村上知子、山岸未穂 山口敦子、山崎圭子、高橋セツ子、坂本恵 中澤留美、芳賀みづえ	
健康的食行動継続のための機能的食 品活用の試み－青年期女性に対する 栄養指導の効果－	共著	平成21年9月	第56日本栄養改善学会学術総会 (札幌)	百々瀬いづみ、森谷きよし、金澤康子 清水やよい、坂本恵、関谷千尋	

カモミール茶（C茶）とローズヒップ+ハイビスカス茶（R茶）の連続摂取が食事量と体組成に及ぼす影響	共著	平成21年9月	第56日本栄養改善学会学術総会（札幌）	坂本恵、森谷きよし、百々瀬いづみ 金澤康子、清水やよい、関谷千尋	
カモミール茶（C茶）とローズヒップ+ハイビスカス茶（R茶）の連続摂取が感情と脳波に及ぼす影響	共著	平成21年9月	第56日本栄養改善学会学術総会（札幌）	清水やよい、森谷きよし、金澤康子 百々瀬いづみ、坂本恵、関谷千尋	
青年女性のカモミール茶（C茶）とローズヒップ+ハイビスカス茶（R茶）の連続摂取が夜間睡眠に及ぼす影響	共著	平成21年9月	第56日本栄養改善学会学術総会（札幌）	森谷きよし、金澤康子、百々瀬いづみ 清水やよい、坂本恵、関谷千尋	
III 学会等および社会における主な活動					
(学会・研究会)					
昭和56年4月～現在に至る	日本栄養士会会員				
昭和56年4月～現在に至る	日本栄養改善学会会員				
平成15年4月～現在に至る	日本調理科学会会員				
平成17年4月～現在に至る	日本栄養・食糧学会会員				
(社会活動等)					
平成16年5月～平成18年4月	社団法人北海道栄養士会生涯学習研修・管理栄養士国家試験準備講習実行委員会委員				
平成18年1月～現在に至る	日本調理科学会東北・北海道支部役員（事務局役員、会計）				
平成20年7月～現在に至る	北海道食品安全協議会委員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	鈴木純子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績				年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
・ 症例を用いた発見学習方式によるグループワーク				平成17年4月	予備知識無く課題提示。自ら問題点を見出し必要な知識・理論を収集して問題を解決する方法による演習。症例のビデオを見せ、その患者の栄養評価方法の検討、栄養ケアプランの検討をグループワークにより行う。各グループに発表させ、不足な点を教員が指摘をし、その問題解決方法をさらに検討してからレポートとしてまとめ提出させ評価した。	
・ 経腸栄養剤とポンプ、PEGを用いた栄養管理の実践				平成17年5月	各種経腸栄養剤の特性をとらえ、調整し栄養剤用バックを用いて実際に滴下し速度の調整を試みる。また、ポンプを利用し速度調節の管理を実際に試みる。PEGに使用するカテーテルを模擬的に使用し、理解を深める。また、このステージにある患者の栄養管理やアセスメントの特殊性を理解する。試飲し経口栄養への展開も試みた。	
・ 症例を用いた栄養ケアプラン作成としての治療食作成				平成17年10月	臨床栄養分野においては個々に対応した、栄養ケアプランが求められている。その中で大きな位置を占める治療食は現在集団給食として作成されており、患者個人への配慮にも限界がある。栄養ケアプランとしての治療食としてとらえなおすことで、治療食のあり方を検討する。	
・ 診療報酬制度の栄養管理実施加算導入に伴う、実践教育の検討				平成19年4月	栄養管理実施加算が診療報酬制度に導入され、個人々の栄養ケアプランを一定の書式で作成する能力が求められるようになった。栄養ケアプランの作成と具体的な栄養療法、食事計画について指示できる能力を身につけるため、症例にもとづいたケアプラン作成にグループ学習を取り入れた。また、グループごとにプレゼンテーションさせ、互いのプランを比較検討する機会を提供した。これらの課程を経て栄養ケアプランを作成する能力を身につけることが可能となった。	
2 作成した教科書、教材、参考書						

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
< 論文 >					
大学生における行動変容段階別 アプローチとGlycemic Index (GI) を用いた栄養教育の 検討	共著	平成18年2月	栄養学雑誌Vol. 64	鈴木純子、荒川義人、大塚吉則、安江千 歳、森谷紜	p21~29
継続栄養指導の有効性と運動療 法動機付けの検討	共著	平成18年9月	北海道大学大学院教育学研究科 紀要第99号	鈴木純子、高橋和子	p85~91
Sensitivity and specificity of published strategies using urinary creatinine excretion to identify incomplete 24-h urine collection using the p- aminobenzoic acid check method as reference.	共著	平成20年1月	Nutrition 24 (2008)	K, Murakami, S, Sasaki Y, Takahashi K, Uenishi T, Watanabe T, Kohri M, Yamasaki R, Watanabe K, Baba K, Shibata T, Takahashi H, Hayabuchi K, Ohki J, Suzuki	p16-22
Dietary glycemic index is associated with decreased premenstrual symptoms in young Japanese women.	共著	平成20年5月	Nutrition 24 (2008)	K Murakami, S Sasaki, Y Takahashi, K Uenishi, T Watanabe, T Kohri, M Yamasaki, R Watanabe, K Baba, K Shibata, T Takahashi, H Hayabuchi, K Ohki, J Suzuki	p554-561
Lower estimates of δ -5 desaturase and elongase activity are related to adverse profiles for several metabolic risk factors in young Japanese women.	共著	平成20年10月	Nutrition Research 28(2008)	Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, Watanabe T, Kohri T, Yamasaki M, Watanabe R, Baba K, Shibata K, Takahashi T, Hayabuchi H, Ohki K, Suzuki J.	p816-824

管理栄養士過程の大学生における健康行動理論を用いた栄養教育の検討	共著	平成21年3月	北海道文教大学紀要第33号	北村文恵, 西口明佳, 小檜山佳正, 高橋一郎, 鈴木純子	P81~83
糖尿病患者会参加者における食生活調査、行動変容段階および自己効力感調査	共著	平成21年3月	北海道文教大学紀要第33号	小檜山佳正, 高橋一郎, 北村文恵, 西口明佳, 鈴木純子	P89~97
Association between hardness (difficulty of chewing) of the habitual diet and premenstrual symptoms in young Japanese women.	共著	in press	Environmental Health Insights	Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, Watanabe T, Kohri T, Yamasaki M, Watanabe R, Baba K, Shibata K, Takahashi T, Hayabuchi H, Ohki K, Suzuki J.	in press
Neighborhood socioeconomic status and premenstrual symptoms: a cross-sectional study of young Japanese women.	共著	in press	Clinical Medicine: Women's Health	Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, Watanabe T, Kohri T, Yamasaki M, Muramatsu K, Baba K, Shibata K, Takahashi T, Hayabuchi H, Ohki K, Suzuki J.	in press
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成2年4月～現在に至る	日本栄養改善学会会員				
平成12年10月～現在に至る	日本糖尿病学会会員				
平成12年11月～現在に至る	日本健康・栄養システム学会会員				
平成16年2月～現在に至る	日本静脈経腸栄養学会会員				
平成16年6月～現在に至る	日本病態栄養学会会員				
平成20年7月～現在に至る	日本栄養改善学会北海道支部学術総会幹事				
平成21年4月～現在に至る	日本臨床検査医学会会員				
平成21年4月～現在に至る	日本臨床化学学会会員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	手嶋 哲子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・市町村の管理栄養士の活動事例を組み入れた授業				平成17年10月～	市町村に勤務する管理栄養士の業務計画を授業に組み入れ事業計画立案から評価までの一連の流れと管理栄養士の役割の理解を得た。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・臨地実習Ⅲ (公衆栄養学) 学生ポリシー&プロシージャハンドブック ・臨地実習Ⅲ (公衆栄養学) 事前学習ノート				平成18年5月31日 平成18年5月31日	臨地実習Ⅲの学生向け実習要項 臨地実習Ⅲの学生事前学習のための記録ノート		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<著書>							
地域栄養活動論	共著	平成20年4月	同文書院	編者：笹谷美恵子・江田節子 著者：石川みどり・岡崎眞・川名伸二・ 川中信・菊地和美・佐藤香苗・藤田智 子・山内美穂	p. 79～82 p. 105～120 p. 147～153		

＜論文＞					
学生の意欲を引き出す臨地実習の取り組み	共著	平成19年3月	北海道文教大学研究紀要31号	侘美靖・田中律子・安田直美	
釧路町における栄養調査結果について	共著	平成21年3月	北海道文教大学研究紀要33号	片村早花・佐藤理紗子・菊池裕子	
北海道文教大学『食育教室』実施記録〔2004～2008〕	共著	平成21年3月	北海道文教大学研究紀要33号	木藤宏子・諸橋京美・神原史織	
＜その他＞					
学会発表					
地域保健活動と連携した臨地実習の取り組み	単著	平成19年9月	日本栄養改善学会		
管理栄養士養成課程を有する大学の「食育教室」への取り組みと地域との連携について	共著	平成20年11月	日本栄養改善学会 北海道支部	木藤宏子	
K町における食品群・栄養素摂取の状況	共著	平成21年9月	日本栄養改善学会	菊池裕子	
食育教室にスタッフとして関わる学生への教育効果	共著	平成21年9月	日本栄養改善学会	木藤宏子	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年12月～平成19年11月	社団法人北海道栄養士会選挙管理委員会委員長				
平成18年4月～現在	恵庭市社会教育委員				
平成18年4月～現在	恵庭市生涯学習推進協議会委員				
平成20年4月～現在	北海道栄養士会研究教育栄養士協議会副会長				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	西尾久美子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						
<論文>						
保育園児を持つ保護者への食生活に関する支援の検討	共著	平成21年10月	日本未病システム学会誌 投稿中	◎西尾久美子、小塚美由記		
<その他>						

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成21年9月	日本栄養改善学会 一般演題発表				
平成21年10月	日本未病システム学会 一般演題発表				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	菅原 千鶴子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
<著書>						

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	健康栄養学科	職名	講師	氏名	杉村 留美子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			2009年～現在に至る	プロジェクターを使用してPower Pointのスライドを提示し、画像や図表などを多く示すことで、講義内容を少しでもイメージしやすく、理解できるようにしている。		
・講義における視聴覚教材の活用			2006年～現在に至る	パソコンの教室を使用して、日々更新される新しい情報を確認し、それを活用できる方法について示すようにしている。		
・演習におけるインターネットの活用			2007年～現在に至る	実験終了ごとに実験結果の記録、方法の確認、そこからわかったこと等の考察をレポートとしてまとめることにより、理解を深め、わからないことに気付く効果があると考え、実践している。		
・実験におけるレポート作成の効果						
2 作成した教科書、教材、参考書			2006年9月	栄養教育論・栄養指導論を基礎とした実習書として、人々の健康を守り、育むための食生活のあり方を指導し、対象者の食行動の変容を目的としている。実際面で活用しやすい指導案などを提示し、現場で使用されている教材・資料を取り入れて、実践に即した情報源の提示をしている。		
・栄養教育・指導実習入門						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			2007年9月4日	2～3歳の子をもつ親を対象に「食育のはなし」と題して講演。幼児期における食事のポイントなど質疑応答の時間を設けながら行った。		
・きたえるキッズクラブ (親子ふれあい塾) 講師 北海道立総合体育センターにて			2009年7月15日	調理師試験に向けた試験対策の準備講習会。科目は調理理論を担当。		
・調理師試験準備講習会 講師、豊水会館にて						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						
栄養教育・指導実習 入門 (再掲)	共著	2006年9月	同文書院	笹谷美恵子, 久保ちづる, 江田節子, 緑川英子, 野田艶子, 若杉人美, 原田まつ子, 杉村留美子, 金井智恵, 佐藤香苗	p. 95～104	

＜論文＞					
保存および加熱調理によるコマツナに含まれる硝酸の変化	単著	2005年1月	北海道教育大学大学院札幌校 修士論文		
食物繊維摂取による排便状況の改善および食生活との関連－寒天ゼリードリンクを用いて－	共著	2008年3月	日本未病システム学会雑誌 13(2)2007	山内美穂, 清水千晶, 杉村留美子, 笹谷美恵子, 明尾一美	p. 326～327
男性肥満者の寒天ゼリー摂取による体重、排便状況の変化について	共著	2009年3月	日本未病システム学会雑誌 14(2)2008	蜂谷愛, 杉村留美子, 片村早花, 笹谷美恵子	p. 186～187
＜その他＞（学会発表）					
食物繊維摂取による排便状況の改善および食生活との関連－寒天ゼリードリンクを用いて－	共著	2007年11月1日	第14回 日本未病システム学会	山内美穂, 清水千晶, 杉村留美子, 笹谷美恵子, 明尾一美	
男性肥満者の寒天ゼリー摂取による体重、排便状況の変化について	共著	2008年11月1日	第15回 日本未病システム学会	蜂谷愛, 杉村留美子, 片村早花, 笹谷美恵子	
管理栄養士養成校の女子大学生を対象とした食事調査-体格指数別による食べ方と意識の違いについて-	共著	2009年9月4日	第56回 日本栄養改善学会	片村早花, 杉村留美子, 蜂谷愛, 三田村理恵子, 笹谷美恵子	
男性肥満者の寒天ゼリーを用いた減量プログラムの検討～生活改善を目的とした栄養指導の有用性～	共著	2009年10月30日	第16回 日本未病システム学会	蜂谷愛, 片村早花, 杉村留美子, 笹谷美恵子	
III 学会等および社会における主な活動					
1996年4月～2002年3月	北海道栄養士会研究教育栄養士協議会養成施設校幹事				
1999年7月～現在	北海道栄養士会インターネット・ホームページ委員				
2000年4月～2002年3月	北海道栄養士会研究教育協議会運営委員				
2003年9月～2004年9月	日本調理科学会平成16年度全国大会実行委員				
2004年4月～2005年3月	日本栄養改善学会北海道支部会 幹事				
2008年7月～2009年9月	日本栄養改善学会学術総会実行委員会会場運営委員				

1996年4月～現在に至る	日本栄養士会、北海道栄養士会 所属
1999年4月～2005年3月 2007年11月～現在	日本栄養改善学会 所属
2000年4月～2005年3月	日本栄養・食糧学会 所属
2002年11月～2005年3月	日本健康・栄養システム学会 所属
2003年4月～2005年3月	日本調理科学会 所属
2007年7月～現在	日本未病システム学会 所属
2007年9月4日	きたえーるキッズクラブ（親子ふれあい塾）「食育のはなし」講師、北海道立総合体育センターにて（再掲）
2009年7月15日	調理師試験準備講習会「調理理論」講師、豊水会館にて（再掲）

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	青木 藩	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・講義内容について、毎講義終了時ミニテストを行うことにした。		平成18年10月1日		講義終了20分まえに短時間で解答できる問題を学生に課する。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・教科書を指定し、その中の図表をパワーポイントにする。		平成18年10月1日		講義は図表を中心にして教科書を解説する。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
医学大辞典 (改訂第2版)	共著	2009年2月	医学書院、東京	伊藤正男、井村裕夫、高久史磨 (編者)	p.316-317 p.2478		

<論文>					
1. Effects of electrical stimulation of the medullary raphe nuclei on respiratory movement in rats.	共著	2006年1月	J. Comparative Physiol. A. (192巻)	Cao Y., Fujoto Y., Matsuyama K., Aoki M.	p. 497-505
2. Projection patterns of lamina VIII commissural neurons in the lumbar spinal cord in the adult cat: an anterograde neural tracing study.	共著	2006年3月	Neuroscience (140巻)	Matsuyama, K., Kobayashi, S., Aoki M.	p. 202-208
3. Brainstem-spinal cord mechanisms involved in the generation of coordinated hopping locomotion in rabbits.	共著	2007年7月	Proceedings of the 2nd International Symposium on Mobiligence 2007	Matsuyama, K., Kobayashi, S., Aoki M.	p. 157-160
III 学会等および社会における主な活動					
平成18-19年度	文教大学術情報委員会委員：北海道文教大学で編集・発行の学術誌の編集、図書館の管理運営に委員として活動した。				
平成19-21年度	公開講座委員会委員および演者：地域および社会貢献を目的とした講義の企画および演者として活動した。				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	橘内 勇	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
大学生における猫背，腰痛，肩凝りの発現率とその対策についての調査	共著	2008年3月	北海道大学大学院教育学研究 院紀要第104号	◎橘内 勇 大塚吉則	205頁-211頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2006年4月～現在	特定非営利法人 住まいるイン旭川 理事				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	佐々木 鉄人	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ PP画面を併用した口演、サブノートとしての資料配布による ・ 医療・福祉の現場に即した実習				平成17年9月～ 平成20年9月～	シラバスの順序に沿って、教科書およびその他の書物・新聞などからの図表・写真を含んだ簡潔なPP画面を供覧しながら口演する。PP画面+αの配布資料をサブノートとして利用させる。毎回、前週の授業内容に関する小テストを施行し知識の整理・再理解を促すとともに成績評価の一部に用いる。適応科目は医学と福祉、リハビリテーション医学、整形外科学である。 学内実習室で装具の形状、機構、使用効果などを学ぶために、装具を自分で製作させ、適合チェックをするとともに、装着して自己評価させた。医療・福祉機器展示場ホールに出向き各種機器の使用体験をさせた。体験を通して自ら見出した課題および教官が与えた課題に関してレポートを提出させ、内容の指導と評価を行った。適応科目は義肢装具学実習である。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 義肢装具実習マニュアルの作成				平成20年9月 平成21年9月	義肢装具学の実習にあたって、参考にするマニュアルである。実習の目的、作製する装具の適応と使用目的、作成の手順、自分で作製した装具を使用しての各種評価の項目で構成している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 国家試験を意識した教育				平成18年9月～	理学療法学科の学生にとって、国家試験に合格すること必要条件であるが他教育機関の現状をみると必ずしも満足いく結果になっていない。国家試験問題として出題傾向の多い科目については、1年後期より各テストに国家試験類似の問題を含めたり、授業の流れの中で国家試験の解説を加えたりしている。3学年以上に対しては、国家試験を想定した実力試験を作成し、数回にわたりテストを実施している。		

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
1. 新OS NOW 26—脛骨内側 顆骨端線部骨切り術	共著	2005年5月	メジカルビュー社 東京	◎門司順一、佐々木鉄人	68～72
2. 新OS NOW 26—小児外反 膝変形の手術療法	共著	2005年5月	メジカルビュー社 東京	◎倉秀治、門司順一、佐々木鉄人	73～79
3. 実践MOOK 理学療法プラ クティス8—関節可動域制限	共著	2009年10月	文光堂 東京	◎韓萌、佐々木鉄人	12～17
<論文>					
1. Heel Cord Advancement Combined with Vulpus' Lengthening of the Gastrocnemius.	共著	2005	Clin. Orthop.434	◎Yoshimoto M., Kura H., Matsuyama T., sasaki T., et al	213～216
2. 支援費制度下における身 体障害者更生施設の実態調査 報告	共著	2005	リハ医学42	◎小池純子、佐々木鉄人、近藤克則、 他	180～183
3. 自立支援医療（更生医 療）について	単著	平成19年9月	北海道整形災害外科学会雑誌 (第49巻、第1号)		11～17
<その他>					
1. 学術・研修講演					
①義肢装具等適合判定医師研修会（日整会教育研修会認定）：処方箋・意見書の書き方 平成17年3月、平成17年12月、平成18年3月 所沢市					
②中空知整形外科医会・滝川市等4市医師会、日本医師会生涯教育講座「整形外科医が作成する意見書とその関連法について」、平成19年11月8日 滝川市					
③理学療法学科臨床指導者会議 教育講演：「運動器不安定症とは」、平成21年3月7日、札幌市					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
<医学会等における主な役職>	
昭和61年5月～現在	北海道膝関節研究会、会長→常任理事
昭和63年4月～平成19年3月	北海道整形災害外科学会、理事
平成6年年4月～現在	北海道リハビリテーション学会、理事
平成12年4月～現在	日本義肢装具学会、評議員
平成12年4月～平成17年3月	北海道整形外科勤務医会、副会長
平成13年4月～平成17年3月	日本リハビリテーション医学会、評議員
平成18年4月～現在	日本整形外科学会、「医療関連死に関する解剖モデル事業」札幌地区評価委員
<市民講座>	
平成18年9月6日	公開講座：「膝の痛み一病気の予防、治療から福祉の利用まで」 北海道文教大学主催（北海道文教大学講堂）
平成19年2月19日	シューフィッター養成講座：「足の構造と機能」、北海道靴小売協会主催（札幌総合卸センター共同会館）
平成20年7月16日	恵庭市長寿大学講義「中高年の骨と関節の痛み・・・診断, 治療, 予防」：恵庭市教育委員会主催（恵庭市民会館）
<表彰・受賞>	
平成17年11月4日	厚生労働大臣表彰 ・福祉事務所等職員功労者として
平成20年5月21日	日本整形外科学会功労賞受賞 ・日本整形外科学会の学会功労者として

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	松岡 審爾	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 学内e-learningシステムを構築中		2008年10月～		学内のe-learningシステムである北海道文教大学moodleの立ち上げおよび試行運用			
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
電子顕微鏡による水面展開(DPPC+GM3)膜における抗GM3分子の分布	共著	2006.12	札幌人文自然紀 2006, 47	◎山田大邦、松岡審爾	p. 1-6
<その他>					
Lamellar structures of ternary mixtures of GM3/SM/cholesterol.	単著	2005.11	Photon Factory Activity Report 2004 22:230		p. 230
Effect of Cholesterol on Ripple Phase in Sphingomyelin Bilayers	共著	2006.7	XIII International Conference on Small-angle Scattering (Kyoto, Japan)	M. Kinoshita, S. Kato, S. Matuoka	
NESSによるコンピューターリテラシーの考察	共著	2008.11	PCカンファレンス北海道2008実行委員会、PCカンファレンス北海道2008論文集	◎曾我聰起、松岡審爾	p. 24-27
NESSによるコンピューターリテラシーの考察II	共著	2009.8	CIEC (コンピュータ利用協議会)、2009PCカンファレンス論文集	◎曾我聰起、松岡審爾	p. 25-26
III 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	松本 博之	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・内科学 (理学療法学科, 作業療法学科)		平成19年, 20年, 21年4月ー		シラバスに則り総論, 症候学, 循環器疾患, 呼吸器疾患, 消化器疾患, 血液疾患, 代謝性疾患など.			
・神経内科学 (理学療法学科)		平成19年, 20年, 21年9月ー		シラバスに則り神経系の解剖と機能, 神経学的検査, 神経感染症, 脳血管障害, 変性疾患, 筋疾患など.			
・高次脳機能障害学 (理学療法学科)		平成20年, 21年4月ー		シラバスに則り総論, 神経心理検査, 視空間認知, 記憶障害, 失語, 失行, 失認, リハビリなど.			
・病態・治療学 I (看護学科)		平成21年4月ー		シラバスに則り概論, 感染症, 免疫・アレルギー疾患, 膠原病, 循環器, 疾患, 消化器・肝疾患など.			
・老年看護学健康論 (看護学科)		平成21年9月ー		シラバスに則り総論, 老年者に焦点をあてた脳血管障害, 高次脳機能障害, 老年者に特有な疾患など.			
2 作成した教科書, 教材, 参考書							
・内科学 (理学療法学科, 平成20年度から作業療法学科と合同講義)		平成19年, 20年, 21年4月ー		講義では学生の理解を深めるために毎回約30枚のPower Point資料を作製し配付している.			
・神経内科学 (理学療法学科, 平成20年度から作業療法学科と合同講義)		平成19年, 20年, 21年9月ー		講義では学生の理解を深めるために毎回約30枚のPower Point資料を作製し配付している.			
・高次脳機能障害学 (理学療法学科)		平成20年, 21年4月ー		講義では学生の理解を深めるために毎回約30枚のPower Point資料を作製し配付している.			
・病態・治療学 I (看護学科)		平成21年4月ー		講義では学生の理解を深めるために毎回約30枚のPower Point資料を作製し配付している.			
・老年看護学健康論 (看護学科)		平成21年9月ー		講義では学生の理解を深めるために毎回約30枚のPower Point資料を作製し配付している.			
3 教育方法・教育実践に関する発表, 講演等							

・講義形態	平成19年4月～	座席指定とし、講義中には適宜学生に質問し理解度を確認している。			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
・理学療法学科国家試験対策	平成20年～	3, 4 学年生を対象として内科学, 神経内科学の問題を作成している。			
・内科学, 神経内科学, 高次脳機能障害学, 病態・治療学 I, および老年看護健康論は, 前回の講義内容の理解度を確認する目的で毎回ミニテストを行っている。また最終の1～2回には国家試験様式の演習問題を施行し応用力の向上を図っている。これらの総合結果は期末試験前に掲示し学生各自の自覚を促している。	平成19年4月～	期末試験成績にミニテスト・演習問題の合計成績を勘案して成績評価を決めている。			
・ホームヘルパー2級養成講座; 直面する頻度の高い障害・疾病の理解 (内科系)	平成19年9月25日	脳血管障害, 循環器疾患, 呼吸器疾患, 代謝疾患, 神経・筋疾患を含む特定疾患などを講義			
・現代社会総合講座	平成18年10月3日	終末期医療について講義			
・現代社会総合講座	平成20年10月2日	医療コミュニケーションについて講義			
・ホームヘルパー2級養成講座: 直面する頻度の高い障害・疾病の理解 (内科系)	平成21年9月11日	脳血管障害, 循環器疾患, 呼吸器疾患, 代謝疾患, 神経疾患, 眼疾患, 耳疾患などを講義			
・理学療法学科の学年グループ別アドバイザー	平成19年4月～	毎年12～15名の学生を他の1名の教員とで担当している。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
1. 2007年 今日の治療指針; 急性散在性脳脊髄炎	単著	平成19年5月	医学書院	総編集: 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢	p. 647
2. 医学書院「医学大辞典」第2版; 咽頭反射など	単著	平成21年2月	医学書院	総編集: 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨	pp. 188, 355, 642, 698 1178, 1692, 2222, 2379, 2476, 2966, 2969
3. よくわかる脳卒中介護指導教本; 中枢性疼痛をどうコントロールするか	単著	平成21年7月	永井書店	編集: 畑 隆志, 蜂須賀研二	p. 222-227

＜論文＞					
1. Non-invasive positive pressure ventilation for laryngeal constriction disorder during sleep in multiple system	共著	平成18年4月	J Neurol Sci: 247	Nonaka M, Imai T, Shintani S, Kawamata M, Chiba S, © <u>Matsumoto H.</u>	p. 53-58
2. Insideous phrenic nerve involvement in postpolio syndrome	共著	平成18年5月	Internal Medicine: 45	Imai T, © <u>Matsumoto H</u>	p. 563-564
3. Single nucleotide polymorphisms and functional analysis of MxA promotor region in multiple sclerosis	共著	平成18年7月	J Neurol Sci: 249	Furuyama H, Chiba S, Okabayashi T, Yokota S, Nonaka M, Imai T, Fujii N, © <u>Matsumoto H</u>	p. 153-157
4. 手指のしびれ 手根管症候群	共著	平成18年9月	総合臨床 56	今井富裕, © <u>松本博之</u>	p. 2227-2231
＜その他＞					
1. Aging of phrenic nerve conduction	共著	平成18年9月	Clin Neurophysiol 117	Imai T, © <u>Matsumoto H</u> , Hozuki T, Tsuda E	S 225
2. 脳卒中患者の座位と立位における自覚的視性垂直位の比較	共著	平成19年5月	第42回日本理学療法学会学術大会 (新潟市)	西村由香, 吉尾雅春, 村上新治, © <u>松本博之</u>	発表
3. Comparison of subjective visual vertical deviation between sitting and standing positions in patients with stroke	共著	平成19年6月	15th International Congress of the World Confederation for Physiotherapy (Vancouver)	Nishimura Y, Murakami S, Yosio M, © <u>Matsumoto H</u>	ポスター発表
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
・学会功労会員・名誉会員	日本内科学会功労会員 (平成19年4月-)、日本神経治療学会功労会員 (平成19年6月-)、日本てんかん学会北海道地方会名誉会員 (平成20年10月14日-)、日本神経免疫学会功労会員 (平成21年4月-)				
・学会評議員	日本高次脳機能障害学会 (昭和53年11月-)、日本老年医学会 (現: 代議員 昭和56年4月-)、日本神経学会 (昭和57年5月-)、日本末梢神経学会 (平成2年6月-)、日本神経感染症学会 (平成7年7月-)、日本神経学会指導医 (平成21年8月-)				
・北海道特定疾患対策協議会	審査委員長: 筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性硬化症 (平成16年5月-) 審査委員: 皮膚筋炎・多発筋炎、パーキンソン病関連疾患 (平成16年5月-)				

・理事・世話人・幹事	北海道リハビリテーション学会（理事 昭和60年4月～）、日本老年期認知症研究会 北海道地区世話人（昭和61年7月～）、北海道アルツハイマー病研究会（幹事 平成10年7月～）、北海道リハビリテーション治療フォーラム（代表世話人 平成18年4月～）
・顧問	北海道パーキンソン病研究会（平成9年11月～）、北海道機能脳神経外科研究会（平成12年11月～）、北海道変性疾患治療研究会（平成14年9月～）、北海道神経免疫研究会（平成19年3月～）、日本神経学会北海道地方会（平成19年4月～）、北海道脳血管障害神経内科医会（平成19年8月～21年8月）、北海道頭痛勉強会（平成20年8月～）
・学会会員（功労会員，専門医，評議員記入を除く）	American Academy of Neurology（昭和47年1月～）、日本臨床神経生理学会（昭和63年6月～）、Movement Disorder Society, Japan（平成19年10月～）
・専門医	日本内科学会認定内科医（昭和63年4月～）、日本リハビリテーション医学会認定臨床医（昭和63年5月～）、日本神経学会専門医（平成1年7月～）、日本老年医学会専門医（平成3年4月～）、日本てんかん学会臨床専門医（平成14年10月～）、日本老年精神医学会専門医（平成16年6月～）、日本頭痛学会専門医（平成17年6月～）
・診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業	日本神経学会札幌地区評価委員（平成19年4月～）
・北海道文教大学市民公開講座	1. 加齢に伴う脳と神経の症状（平成18年8月23日） 2. 頭痛とその対処法（平成21年9月11日）
・特別講演	1. パーキンソン病の治療をめぐって（北海道パーキンソン病研究会，京王プラザホテル，平成18年6月24日） 2. てんかんの周辺（札幌医科大学同門会，札幌プリンスホテル，平成19年12月15日）
・北海道文化放送テレビ出演	トーク de 北海道：女性に増加 慢性頭痛・危険な頭痛，平成18年7月11日

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	宮本 重範	大学院における研究指導 担当資格 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
< 著書 >						

<論文>					
1 中国黒龍江省ジャムス康復学院での夏季セミナー報告	共著	平成19年3月	北海道文教大学研究紀要（第31号）	◎韓 萌，宮本重範	p. 57-65
2 A cadaveric study of strain on the subscapularis muscle	共著	平成19年7月	Arch Phys Med Rehabili, Vol. 88	◎Muraki T, Aoki M, Uchiyama E, Takasaki H, Murakami G, Miyamoto S	p. 941-946
3 Strain on the repaired supra- supinatus tendon during manual traction and translational glide mobilization on the glenohumeral joint: A cadaveric biomechanics study	共著	平成19年	Manual Therapy, Vol. 12	◎Muraki T, Aoki M, Uchiyama E, Miyasaka T, Murakami G, Miyamoto S	p. 231-239
4 健常人における股関節外線筋群が股関節屈曲に及ぼす影響	共著	平成20年	理学療法科学（第23巻第2号）	◎佐藤香緒里，吉郎雅春，宮本重範，乗安整而	p. 323-328
5 腸骨大腿靭帯のストレッチング肢位の検討：未固定遺体標本を用いた定量的分析	共著	平成20年	理学療法学（第35巻第7号）	◎日高恵喜，青木光広，村木孝行，泉水朝貴，藤井 岬，鈴木大輔，辰巳治之，宮本重範	p. 325-330
6 未固定標本による肩関節後方関節包の伸張肢位の検討	共著	平成20年	理学療法学（第35巻第7号）	◎泉水朝貴，青木光広，村木孝行，日高恵喜，藤井 岬，鈴木大輔，辰巳治之，宮本重範	p. 331-338
7 Stretching position for the posterior capsule of the glenohumeral joint: Strain measurement using cadaver specimens	共著	平成20年	Am J Sports Med, Vol. 36 No10	◎Izumi T, Aoki M, Muraki T, Hidaka E, Miyamoto S	p. 2014-2022

8 Lengthening of the pectoralis minor muscle during passive shoulder motions and stretching techniques: A cadaveric biomechanical study	共著	平成21年	Physical Therapy, Vol. 89 No4	©Muraki T, Aoki M, Izumi T, Fujii M, Miyamoto S	p. 2014-2022
9 Influence of elbow flexion angle on mobilization of the proximal radio-ulnar joint: A motion analysis using cadaver specimens	共著	平成21年	Manual Therapy, Vol. 14	©Ohshiro S, Hidaka E, Miyamoto S, Aoki M, Yamashita T, Tatsumi H	p. 278-282
10 Evaluation of stretching position by measurement of strain on the ilio-femoral ligaments: An in vitro simulation using trans-lumber cadaver specimens	共著	平成21年	Manual Therapy, Vol. 14	©Hidaka E, Aoki M, Muraki T, Fujii M, Miyamoto S	p. 427-432
<その他>					
学会発表					
1 腰痛症における多裂筋 post isometric relaxation 後の腰椎前彎角および腰仙角の変化について	共著	平成19年5月	日本理学療法学会大会, 新潟市	©高田雄一, 宮本重範	
2 腹横筋に対する電気刺激が背筋筋力に及ぼす影響	共著	平成19年5月	日本理学療法学会大会, 新潟市	©日高恵喜, 宮本重範	
3 遠位脛腓関節におけるモビライゼーションの方向・強度の検討—新鮮凍結遺体を用いた研究	共著	平成19年5月	日本理学療法学会大会, 新潟市	©藤井 岬, 宮本重範	

4 未固定遺体標本による肩関節後方関節包の伸張肢位の検討	共著	平成19年5月	理学療法の医学的基礎研究会, 新潟市	◎泉水朝貴, 宮本重範	
5 Expression of matrix metallo- proteinase-1 on cellular and molecular level and its relationship to scar tissue response at repaired pattellar tendon	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Izumi T, Miyamoto S, 他2名	
6 Strain on the pectoralis minor muscle during shouder motions and stretching techniques: A cadaveric biomech-canical study	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Muraki T, Miyamoto S, 他8名	
7 Analysis of tibial rotation throughout knee rotation using magnetic resonance imaging	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Samukawa M, Miyamoto S, 他3名	
8 Relationship between upper cervical motion and masticatory muscle imbalance	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Ohshiro S, Miyamoto S, 他6名	
9 Change of messenger RNA in myosin heavy chain and heat shock protein 70 in rat soleus muscle recovering from atrophy	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Hirosima R, Miyamoto S, 他2名	
10 Quantitative analysis of distal tibiofibular joint mobilization: A cadaver study	共著	平成19年6月	世界理学療法連盟学会, カナダ, バンクーバー市	◎Fujii M, Miyamoto S, 他5名	
11 未固定標本による肩関節後方関節包の伸張肢位の検討	共著	平成19年10月	肩の運動機能研究会, 宇都宮市	◎村木孝行, 宮本重範	

12 ラットヒラメ筋萎縮から回復過程におけるミオシンと熱ショックタンパク質70のmRNA発現変化	共著	平成19年11月	北海道理学療法士学会大会, 札幌市	◎廣島玲子, 宮本重範	
13 中国黒龍江省ジャムス大学の教育支援と学生のアイデンティティに関する調査	共著	平成19年11月	北海道理学療法士学会大会, 札幌市	◎韓 萌, 宮本重範	
14 後肢懸垂後の再体重負荷ラットヒラメ筋におけるミオシン重鎖と熱ショックタンパク質70mRNA発現後の経時変化	共著	平成20年5月	日本理学療法学会大会, 福岡市	◎廣島玲子, 宮本重範	
15 腸骨大腿靭帯のストレッチング肢位の検討: 未固定遺体標本を用いた定量的分析	共著	平成20年5月	日本理学療法学会大会, 福岡市	◎日高恵喜, 宮本重範	
16 未固定標本による肩関節後方関節包の伸張肢位の検討	共著	平成20年5月	日本理学療法学会大会, 福岡市	◎泉水朝貴, 宮本重範	
17 The value of physical examination in diagnosis of sacro-iliac joint pain	共著	平成20年6月	国際徒手理学療法士連盟国際学会, オランダ, ロッテルダム	◎荒木秀明, 宮本重範	
講演					
1 北海道における理学療法の過去・現在・未来: 北米との比較	単著	平成19年4月14日	北海道理学療法士学会学術研修大会, 函館市		
2 胸郭における新たなる展望: 胸椎の運動機能の評価と治療アプローチ	単著	平成19年10月10日	北海道理学療法士学会大会, 札幌市		

3 安定化機能を高めるリハビリテーション：大腰筋の役割とトレーニング法	単著	平成20年2月16日	マニュアルセラピー研究会学術大会, 札幌市		
4 胸郭における新たな展望	単著	平成20年3月1日	日本徒手理学療法研究会学術大会, 姫路市		
5 Lee D. の評価と治療	単著	平成20年5月25日	四国徒手療法研究会第1回学術大会		
6 股関節障害の予防・回復のための動作・運動療法を考える	単著	平成20年5月31日	全国変形性股関節症の会北海道支部, 札幌市		
7 整形外科領域のマニュアルセラピー	単著	平成21年9月13日	兵庫県理学療法士会新人研修会		
公開講座					
1 転ばぬ先の知恵	単著	平成20年9月9日	北海道文教大学		
2 頸部の痛みと治し方	単著	平成21年9月4日	北海道文教大学		
現職者講習会					
1 四肢関節のマニュアルセラピー	共著	平成19年7月20 ～22日	日本理学療法士協会主催, 札幌市		
2 脊柱・骨盤のマニュアルセラピー	共著	平成19年8月10 ～12日	日本理学療法士協会主催, 岐阜市		
3 脊柱・骨盤のマニュアルセラピー	共著	平成20年7月19 ～21日	日本理学療法士協会主催, 札幌市		
4 四肢関節のマニュアルセラピー	共著	平成20年8月1 ～3日	日本理学療法士協会主催, 岐阜市		

5 マニュアルセラピー：基礎編	共著	平成21年5月24日	日本理学療法士協会主催, 札幌市		
6 脊柱・骨盤のマニュアルセラピー	共著	平成21年7月31日 ～8月2日	日本理学療法士協会主催, 岐阜市		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
昭和45年7月～現在	日本理学療法士協会会員				
昭和50年7月～現在	カナダ理学療法士協会会員				
昭和50年7月～現在	カナダ理学療法士協会整形理学療法専門部会員				
昭和59年4月～現在	北海道リハビリテーション学会理事・監事				
昭和59年7月～現在	北海道スポーツ医・科学研究会顧問				
平成6年～現在	マニュアルセラピー研究会会長				
平成12年4月～現在	日本徒手の理学療法研究会顧問				
平成15年5月～現在	全国変形性股関節症の会「のぞみ会」北海道支部アドバイザー				
平成17年5月～現在	日本腰痛理学療法研究会評議員				
平成17年5月～現在	北海道緩和医療研究会世話人				
平成18年4月～現在	北海道高等盲学校附属理療研修センター運営協議会会長				
平成18年4月～平成20年3月	放送大学客員教授				
平成19年4月～現在	日本私立リハビリテーション協議会北海道ブロック理事				
平成20年10月12日	第26回日本私立医科大学理学療法学会会長				
平成21年1月13日	北海道大学大学院学外論文審査委員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	教授	氏名	若林 淳一	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	准教授	氏名	大森 圭	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	准教授	氏名	齋藤 正美	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ・高齢者理学療法、地域理学療法学、地域理学療法学演習	2008年4月1日	<p>高齢者理学療法では、高齢者の心身機能の特性、それに起因する生活障害を講義および介護予防実技などを組み合わせながら実践的に教授している。</p> <p>地域理学療法学では、医療保険や介護保険などをはじめとする社会保障制度を概観しながらこれからの医療、介護制度において理学療法士の活動や役割、拠点について教授する。また、訪問リハビリテーションの訪問活動を事例（スライド）など提示し、具体的な訪問活動の展開を学ばせる。</p> <p>地域理学療法学演習では、グループワーク活動を中心に学外での交通機関、公共機関などのバリアフリー状況調査や医療・</p>				
2	作成した教科書、教材、参考書						
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・北海道文教大学公開講座「加齢による身体の変化」	2008年9月2日	<p>恵庭市民に対し加齢による身体の変化およびそれに関わる介護予防の実習を実施。</p>				
4	その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
訪問リハビリテーション実践 テキスト	共著	2008年9月	青海社	伊藤隆夫, 岡田しげひこ, 野尻晋一, 宮田 昌司, 齋藤正美 ほか20名	pp. 63-67 pp. 81-84
< 論文 >					
訪問リハビリテーションの教 育・研修の現状と課題	共著	2007年12月	北海道大学大学院教育学研究 院紀要 第103号	齋藤正美、大塚吉則	pp. 127-135
< その他 >					
他職種との協働—理学療法士編—	共著	2005年2月	PrimaryCarePhysicians Vol.4 No.1 2005	齋藤正美、高木恒雄	pp. 2-3
気付こうニーズ！築こう連 携！	単著	2006年4月	理学療法京都第35号		pp. 42-46
理学療法士の実践から～重度 生活障害の方を地域で支える ～	単著	2007年2月	地域リハビリテーション 第2 巻第2号		pp. 11-118

＜学会発表＞					
在宅における人工呼吸器装着者の外出支援	共著	2005年5月	第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会	齋藤正美、鶴澤龍一、吉田幸一郎	
医師とケアマネージャーとの連携に関する調査報告	共著	2005年5月	第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会	齋藤正美、鶴澤龍一、吉田幸一郎	
軽度者に対する訪問リハビリテーションの関わり	共著	2006年5月	第29回日本プライマリ・ケア学会学術大会	齋藤正美、吉田幸一郎、笠倉貞一、鶴澤龍一	
チームケアにおける生活支援アプローチ	共著	2006年7月	第5回日本ケアマネジメント学会	演者：鈴木ひとみ, 共同者：齋藤正美	
訪問リハビリテーションに関わるセラピストの教育・研修の現状	単著	2007年10月	第45回北海道プライマリ・ケア研究会		
訪問リハビリテーションに関わるセラピストの教育研修に関わる調査	共著	2007年11月	第57回北海道理学療法士学術大会	演者：内藤麻生 共同者：齋藤正美	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
＜社会活動＞					
平成6年～現在に至る	社団法人日本理学療法士協会会員				
平成8年～現在に至る	日本プライマリ・ケア学会会員				
平成10年4月～平成11年3月	船橋市高齢者介護サービス体制整備支援事業介護認定調査員				
平成10年4月～平成11年3月	船橋市高齢者介護サービス体制整備支援事業介護認定調査員				
平成10年4月～平成11年3月	ケアハウス市立船橋長寿園入所判定委員				
平成12年4月～平成18年3月	船橋市高齢者地域ケア会議委員				
平成13年～現在に至る	日本プライマリ・ケア学会評議員				

平成14年～現在に至る	全国訪問リハビリテーション研究会会員
平成16年～現在に至る	全国訪問リハビリテーション研究会理事
平成16年4月～平成18年3月	千葉県理学療法士会地域保健福祉部長
平成18年4月～平成20年3月	地域におけるリハビリテーション提供事業所モデル事業実態調査班委員
平成18年～現在に至る	北海道リハビリテーション学会会員
平成18年～現在に至る	北海道プライマリ・ケア研究会会員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(平成21年8月31日 辞職)

(表24)

所属	理学療法学科	職名	准教授	氏名	村上 雅仁	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

＜論文＞					
Influences of PulseWave Velocity (PWV) by Physical Activity in Stroke Patients with Hemiplegia	共著	平成17年	Journal of Isokinetics and Exercise Science Official Journal of the European Interdisciplinary Society for Clinical and Sports Application	masahito Murakami junichi katoh, noriaki maeda entarou takahashi, hiroshi furukawa	
片麻痺を伴う脳血管障害患者における脈波伝播速度と身体活動量の関連性について	共著	平成17年5月	理学療法科学雑誌第20巻1号	村上雅仁、加藤順一、高橋健太郎、前田慶明、細川晃代、永田安雄、古川宏	
＜その他＞学会発表					
歩行困難な脳血管障害片麻痺患者におけるホームエクササイズの検討	共著	平成17年4月	第22回臨床運動療法研究会開催地：さいたま	村上雅仁、加藤順一、前田慶明、高橋健太郎、古川宏	
Cardiorespiratory effects of weight reduction by exercise in middle-aged women with obesity	共著	平成17年6月	14th european congress physical activity and obesity 2005開催地：Istanbul, Turkey	masahito Murakami junichi katoh, noriaki maeda, entarou takahashi, hiroshi furukawa	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	准教授	氏名	横井 裕一郎	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・発達障害理学療法学科、学外実習のロールプレイ		平成20年12月		学生が3名1組になり、発達障害を持つ子どもの施設、病院にて1日の観察実習を行った。その次週に、3名それぞれがPT役、患者役、説明役となり、観察実習の報告を行った。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・発達障害理学療法学科実習用教材の作成		平成20年10月～		左記の実習にあたり、評価項目記入用の資料を作成した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
運動療法学 各論	共著	2006	医学書院 標準理学療法学科 専門分野	編集 吉尾雅春 小塚直樹、横井裕一郎、福土善信、井 上和広	p. 16		
脳血管障害・神経障害	共著	2008	南江堂 理学療法フィールド ノート	編集 内山 靖 横井裕一郎、小塚直樹	p. 10		

<論文>					
脳性麻痺児の体力特性とその測定方法	共著	2005年1月	理学療法 第22巻1号	小塚直樹、横井裕一郎	pp. 242～248
尖足を呈する脳性麻痺児2例の腓腹筋筋膜切離術前後の歩行解析	共著	2005	北海道リハビリテーション学会第33巻	◎西部寿人、横井裕一郎、寺本篤史、松山敏勝、小神博、野坂利也、小塚直樹	pp. 9～15
脳性麻痺児の基本動作能力改善—実践理学療法のエビデンス—	共著	2007	医学書院 理学療法ジャーナル第41巻 第5号	◎小塚直樹、西部寿人、横井裕一郎、中村宅雄、小神博	pp. 379～384
脳性麻痺児に対する整形外科手術が移動レベルに与える影響因子について	共著	2007	北海道理学療法 24巻	◎高島朋貴、石倉昇子、福士善信、西部寿人、井上貴博、横井裕一郎、小神博、松山敏勝	pp. 40～44
GMFCSIVの脳性まひ者の長期経過—移乗自立群と移乗介助群の比較—	共著	2007	北海道理学療法 24巻	◎西部寿人、横井裕一郎、石倉昇子、高島朋貴、小神博、小塚直樹	pp. 85～89
歩行の年齢的要因—小児—	共著	2009年1月	理学療法 第26巻1号	小塚直樹、横井裕一郎	pp. 48～54
<学会発表>					
Developmental Progress of one child with cerebral palsy	共著	2006年8月	2nd national conference of child rehabilitation and the 9th national conference of child cerebral palsy	Yuichiroh yokoi, Naoki kozuka, Yuko Oshita, Akiko Ysuzuki, Satoshi Tsugawa	
電動車椅子を使用している脳性まひ児の現状と能力評価について	共著	2006年10月	全国肢体不自由児療育研究会	◎横井裕一郎、福士善信、石倉昇子、横井恵巨、井上貴博、西部寿人、高島朋貴、詫間早知、水上八行、松山敏勝、小塚直樹	
電動車椅子を使用している脳性まひ児に対するPEDIによる評価と現状について	共著	2007年4月	北海道リハビリテーション学会	◎横井裕一郎、福士善信、石倉昇子、横井恵巨、井上貴博、西部寿人、高島朋貴、詫間早知、水上八行、松山敏勝、小塚直樹	
脳性麻痺児に対するPhysical Cost Index (PCI)測定の信頼性	共著	2008年5月	日本理学療法学会	◎大須田祐亮、横井裕一郎、高倉千春、鎌塚香央里、井上貴博、粥川智恵、古川章子、小塚直樹	
二分脊椎症に対するGMFMの信頼性と妥当性	共著	2009年4月	北海道リハビリテーション学会	◎横井裕一郎、小塚直樹、高島朋貴、松山敏勝	
骨形成不全症の運動発達と屋内実用歩行の獲得	共著	2009年4月	北海道リハビリテーション学会	◎横井恵巨、松山敏勝、横井裕一郎、詫間早知、古俣春香、金田直樹	
<その他>					

III 学会等および社会における主な活動	
平成2年～現在	北海道小児理学療法研究会 会長
平成2年～現在	日本理学療法士会 会員
平成18年4月～21年3月	北海道理学療法士協会 学術局 EBM検討委員会 小児班代表 (平成10年～現在 機関誌の査読委員)
平成19年	障害を持つ子どもの兄弟姉妹の会 交流シンポジウム・コメンテーター
平成19年7月	第2回北海道肢体不自由特別支援学校専門性向上セミナー 講師
平成19年7月	苫小牧市心身障害者福祉センター おおぞら園母親学級 講師
平成20年	北海道リハビリテーション学会 会員 評議員
平成20年	北海道乳幼児療育研究会 理事
平成20年7月	第3回北海道肢体不自由特別支援学校専門性向上セミナー 講師「正常運動発達から見た障がいを持つ子どもへの援助について」
平成20年8月	北海道理学療法士会 新人教育プログラム2年次研修会 講師 「臨床研究のすすめ」
平成20年8月	北海道立手稲養護学校 学内研修 講師「特別支援学校とリハビリテーションの関係について考える」
平成20年10月	日本理学療法士会全国研修会 「評価の再考」小児部門座長
平成21年4月	北海道理学療法士会 全道研修会 in 旭川 「PT、医療経済を考える」小児班シンポジスト
平成21年5月	学校卒業後の医療的ケアを考えようネット 第5回学習会 講師 「障がいの重い人の呼吸介助について」
平成21年7月	第4回北海道肢体不自由児教育専門性向上セミナー 講師「正常運動分析と体の硬さを持つ子どもの問題」

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。

④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	講師	氏名	池野 秀則	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・その日行った授業の中から授業の最後に小テストを実施 ・解剖学に関する口頭試問の実施				平成21年4月～7月 平成21年7月			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・筋学に関する項目の順番を関節毎に編成し、プリントを作成する				平成21年4月～7月			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
which morphorogy of dry bone articular surfaces suggests so called fibrous ankylosis in the elderly human sacroiliac joint?	単著	2006, 3	Anatomical Science International 2006 81,	pp. 39-46	
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成12年～平成17年、平成19年～現在		恵庭市介護認定審査会委員			
平成19年		北海道理学療法士学術大会準備委員長			
平成20年		コメディカルのための運動器セミナー実行委員			
平成21年		コメディカルのための運動器セミナー実行委員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	講師	氏名	白幡 知尋	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 理学療法学科 ドイツ短期研修				平成20年6月7～17日	小グループ (参加学生4名) による, リハビリテーション外来診療施設見学 (ハイデルベルク), 理学療法・徒手医学に関する講義 (実習1コース1週間) の受講 (ポッパルト) の計画および実施 (引率)		
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
アマチュア弦楽器奏者における運動器障害 —有症率, 対処法および身体に対する意識に関する調査—	単著	平成19年12月	放送大学 学位論文		
<その他>					
III 学会等および社会における主な活動					
平成19年8月～現在に至る	Deutsche Gesellschaft für Muskuloskeletale Medizin (DGMSM) e. V. - Akademie Boppard 認定マニュアルセラピスト 日本ドイツ徒手医学会 インストラクター				

- [注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	理学療法学科	職名	講師	氏名	西村 由香	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・平成20年北海道文教大学公開講座「加齢による身体の変化」		2008. 9. 2		加齢による一般的な身体の変化、血圧や脈拍の変化、歩行やバランス機能の変化について、重心動揺計などの装置を用いた実習による検討。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
高齢障害者の評価	共著	2006	総合リハビリテーション34 (1)	吉尾雅春、石橋晃仁、西村由香、小林英司	19-26頁		

<論文>					
自覚的視性垂直位検査装置の開発とその信頼性	共著	2006	理学療法ジャーナル40 (8)	西村由香、吉尾雅春、村上新治	655-659頁
脳卒中後、運動機能が良いにもかかわらず、階段を降りることができなかつた1症例	共著	2007	理学療法ジャーナル41 (1)	佐藤文、西村由香、石橋晃仁、吉尾雅春、土田隆政	61-64頁
高齢遺体の肩関節包内滑膜の変化と関節軟骨の変化およびその関係	共著	2008	理学療法ジャーナル42 (1)	西村由香、吉尾雅春、村上弦	69-74頁
<その他>					
国際学会発表					
The Range of Hip Flexion and Pain in Front of the Hip in Stroke Patients	共著	2005	The 4th World Confederation for Physical Therapy -Asia Western Pacific Region & The 9th Asia Confederation for Physical Therapy Congress in Seoul	Nishimura Y, Yoshio M, Ishibashi I	
COMPARISON OF SUBJECTIVE VISUAL VERTICAL DEVIATION BETWEEN SITTING AND STANDING POSITIONS IN PATIENTS WITH STROKE	共著	2007	15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy in Vancouver	Nishimura Y. Murakami S. Yoshio M. Matsumoto H.	
A direct stretching technique for the articular capsule of the shoulder joint and the efficacy of this technique	共著	2008	10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy (ACPT) in Chiba	Nishimura Y. Yoshio M.	

学会発表					
脳出血発症2年後に歩行可能になった一症例	共著	2005	日本理学療法士協会神経系理学療法研究部会第1回学術集会	大村優慈、吉尾雅春、西村由香	
独歩可能な脳性麻痺痙直型両麻痺児の立位姿勢の特徴	共著	2005	第11回日本リハビリテーション医学会北海道地方会	向井明子、石橋晃仁、西村由香、内田有美、小塚直樹、西部寿人	
脳卒中片麻痺患者の股関節前面の痛みと屈曲角度について	共著	2005	第40回日本理学療法学会	西村由香、吉尾雅春、大村優慈、石橋晃仁、木原由里子、虻川智子、岩本浩二、土田隆政	
健常成人の股関節屈曲角度の構成について	共著	2005	第40回日本理学療法学会	吉尾雅春、西村由香、松本拓士、野々川文字、宇田津利恵、石橋晃仁	
リスク管理に関わるPTの臨床的感性の実験的研究	共著	2005	第40回日本理学療法学会	石橋晃仁、吉尾雅春、西村由香、佐藤文、堀部寛人、土田隆政	
身体運動機能が高いにも関わらず、階段を降りることができなかつた一症例	共著	2005	第40回日本理学療法学会	佐藤文、西村由香、石橋晃仁、吉尾雅春、土田隆政	
脳卒中片麻痺患者の股関節屈曲制限要因の検討	共著	2005	リハビリテーション・ケア合同研究大会2005大阪	西村由香、吉尾雅春、石橋晃仁	
自覚的視性垂直位検査装置の開発とその信頼性	共著	2005	第56回北海道理学療法士学術大会	西村由香、吉尾雅春、村上新治、近藤和恵、倉川卓広、石橋晃仁	
階段昇降における視覚情報を断った場合の変化	共著	2005	第56回北海道理学療法士学術大会	石橋晃仁、堀部寛人、佐藤文、西村由香、土田隆政、吉尾雅春	
座位における側方傾斜刺激による脊柱側屈角度の変化～骨盤前後傾の影響～	共著	2005	第56回北海道理学療法士学術大会	倉川卓広、吉尾雅春、石橋晃仁、西村由香	
健常成人と脳卒中片麻痺患者の股関節屈曲角構成	共著	2005	第56回北海道理学療法士学術大会	吉尾雅春、西村由香、石橋晃仁	

脳卒中片麻痺患者の自覚的視性垂直位—半側空間無視に着目して—	共著	2006	第41日本理学療法学会大会	西村由香、吉尾雅春、村上新治、石橋晃仁	
座位におけるヒト大腰筋の機能に関する実験的研究	共著	2006	第41日本理学療法学会大会	吉尾雅春、村上弦、西村由香、佐藤香緒里、乗安整而	
階段昇降における視覚情報を断った場合の変化	共著	2006	第41日本理学療法学会大会	石橋晃仁、西村由香、佐藤文、堀部寛人、土田隆政、吉尾雅春	
座位における側方傾斜刺激と骨盤前後傾による骨盤側方傾斜角度、脊柱側屈角度の変化	共著	2006	第41日本理学療法学会大会	倉川卓広、石橋晃仁、西村由香、吉尾雅春	
手動式三桿式視力計の開発とその信頼性	共著	2006	第41日本理学療法学会大会	近藤和恵、田中絵梨、堀智恵、石橋晃仁、西村由香、吉尾雅春	
中枢神経障害と垂直視	共著	2006	日本健康行動科学学会第5回学術集会	西村由香、村上新治、吉尾雅春、松本博之	
脳卒中片麻痺患者における麻痺側足関節底屈筋群の特性—非麻痺肢の後方へのステップの場合—	共著	2006	第57回北海道理学療法士学会大会	石橋晃仁、西村由香、高見志保、吉尾雅春	
脳卒中片麻痺患者の座位と立位における自覚的視性垂直位の比較	共著	2007	第42日本理学療法学会大会	西村由香、吉尾雅春、村上新治、松本博之	
片麻痺患者の股関節屈曲に伴う骨盤の始動と可動域および股関節前面の疼痛との関係	共著	2007	第42日本理学療法学会大会	吉尾雅春、西村由香、石橋晃仁	
脳卒中片麻痺患者に対する静脈血流に着目した腓腹筋へのアプローチの効果	共著	2007	第42日本理学療法学会大会	長谷川奈々、西村由香、吉尾雅春、荒井裕章、田中絵梨、土田隆政	

講 演					
骨関節領域の疾患を捉える上でのポイント～肩関節～	単著	2007年3月10日	岩手県理学療法士会事務局骨関節系専門領域研究部会研修会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成7年～現在に至る	日本理学療法士協会会員				
平成14年～現在に至る	北海道リハビリテーション学会会員				
平成18年～現在に至る	日本健康行動科学会会員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	教授	氏名	池田 官司	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	教授	氏名	木村 浩一	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 自習用問題データベースの作成		2008. 4. 1	学生が問題データベースから問題集を自動作成するシステムを公開				
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							
恐怖のボツリヌス中毒.	単著	2005	しゃりばり 276		pp. 56-57		
北里柴三郎と森鷗外とノーベル賞と	単著	2007	しゃりばり 299		pp. 50-51		

＜論文＞					
ウエストナイル熱発生に備えた蚊類調査方法の検討.	共著	2006	北海道立衛生研究所報 56	◎伊東拓也、長野秀樹、本間寛、木村浩一	pp. 67-69
道内で発生した急性Q熱の一症例における疫学調査から得られた知見について.	共著	2007	北海道立衛生研究所報 57	◎三好正浩、青木力也、保坂直美、大藤進、菊池志帆、山口繁則、後藤明子、伊東拓也、木村浩一、長野秀樹、山野公明	pp. 35-41
視覚障害者用超音波レーダーの開発.	共著	2008	北海道文教大学研究紀要 32	◎木村浩一、兼古悟	pp. 27-31
北海道産ネズミ類のkokシエラ症に対する感染状況調査.	共著	2008	北海道立衛生研究所報 58	◎三好 正浩、伊東 拓也、長野 秀樹、木村 浩一、後藤 明子、山野 公明	pp. 55-57
＜その他＞					
学会発表					
輸入げっ歯類から得た血清のライム病抗体.	共著	2005	第73回日本細菌学会北海道支部学術総会、札幌	◎磯貝浩、磯貝恵美子、西川武志、木村浩一、高橋晃一	
菌の分離培養と毒素検出が確認された破傷風の1例.	共著	2006	第65回日本公衆衛生学会、富山	◎合田悟、伊東拓也、渡智久、三浦佐知子、尾栢隆、佐藤仁、木村浩一、岡野素彦	
地方衛研におけるバイオセーフティ研修実施の試み.	共著	2006	第6回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会、東京	◎伊木繁雄、高木弘隆、森本洋、池田徹也、清水俊一、木村浩一、山口敬治、岡野素彦	
地方衛研におけるバイオセーフティ研修実施の試み（第2報）.	共著	2007	第7回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会、東京	◎伊木繁雄、高木弘隆、後藤浩、川又亨、地主勝、森本洋、池田徹也、駒込理佳、木村浩一、清水俊一、山口敬治、前田秋彦、杉山和良、岡野素彦	
スターリングエンジンによるヒートアイランド対策効果を持つ雪発電装置の試作.	共著	2008	第3回新エネルギー技術シンポジウム、つくば	◎兼古悟、鹿野内崇、木村浩一	
ヒートアイランド対策効果を持つ道路下雪発電システム.	単著	2009	イノベーション・ジャパン 2009-大学見本市、東京		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成15年1月～現在に至る		北海道細菌学会評議委員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	教授	氏名	深澤 孝克	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称		単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
< 著書 >							

<論文>					
文学への精神分析的アプローチ ーPTSDに見舞われた詩人の軌跡を辿るー	共著	2009年9月	最新精神医学	◎大澤 栄、深澤 孝克	
ひとりの精神障害者に焦点を当てて ーメタファーをどう解釈すべきかー	共著	2009年11月1日	日本アディクション看護学会 第8回学術大会(埼玉)	◎大澤 栄、深澤 孝克	
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成19年7月	講演：認知症のリハビリテーション（砂川市）				
平成19年9月	講演：認知症の地域介護とリハビリテーション(砂川市)				
平成20年10月	第39回 北海道作業療法学会長（千歳市）				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	教授	氏名	渡辺 明日香	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
1) 頸髄不全麻痺当事者による講演の実施		平成20年 6月 平成21年 7月	身体障害作業療法治療学Ⅰ (2年次)において、頸髄不全麻痺となりながらも、口にて絵画を描く詩画家の語りを聴くことにより、障害を負ってそれを乗り越えるまでの力強い生活史や心理過程、リハ過程に触れ考察させることにより、作業療法への動機付けを高めた。			
2) 4種の施設の見学授業		平成20年 7月 平成21年 6月	リハビリテーション概論、作業療法概論Ⅰ (1年次)では、教育的リハビリテーション、医学的リハビリテーション、総合リハビリテーション、職業リハビリテーション関連施設とその作業療法を見学し、臨場感のある場面に触れさせた。座学のみでは得られない実感を伴う理解を促した。			
3) 介護老人保健施設の医療ソーシャルワーカーから学ぶ		平成20年 1月 平成21年 1月	作業療法総論Ⅰでは、介護老人保健施設で見学授業を企画。同時に、現場で働く専門職のうち、特に医療ソーシャルワーカーの講義を直接受けることにより、リハチームにおける他職種の仕事内容やチームワークの必要性を深く実感させた。			
4) 100円ショップグッズを用いた自助具の作成		平成20年12月 平成21年12月予定	身体障害作業療法治療学Ⅱ (2年次)で、100円ショップグッズを最高7点まで利用して自助具を作成させる。作成後の自助具について目的・工夫点・反省点などを各自に発表させる。コンクール形式として、教員のほかに学生間でも評価させ、最優秀賞などを授与。物を作る技能や障害のある人の生活についての知識、オリジナルな発想力が作業療法士には重要であることを楽しみつつ理解させる。			
5) 高等盲学校における見学授業		平成21年12月予定	身体障害作業療法治療学特論 (3年次)で企画。実際の視覚障害者の授業風景の見学、視覚障害用福祉機器・福祉用具の使用体験、視覚障害をもつ当事者の生活経験をお聴きするなどにより、視覚障害をもつ対象者への作業療法を計画できる能力を養う。			

2 作成した教科書、教材、参考書		
1) 「見学実習」「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」実施要	平成19年12月	臨床実習要領、実習報告書などの草稿作成
2) 感覚障害のメカニズムを考察する教材	平成21年10月	特に胸髄髄内腫瘍による仙部回避の起こるメカニズムを、生理学・解剖学・神経内科学などの基礎知識を確認しつつ考察するための教材。バラバラな知識を有機的に統合する学習を可能とした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1) 北海道文教大学オープンキャンパス講師	H19年10月～現在	「作業療法学科紹介」「体験講義」など年2回程度担当
2) 北海道文教大学体験授業担当	H19年10月	千歳北陽高校1年生体験講義と実技を実施 講義題目「作業療法とは？」 実技「リラクゼーションストレッチ」
4 その他教育活動上特記すべき事項		
1) 臨床実習施設開拓訪問	平成19年10月～現在	授業科目「見学実習」「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」の実施を可能にするために、数多くの臨床実習候補施設を訪問した。
2) 身心運動セラピー 自主ゼミの実施	平成21年4月～現在	臨床動作法、ダンス・セラピー、気功、ヨガ、リラクゼーションストレッチなどを実践的に体験する自主ゼミ。OT学科のみならず、PT学科の学生の協力も得て、これらの方法を実践的に学生に伝授した。放課後を利用。
3) 学生の臨床体験学習を援助	平成21年4月～現在	臨床研修日や休日を利用して希望する学生に臨床体験学習の場を与えた。
4) 以下の研修会、セミナー、学会等に参加して教育方法・内容など、教育実践の質を高める努力をした。 <国外> エサレン研究所（米国） ラトロープ大学海外研修引率（オーストラリア）	平成19年8月 平成22年3月予定	5週間のボディワーク（身心運動療法）の実践研修に参加。 人間科学部学生を対象とした3週間の語学研修とオーストラリアのリハビリテーションや教育事情の見学旅行引率を担当。ラトロープ大学教員との交流をはかり、今後の両大学の教育的連携の足がかりとする。

<p><国内></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本AMPS研究会 2. 日本作業行動研究会, 北海道作業行動研究会 3. 北海道ハンドセラピー研究会 4. 私学リハ北海道ブロック教員研修会 5. 北海道作業療法学会 6. 作業科学セミナー 7. 北海道活動分析研究会 8. 日本職業リハビリテーション学会北海道ブロック研修会 9. 日本ダンス・セラピー研究会 10. 日本作業療法学会 11. 日本AAD講習会 12. 臨床動作法研修会 	<p>平成17年1月より現在まで</p>	<p>いずれの研修, セミナー, 学会にも5年間に可能な限りの回数出席した。</p> <p>日本AAD講習会では, 講習会終了後に所定の課題をこなし, 障害認識評価法の認定評価者の称号を得た (H21年6月)。</p>
---	----------------------	---

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
< 論文 >					
閉経後の中高年女性に対する ダンス/ムーブメントセラ ピーの短期的心身効果-感情 と自覚的睡眠感を中心として	共著	2005	心身医学45 (2)	◎渡辺明日香, 森谷梨, 小田史郎, 福 田紀子, 本間裕子	133-142頁
介護保険制度におけるケアマ ネジメントの問題点および作 業療法士への期待	共著	2005	北海道作業療法22 (1)	◎渡部早希, 上野武治, 渡辺明日香	26-32頁
側方転倒時に手をつく動作が 大転子の有効質量と衝撃力の 分散に与える影響	共著	2005	日本生理人類学誌10(4)	◎竹中準, 井部光滋, 真木誠, 浅賀忠 義, 渡辺明日香, 笠原敏史, 齊藤展 士, 井上馨	153-159頁

ダンス・ムーブメントセラピーの実際とその理論背景-作業療法における実践の出発点として-	単著	2005	秋田作業療法学研究12号		13-23頁
閉経後中高年女性における集団ダンス・ムーブメントセラピーのストレスケア効果に関する研究-メンタルヘルスの改善とストレス関連ホルモンの変化-	単著	2006	北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻 博士学位論文		1-210頁
閉経後中高年女性における集団ダンス・ムーブメントセラピーのストレスケア効果に関する研究-メンタルヘルスの改善とストレス関連ホルモンの変化-	単著	2006	北海道大学大学院教育学研究科紀要 第99号		101-111頁
Group dance/movement activity is useful for psychosomatic stress reduction in postmenopausal women	共著	in press	The 15th WFOT Congress 2010 in Santiago, Chile (handbook)	©Asuka Watanabel, Shougo Tamura, Takanori Moriyama, Tadayoshi Asaka, Kiyoshi Moriya	
<その他>					
唾液中ストレスマーカー ChromograninA(CgA)の日内変動とコルチゾールとの関連性	共著	2005	臨床病理53 (補冊)	©森山隆則, 渡辺明日香, 岩田銀子, 松野一彦	307頁
側方転倒におけるハンドブレーキングの影響-大転子への有効 質量と衝撃力の分散について-	共著	2005	日本生理人類学誌, 10巻 特別号 (2)	©竹中準, 井部光滋, 井上馨, 真木誠, 浅賀忠義, 渡辺明日香, 笠原敏史, 齊藤 展士, 井上馨	74-75頁
情動の最適化をもたらす運動の長期継続実施が脳機能・体温・免疫能に及ぼす効果の検討	共著	2006	平成15年度-17年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究B2, 課題番号15300215) 研究成果報告書	©森谷絜, 渡辺明日香, 井瀧千恵子, 侘美靖, 山本徹, 河口明人	1-142頁

高齢者に対する長期集団ダンスムーブメントセラピーの環境適応効果とその生理的多型性	共著	2006	平成16年度-17年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究C, 課題番号16570198) 研究成果報告書	◎渡辺明日香, 森山隆則, 浅賀忠義, 井上馨, 増山尚美, 森谷 絜, 村田和香, 境信哉	1-35頁
精神科院内作業療法におけるダンスセラピー	単著	2006	JADTA News 74		8-9頁
介護老人保健施設デイケアに通所する高齢女性に対する集団ダンスムーブメント活動の心身効果	共著	2006	第10回作業科学セミナー抄録集	◎渡辺明日香, 右近雅子, 岩佐寛子, 小林法一, 森山隆則, 井上馨	
復職に対する不安感と焦燥感の軽減に精神科デイケアが有効だった事例	共著	2007	日本職業リハビリテーション学会 第35回大会予稿集	◎中村直子, 渡辺明日香, 菅原奈緒, 小林理子	106-107頁
集団ダンス・ムーブメントセラピーのストレスケア効果をもたらす要因の分析－閉経後の中高年女性の場合－	共著	2009	日本ダンス・セラピー協会 第18回大会抄録集	◎渡辺明日香, 浅賀忠義, 森山隆則, 田村彰吾, 森谷 絜	10頁
III 学会等および社会における主な活動					
<学会>					
(平成元年 5月)～現在		日本作業療法士協会会員, 北海道作業療法士会会員			
(平成 5年 4月)～現在		日本ダンスセラピー協会会員			
(平成13年 4月)～現在		日本体力医学会, 日本生理心理学会会員			
(平成13年 4月)～現在		日本作業療法学会演題審査委員			
(平成14年 4月)～現在		日本心身医学会会員			
(平成15年 4月)～現在		日本作業行動研究会会員			
(平成16年 9月)～現在		日本ダンスセラピー協会理事			
(平成18年12月)～現在		日本作業科学研究会会員			
平成19年7月		第35回日本職業リハビリテーション学会大会 (7/26～7/27) : 大会事務局のプログラム・予稿集編集責任者			

平成20年6月～平成21年6月	北海道作業療法学会演題審査委員
平成21年8月～現在	日本作業科学研究会 雑誌 Occupational science 抄録翻訳担当者
<社会における主な活動>	
(平成 6年 4月)～現在	あかつき篠路保育園「からだあそびとリズムの会」講師(月1回)
(平成 9年 4月)～平成19年10月	作業療法士のための英文購読メーリングリストの運営
(平成 9年 5月)～現在	林下病院 非常勤作業療法士 精神科作業療法における身体的アプローチの研究・指導
(平成16年 4月)～現在	認定作業療法士
平成17年3月	秋田県作業療法士会研修会(精神分野) 講演「ダンス・ムーブメントセラピーの理論と実際-作業療法における実践の出発点として-
平成18年9月	北海道大学医学部保健学科平成18年度市民公開講座講師「リラックス・ムーブメント-からだと心の老化予防-
平成19年9月	北海道大学医学部保健学科平成19年度市民公開講座講師「リラックス・ムーブメント パート2-快適に生きるために-
平成21年2月	北海道生涯学習協会道民カレッジ<<指定講座>>第10回講師「ストレス対処実践講座-リラックス・ムーブメント-
平成21年9月	北海道文教大学平成21年度公開講座講師「体感しよう!!生活にゆとりと健康をもたらすリラックス・ムーブメント
平成21年11月	恵庭市長寿大学講師「日常の作業活動と長寿・健康」(2回)

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	准教授	氏名	奥村 宣久	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・精神障がい者セミナー&キャンプへの参加		2008. 7. 25 2009. 7. 24		10年以上続く精神障がい当事者交流イベントに参加。リレートークセミナーやレクリエーションを通して、障がい者の社会参加やピアサポートについて学んだ。障がい者の語りを通して、「障害者=弱者」というイメージを大きく変える機会となったという感想を述べる学生が多かった。			
・難病当事者運営のIT農場見学		2009. 5. 28		難病当事者が経営するIT農場で農業体験(基礎作業学演習)とそこで働く、障がい者(内部障害、身体障害)から体験談を伺った。障がい者就労支援の実際について学ぶことを目的とした。			
・障害当事者による特別講義		2008年~2009年		地域作業療法学演習等の講義の一環として、身体障害、精神障害、知的障害の当事者の特別講義を実施。障害者の体験からニーズについて深く考察させるとともに、臨床実習と連動した形で評価法の体験実技；(OSCEの施行；身体機能評価、面接技法等)をさせていただく機会とした。2008年度1名、2009年度10名			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
精神障害領域の作業療法	共著	印刷中	中央法規出版	◎石井良和, 奥村宣久, 他	
<論文>					
利用者のニーズが作りだした作業所の個性—いわゆる社会的通所を少なくする工夫	共著	2006	精神認知とOT(Vol.3 No.2)	◎奥村宣久, 小林真智子, 宮岸真澄, 長屋敏男	pp. 123-127
リハビリテーションに難渋した自殺未遂者の心理的側面ならびに認知行動療法的アプローチの効果	共著	2008	Japanese Journal of Rehabilitation Medicine (Vol.44 No7)	◎本間真理, 奥村宣久, 他	pp. 417
浦河べてるの家利用者へのセルフヘルプに関する調査結果から	共著	印刷中	アディクション看護Vol.5 No1	◎大澤栄, 奥村宣久, 他	
<その他>					
III 学会等および社会における主な活動					
平成10年4月～現在	精神障がい者セミナー&キャンプ実行委員会世話人及び事務局				
平成16年4月～平成19年3月	社団法人北海道作業療法士会副会長				
平成16年11月～現在	北海道集団精神療法研究会理事				
平成18年1月～現在	SST普及協会北海道支部監事				
平成17年4月～現在	アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会幹事				
平成19年11月	第38回北海道作業療法学会会長				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	准教授	氏名	向井 聖子	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動						
教育実践上の主な業績				年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
録音フィードバックによる面接体験授業				2008年10月8日	面接授業に基づき学生間インタビューを録音し各自の話し方を自己フィードバックする面接授業を実施した。	
高齢者体験キット装着によるADL体験と作業遂行観察授業				2008年11月17日	高齢者体験キットを装着し日常生活動作 (更衣、トイレ、台所周辺動作等) 体験と各行為の作業遂行観察を実施した。	
ビデオフィードバックによる面接体験授業				2008年11月17日	作業療法臨床場面を想定した初回面接の体験授業を実施した。2名一組で整形外科疾患と認知症の2事例をロールプレイ設定としビデオ撮影し映像によるフィードバックを行った。	
地域施設利用者への面接による作業ニード評価体験授業				2009年6月22日29日	作業療法評価実施にあたりグループホーム、デイケアセンター等の地域施設協力により、臨床場面での対象者と一対一面接を行い作業ニード評価を実施した。評価結果から作業療法プログラムを考案する体験授業を実施した。	
見学実習事前指導				2009年7月	見学実習事前アンケート調査とポートフォリオ形式によるグループ事前学習を提供した。	
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
作業療法学科入学前学生に対する課題分析 -作業療法士になることをめざして-				2008年10月	作業療法学科入学前の学生に提示した作業療法士専門職の理解を得るための課題感想文の内容分析を行いその結果を検討した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項						

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<著書>					
なし					
<論文>					
ケアハウス居住者の今後新たにしたい作業の意味とその作業が開始されない理由	共著	2008年11月	日本作業科学研究 第2巻 第1号	齋藤さわ子 坂上真理 ◎向井聖子 若井亜矢子 村井真由美	pp. 18-25
デイケアに通所する女性の家事作業介入に向けての評価	共著	2008年6月	日本AMP S 研究事例集第3版	◎向井聖子 阿部純平 浅野葉子 村田和香	pp. 41-47
作業療法学科入学前学生に対する課題分析 -作業療法士になることをめざして-	共著	2008年3月	北海道文教大学研究紀要第32号	◎向井聖子 大川浩子 木村浩一 深澤孝克 池田官司	pp. 83-91
幼稚園児の集団指導場面における作業遂行評価School-AMPSの使用経験	共著	2009年3月	北海道文教大学研究紀要第33号	◎向井聖子 松尾しより 小田進一郎	pp. 51-57
<その他> 学会発表					
作業の力に注目する「Occupation by Design」より-作業科学の知識と実践-	共著	2005年6月	日本作業療法学会誌24巻	◎向井聖子 齊藤さわ子 港美雪 村井真由美 若井亜矢子	
The Evaluation of Evaluation of AMPS for an old person with dementia in occupational activities' approach.	共著	Jun-07	4th Asia Pacific Occupational Therapy Congress, Hong Kong	◎向井聖子 Ruth Zemke	
Occupational Engagement and Temporality in elders who live alone	共著	2007年12月	日本作業科学研究会	◎向井聖子 Ruth Zemke	
デイケア通所事例に対する評価介入の検討 -家事作業に対して-	共著	2008年3月	北海道作業行動研究会	◎向井聖子 阿部純平 浅野葉子 村田和香	
運動とプロセス技能評価を使用した家事活動に対する作業療法	共著	2008年9月	全国老人デイケア研究大会	◎向井聖子 阿部純平 浅野葉子 村田和香	

幼稚園児の集団指導場面における作業遂行評価School-AMPSの使用経験	共著	2008年10月	第39回北海道作業療法士学会	◎向井聖子 松尾しより 小田進一郎	
作業療法学科入学前学生に対する課題分析ー作業療法士になることをめざしてー	共著	2008年10月	日本作業療法教育学会	◎向井聖子 大川浩子 木村浩一 深澤孝克 池田官司	
大学生に対する性同一性障害講義の効果	共著	2009年2月	日本GID学会	池田官司 塚本壇 畠山茂樹 舛森直哉 遠藤俊明 ◎向井聖子	
骨折を繰り返す幼稚園児の作業遂行評価 School-AMPSの使用経験	共著	2009年6月	日本作業療法学会	◎向井聖子 山本里美子	
幼稚園での自閉症児へのアプローチーSchool-AMPSの使用経験ー	共著	2009年10月	第40回北海道作業療法学会	◎向井聖子 山本里美子	
III 学会等および社会における主な活動					
学会					
平成元年4月～現在	日本作業療法学会会員				
平成元年4月～現在	北海道作業療法学会会員				
1995年～現在	American Occupational Therapy Association 会員				
2006年10月～現在	日本作業科学研究会 会員				
2007年10月～現在	International Society for Occupational Science 会員				
2008年6月～現在	日本認知症ケア学会会員				
社会活動					
2007年恵庭地区作業療法士勉強会	主催 香港4thAsia Pacific Occupational Therapy Congress学会報告				
2007年7月	USC 作業科学分野 Dr. Ruth Zemke囲む会主催 当大学学生との交流会				
2008年2月～12月	北海道作業療法学会 実行委員演題部長				
2007年, 2009年10月	北海道作業療法学会 高齢期作業療法分野座長				
2007年4月～2009年4月	全国私立リハビリテーション学校連絡協議会北海道地区幹事				

2008年6月～現在	雑誌北海道作業療法 査読委員
2009年4月～現在	全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会北海道ブロック幹事
2009年6月～現在	北海道作業療法士会 学術部第一学術部員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	講師	氏名	大川 浩子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・見学実習前指導とアンケート		平成20年9月～現在		見学実習直前にSST(社会生活技能訓練)を用いた指導を実施(希望者対象)。実習終了後、アンケートを行い効果についても検討している。			
・ビデオを用いた演習		平成21年10月～現在		発達障害作業療法治療学演習、基礎作業学Ⅱにおいて障害当事者、健常児に協力してもらい、ビデオ撮影を行なったものを上映。学生に評価、作業分析に取り組んでもらい、より実践的に知識が身につけられるように工夫を行なった。			
・家族支援におけるロールプレイの活用		平成21年10月～現在		発達障害作業療法治療学演習において、ロールプレイを活用し、学生が家族の気持ちや視点を理解が深まるように工夫を行なった。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
・SSTを活用した実習前指導に関する検討		平成20年12月11日		見学実習の事前指導にSSTを活用し、学生からの実習終了後のアンケート結果から、その意義について検討を行い、SST普及協会第13回学術集会にて発表した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 学術論文 >					
履歴書&面接ワークショップ の実践～求職活動へのアプ ローチ	共著	2006年7月	北海道作業療法23巻1号	◎大川浩子、本多俊紀、脇島久登	pp28-33
共同作業所における重症心身 障害者へのAMPSを用いた援助	共著	2006年4月	AMPS事例集2006	◎大川浩子、齋藤さわ子	pp16-20
地域における作業療法の実践 ～夜の茶の間の活動から	共著	2006年9月	北海道作業療法23巻特別号	◎大川浩子、土橋紘子、本多俊紀、山 本創、脇島久登	p95
就労支援に関する当事者・支 援者のグループインタビュー の比較	共著	2007年7月	日本職業リハビリテーション 学会第35回大会予稿集	◎大川浩子、梅津友斗、本多俊紀、山 本幹子、脇島久登	pp156-157
支援者がリカバリーを学ぶ場 としてのWRAPクラス	共著	2007年9月	北海道作業療法24巻特別号	◎大川浩子、本多俊紀、脇島久登	p65
就労支援に関する障害当事者 へのグループインタビュー	共著	2008年3月	北海道文教大学研究紀要32号	◎大川浩子、本多俊紀、脇島久登	pp93-102
作業療法学科入学前学生に対 する課題分析-作業療法士にな ることをめざして-	共著	2008年3月	北海道文教大学研究紀要32号	◎向井聖子、大川浩子、木村浩一、深 澤孝克、池田官司	pp83-92
共同作業所におけるAMPSを用 いた支援～発達障害を持つ通 所者に対して	共著	2008年6月	AMPS事例集第3版	◎大川浩子、齋藤さわ子	pp70-74
精神障害当事者に対するグ ループインタビュー～就労経 験を継続支援の知識へ	共著	2008年8月	日本職業リハビリテーション 学会第36回大会予稿集	◎大川浩子、古川 奨、本多俊紀	pp156-157
うつ病当事者の就労支援に関 する一考察～当事者との協同 作業による効果検証	共著	2008年8月	日本職業リハビリテーション 学会第36回大会予稿集	◎本多俊紀、大川浩子	pp74-75

支援者がリハビリを学ぶ場としてのWRAPクラスの有効性	共著	2008年9月	北海道作業療法25巻特別号	◎大川浩子、本多俊紀、脇島久登	p139
札幌市こぶし館の2年間～授産施設においてどこまでIPSモデルに準拠できるのか	共著	2008年12月	第16回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集	◎本多俊紀、大川浩子	pp254-257
SSTを活用した実習前指導に関する検討	共著	2008年12月	SST普及協会第13回学術集会in前橋プログラム抄録集	◎大川浩子、中村充雄	p55
夜のお茶の間～エンパワメントの視点における地域実践	共著	2009年3月	北海道文教大学研究紀要33号	◎大川浩子、本多俊紀、脇島久登	pp117-124
就労支援における作業療法の技術 6)多職種連携ー広がる職種とOTが連携する際の課題	共著	2009年6月	作業療法ジャーナル43巻7号	◎大川浩子、本多俊紀	pp798-803
障害を開示した就労経験を持つ障害当事者へのグループインタビュー	共著	2009年8月	日本職業リハビリテーション学会第37回大会予稿集	◎大川浩子、古川 奨、本多俊紀	pp69-70
うつ病当事者の就労継続支援～当事者、事業所との共同作業による効果検証	共著	2009年8月	日本職業リハビリテーション学会第37回大会予稿集	◎本多俊紀、大川浩子	pp71-72
作業療法におけるリハビリの視点：WRAPクラスの実践と実践者の言葉から	共著	2009年8月	北海道作業療法26巻特別号	◎大川浩子、本多俊紀	p121
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
＜学会等＞					
平成20年8月～現在	SST普及協会全国世話人(北海道支部)				
平成21年2月～現在	認定作業療法士(日本作業療法士協会)				
＜社会貢献活動＞					
平成15年5月～現在	特定非営利活動法人障害児者の教育と福祉を進める会理事				
平成20年1月～現在	恵庭市障がい者地域自立支援協議会構成員				
＜講演会等＞					

平成19年9月14～15日	リカバリーワークショップ&WRAP1dayワークショップ(財団法人札幌医科大学学術振興会 平成19年度公開講座等 開催助成対象講演会)
平成19年9月30日	社団法人北海道作業療法士会主催平成19年度第3回新人研修会 「症例研究Ⅱ、Ⅲ」アドバイザー
平成19年12月2日	社団法人北海道作業療法士会主催平成19年度現職者研修会(精神障害)「リカバリー支援」
平成20年8月18日	札幌養護学校主催研修会「特別支援教育における作業療法士(OT)の役割について」
平成20年12月8日	社団法人北海道作業療法士会主催平成20年度現職者選択研修会(精神障害)「リカバリー応援」
平成21年6月20日	第5回作業療法就労支援研究会ワークショップ「仕事のためのWRAP」
平成21年8月4日	第28回訪問教育担当者交流研究会講演「学習活動に生かす作業療法の知識～作業分析とその介入」
平成21年8月22日	リカバリー全国フォーラム2009分科会⑩「WRAP-元気回復行動プラン-」を使うということ」
平成21年9月12日	第40回北海道作業療法学会SIGワークショップ札幌精神科作業療法研究会「就労支援に作業療法士の視点を生かす～ 札幌市こぶし館での実践から」

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	講師	氏名	北島 久恵	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・ 視聴覚教材の利用		平成20年10月 ～現在に至る		講義においては、学生の理解を深めるためにプロジェクターやビデオなどを活用している			
・ 学生による授業評価の実施		平成20年10月 ～現在に至る		大学全体の授業評価とは別に、授業最終日に授業評価を実施し、次の講義へのフィードバックとして活用している			
・ 学生による小テストの作成		平成21年4月 ～現在に至る		授業ごとに個々の学生が小テストを作成し次の授業で回答する形式で、学生は復習として活用し、教員は学生の理解度の把握として活用している			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
・ 臨床実習初期評価の有用性－初期評価と実習成績との関連か		リハビリテーション教育研究第12号p. 72-73 (2007. 3. 20発行)		宮城由美子, 松田竜幸, 三宅環, 北島久恵			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
・ 作業療法学 修士 (第21号)		2005年3月		札幌医科大学大学院			

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
< 論文 >					
半側空間無視患者における異なる空間に提示した線分二等分課題の結果とADL場面での行動との関連.	共著	2005. 12	作業療法24巻6号	佐々木努, 仙石泰仁, 中島そのみ, 須鎌康介, 北島久恵	584頁-592頁
視覚刺激と聴覚刺激を用いた反応時間課題の臨床応用～新しい分析指標と基礎データ～	共著	2008. 12	作業療法27巻6号	◎北島久恵, 大柳俊夫, 中村裕二, 中島そのみ, 仙石泰仁	662頁-671頁
< 学会発表 >					
二重課題法を用いた情報処理能力の評価法の開発 (修士論文)	単著	2005	札幌医科大学保健医療学部紀要8	北島久恵	135頁
二重課題法による健常者の反応時間と加齢の影響.	共著	2005. 5発行	作業療法24巻特別 (第39回日本作業療法学会誌 : つくば市)	◎北島久恵, 仙石泰仁, 大柳俊夫, 中島そのみ, 館延忠 :	215頁
つまみ動作による指標追従課題を用いた機器による運動調節能の測定	共著	2005. 9発行	作業療法24巻特別 (第39回日本作業療法学会誌 : つくば市)	須鎌康介, 仙石泰仁, 中島そのみ, 世良彰康, 北島久恵, 佐々木努	68頁

周辺視覚情報の違いが半側空間無視患者の視知覚能力に与える影響	共著	2005.5発行	作業療法24巻特別（第39回日本作業療法学会誌：つくば市）	佐々木努，須鎌康介，北島久恵，中島そのみ，館延忠，仙石泰仁	215頁
二重課題法による健常者の反応時間の分析～20代から60代までの傾向～	共著	2005.9発行	北海道作業療法22巻特別（第36回北海道作業療法学会誌：旭川市）	◎北島久恵，佐々木努，須鎌康介，中島そのみ，大柳俊夫，仙石泰仁	69頁
A new type of dual task examination to evaluate clinical symptoms of patients with Parkinson's disease.	共著	2006	The 14th congress of WFOT（オーストラリア）	◎Kitajima H, Sasaki T, Sugama K, Nakajima S, Tachi N, Ohyanagi T, Sengoku Y	CD-ROM
A mesurement of motor control ability by the visuomotor tasks corresponding to a visual target	共著	2006	The 14th congress of WFOT（オーストラリア）	Sugama K, Nakajima S, Sera A, Kitajima H, Sasaki T, Murakami S, Tachi N, Sengoku Y	CD-ROM
A new line bisection task for patients with unilateral spatial neglect	共著	2006	The 14th congress of WFOT（オーストラリア）	Sasaki T, Kitajima H, Sugama K, Nakajima S, Tachi N, Ohyanagi T, Sengoku Y	CD-ROM
近赤外線分光法を用いた脳血流変化の検討（第3報）－作成した二重課題との関係－	共著	2006.3発行	日本作業療法学会抄録集2006 ISSN1880-6635（第40回日本作業療法学会誌：京都市）	◎北島久恵，仙石泰仁，中村裕二，柳谷聡子，大柳俊夫	113頁
近赤外線分光法を用いた脳血流変化の検討（第1報）－順唱および逆唱課題との関係－	共著	2006.3発行	日本作業療法学会抄録集2006 ISSN1880-6635（第40回日本作業療法学会誌：京都市）	中村裕二，仙石泰仁，北島久恵，柳谷聡子，武田秀勝	112頁
近赤外線分光法を用いた脳血流変化の検討（第2報）－問題解決課題との関係－	共著	2006.3発行	日本作業療法学会抄録集2006 ISSN1880-6635（第40回日本作業療法学会誌：京都市）	柳谷聡子，仙石泰仁，中村裕二，北島久恵，中島そのみ	114頁

ヘッド・マウント・ディスプレイを用いた視空間認知能力評価の可能性	共著	2006.3発行	日本作業療法学会抄録集2006 ISSN1880-6635 (第40回日本作業療法学会誌：京都市)	佐々木努, 金谷匡紘, 北島久恵, 須鎌康介, 仙石泰仁	119頁
視覚－運動協応課題による不器用児の両手動作における質的な特徴の検討	共著	2006.3発行	日本作業療法学会抄録集2006 ISSN1880-6635 (第40回日本作業療法学会誌：京都市)	須鎌康介, 仙石泰仁, 中島そのみ, 北島久恵, 館延忠	175頁
近赤外線分光法を用いた二重課題遂行中の脳血流変化の検討 加齢の影響.	共著	2006.9発行	北海道作業療法23巻特別 (第37回北海道作業療法学会誌：札幌市)	◎北島久恵, 仙石泰仁, 中島そのみ, 中村裕二, 柳谷聡子, 大柳俊夫	64頁
近赤外線分光法を用いた継次・同時処理課題における脳血流評価の試み	共著	2006.9発行	北海道作業療法23巻特別 (第37回北海道作業療法学会誌：札幌市)	中村裕二, 仙石泰仁, 中島そのみ, 北島久恵, 柳谷聡子, 館延忠	65頁
健常者の二重課題遂行中の近赤外線分光法による脳血流変化の検討	共著	2007.3発行	日本作業療法学会抄録集2007 ISSN1880-6635 (第41回日本作業療法学会誌：鹿児島市)	◎北島久恵, 中村裕二, 柳谷聡子, 大柳俊夫, 仙石泰仁	93頁
Head Mount Displayを用いた視空間認知能力評価の可能性－ADL場面の行動観察との関連－	共著	2007.3発行	日本作業療法学会抄録集2007 ISSN1880-6635 (第41回日本作業療法学会誌：鹿児島市)	佐々木努, 金谷匡紘, 北島久恵, 須鎌康介, 仙石泰仁	80頁
視覚および聴覚刺激弁別課題を用いた反応時間課題の臨床応用の試み	共著	2008.3発行	日本作業療法学会抄録集2008 ISSN1880-6635 (第42回日本作業療法学会誌：長崎市)	◎北島久恵, 中村裕二, 中島そのみ, 大柳俊夫, 仙石泰仁	96頁
Head Mount Displayを用いた視空間認知能力評価の可能性－既存の神経心理学的検査との比較－	共著	2008.3発行	日本作業療法学会抄録集2008 ISSN1880-6635 (第42回日本作業療法学会誌：長崎市)	佐々木努, 金谷匡紘, 北島久恵, 仙石泰仁	95頁

反応時間課題の臨床応用～疾患のある対象者の結果～	共著	2008.9発行	北海道作業療法25巻特別（第39回北海道作業療法学会誌：千歳市）	◎北島久恵, 中村裕二, 中島そのみ, 大柳俊夫, 仙石泰仁	132頁
Head Mount Displayを用いた視空間認知能力評価の可能性—2症例の注意行動障害臨床経過に基づく検討—	共著	2009.3発行	日本作業療法学会抄録集2009 ISSN 1880-6635	佐々木 努, 金谷 匡紘, 北島 久恵, 仙石 泰仁	55頁
視覚および聴覚刺激弁別課題を用いた反応時間課題の臨床応用—1症例の継時的データに着目して—	共著	2009.3発行	日本作業療法学会抄録集2009 ISSN 1880-6635	◎北島 久恵, 中村 裕二, 中島 そのみ, 大柳 俊夫, 仙石 泰仁	57頁
注意障害の臨床評価法に向けて作成した反応時間課題実施中の眼球運動について	共著	2009.8発行	北海道作業療法第26巻特別（第40回北海道作業療法学会誌：札幌市）	金谷匡紘, 北島久恵, 中村裕二, 中島そのみ, 大柳俊夫, 仙石泰仁	109頁
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年4月～平成18年10月（2006）	社団法人北海道作業療法士会の第37回北海道作業療法学会実行委員				
平成19年3月	社団法人北海道作業療法士会の平成19年度新人研修会・症例検討発表会アドバイザー				
平成19年4月～平成20年3月（2007）	社団法人北海道作業療法士会の事務局書記				
平成20年4月～平成21年3月（2008）	社団法人北海道作業療法士会の教育部部員				
平成20年4月～現在	社団法人北海道作業療法士会の石狩支部副支部長				
平成21年5月～現在	社団法人北海道作業療法士会の財務部長				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	作業療法学科	職名	助教	氏名	中村 充雄	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称		単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成15年4月～平成21年3月		北海道作業療法士会 札幌支部教育部			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	岩田 銀子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
・ K J 法を用いたグループワーク		平成17年		「助産師の役割とは」についてKJ法を用いてグループワークを行い助産師への役割への認識、協調性の重要性に気づかせることができた。			
・ 母親学級の模擬演習		平成17年～平成18年		母親学級の模擬演習の学び—学級の企画・運営、実演を行わせ、集団指導の方法を学ばせ、一定の成果をあげた。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
・ 「母親学級模擬演習」冊子		平成17年～平成18年		「母親学級模擬演習」冊子として、母親学級の手引き書を作成し、学生の教材として活用。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
・ 全国助産師教育協議会企画・運営		平成19年		国立の看護大学において、助産師教育を行っている大学で毎年輪番制で会議を行っており、その役割を担った。			
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
1. 初妊婦の不安とソーシャルサポート効果の検討	共著	平成17年12月	北海道大学大学院教育研究科紀要、第97号	岩田銀子、森谷潔	57-68頁
2. A study on the Subjective Attitude to The Contraception of Young Japanese Women	共著	平成18年3月	Internal Medical Journal Medical Journal Volume 13, Number 1	山内葉月、岩田銀子	9-14頁
3. Awareness and Behavior on the Contraception of Youth	共著	平成21年3月	熊本大学医学部保健学科紀要第5号	Hazuki Yamauchi Shiho, Shiho Satomura, Ginko Iwata	53-62頁
4. 初妊婦の不安尺度の作成と不安の構造－信頼性および妥当性の検証－	共著	平成21年3月	北海道文教大学研究紀要第33号	岩田銀子、橋本公雄、平井敏幸、森谷潔	43-50頁
<その他> 学会発表					
1. 新しい唾液中ストレスマーカー ChromograninA(CgA)について－日内変動とコルチゾールとの関連性－	共著	平成17年2月	第14回日本臨床化学学会北海道支部総会	森山隆則、渡辺明日香、岩田銀子、松野一彦	
2. 地域高齢者のソーシャルサポートネットワークと入院受診の関連要因－農村地域における前向き研究－	共著	平成17年7月	日本看護研究学会28巻3号	坂倉恵美子、岩田銀子	
3. 初妊婦用不安尺度の作成と初妊婦の不安の構造	共著	平成17年7月	日本看護研究学会28巻3号	岩田銀子、坂倉恵美子	
4. The Effect of Self-Esteem on Anxiety in Primiparae	共著	平成17年7月 Australia	27 th Triennial Congress of the International Confederation of Midwives Congress 2005	Ginko Iwata, Emiko Sakakura	
5. A new Stress marker Chromogranin A in saliva:compared with cortisol in saliva	共著	平成17年8月 Kobe, Japan	Abstracts of the 18th World Congress on Psychosomatic Medicine	Watanabe asuka, Iwata ginko	
6. 初妊婦に対するソーシャルサポートの検討－多次元的サポート尺度を活用して－	単著	平成17年	日本助産学会－第19回日本助産学会学術集会収録－		

7. 臨地実習による学生の専門職アイデンティティの変化への一考察	共著	平成18年8月	日本看護教育学会第16回学術集会	島明子、平塚志保、岩田銀子	
8. 臨地実習における看護学生のインシデント体験と発生要因－老年看護学実習の横断調査から－	共著	平成18年8月	日本看護教育学会第16回学術集会	坂倉恵美子、岩田銀子、島明子	
9. 青年期における女性の性周期がストレスホルモンに与える影響－生化学的指標を用いて－	共著	平成19年3月	日本助産学会－第21回日本助産学会学術集会収録－	岩田銀子、山内葉月、島明子	
10. 青年期男性の避妊の実態と今後の課題	共著	平成19年3月	日本助産学会－第21回日本助産学会学術集会収録－	山内葉月、岩田銀子	
11. 妊娠期のストレスに関する検討－非妊娠女性の生化学的指標によるストレスホルモンとの比較－	共著	平成20年3月	日本助産学会－第22回日本助産学会学術集会収録－	岩田銀子、山内葉月	
12. 妊婦の栄養状態および体重増加と胎児発育	共著	平成20年11月	日本母性衛生学会総会学術抄録	笹田麻由香、岩田銀子、伊藤久美子他	
13. 看護教員のロールモデル行動の一考察－自己評価尺度の活用による教員の教育活動の分析－	共著	平成21年9月	日本看護教育学会第19回学術集会	伊藤真理、岩田銀子、坂倉恵美子	
14. 精神的健康に関連する看護大学生のキャンパスライフの一考察	共著	平成21年9月	日本看護教育学会第19回学術集会	小堀ゆかり、岩田銀子	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成15年～20年5月	日本母性衛生学会評議委員				
平成17年4月～現在	北海道医学雑誌評議委員				
平成8年4月～平成18年5月	北海道母性衛生学会 役員 幹事				
平成19年	天使大学紀要投稿論文査読				
平成20年	天使大学紀要投稿論文査読				

平成21年	天使大学紀要投稿論文査読
平成20年12月	放送大学研究指導および論文審査主査
平成15年～21年6月迄年間1～2回	日本母性衛生学投稿論文査読
平成18年7月	第10回北海道世日文化フォーラムで講演：テーマ「少子化時代を超えて－新しい命を生み出す女性への支援－」
平成19年10月	第37回北海道母性衛生学会総会並びに学術講演会の口演の座長
平成21年9月	千歳市立病院地域交流研修会で講演：テーマ「看護基礎教育の動向と本学の教育の特徴」
平成21年6月～現在	北海道母性衛生学会名誉会員
平成21年9月5月	日本看護学教育学会第19回学術集会講演の査読
平成21年9月	第24回日本助産学会学術集会査読

[注]1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	大澤 栄	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）						
	・北海道文教大学人間科学部看護学科FD委員会委員長	2008年12月	同委員会を運営し、同委員会主催の研修会を企画し、授業改善に取り組む。講師：北海道大学大学院理学院教授 鈴木誠先生				
	・北海道文教大学公開講座委員会委員長	2009年4月～	同委員会の運営並びに聴講者へのアンケート調査を実施				
2	作成した教科書、教材、参考書						
	・精神看護エクスペール14巻 アルコール・薬物依存症の看護	2005年11月10日	薬物依存症者の人格傾向と看護のポイント —薬物依存症者の全国調査の結果からの考察				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
	・公開講座特別講演会「詩の世界、文学の世界」	2008年11月12日	矢口以文 大澤栄 神谷忠孝 永原和夫				
4	その他教育活動上特記すべき事項						
	・千歳保健所ひきこもり・家族の会でのスーパーバイズ	2009年6月9日	引きこもりの現状と課題				
	・彩の国薬物依存ネットワーク・ガイドブック作成への参画	2007年3月3日	埼玉県内の薬物依存症に関する地域ネットワーク開発研究（平成18年度厚生労働省精神・神経疾患委託費（16指-2）「薬物依存症・アルコール依存症・中毒性精神病治療の開発・有効性評価・標準化に関する研究」（主任研究者：和田清）、分担研究「薬物依存症治療の地域ネットワーク開発研究（I）」「分担研究者：成瀬暢也）」				
	・北海道文教大学人間科学部看護学科臨地実習指導者会議運営委員会委員長	2009年4月～	大学からの臨地実習に当たり、実習施設との連絡調整並びに左記会議の開催・運営				

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
精神看護エキスパート14 アルコール・薬物依存症の看護	共著	2005年11月10日	中山書店	坂田三允総編集	117-125
ビルケナウの鳥	単著	2007年12月20日	蓮の花ぶんか舎	アウシュヴィッツに関する作品群	1-66頁
漁川茫々	単著	2009年5月20日	蓮の花ぶんか舎	第10回白鳥省吾賞受賞作「漁川にて」収録	1-143頁
< 論文 >					
回復者からのメッセージ-ギャンブル依存症・薬物依存症-	共著	2006年9月25日	日本アディクション看護学会誌 3号	◎甲斐理香・五十嵐愛子・大澤栄	33-35頁
摂食障害者の回復に向けた支援の実践	単著	2008年5月10日	日本嗜癮行動学会誌「アディクションと家族」第25巻1号	大澤栄	45-51頁
当事者と家族の語り-摂食障害者-	単著	2008年12月26日	日本アディクション看護学会第5	大澤栄	39-45頁
文学への精神分析的アプローチ	共著	2009年9月25日	最新精神医学第14巻5号	◎大澤栄 深澤孝克	475-479頁
< その他 >					
III 学会等および社会における主な活動					
2005年12月～2008年11月		日本アディクション看護学会評議員			
2008年12月～(現在に至る)		日本アディクション看護学会理事			
2009年9月1日～2011年3月31日		日本アディクション看護学会学会誌査読委員の委嘱			
20010年11月6日～7日		日本アディクション看護学会第9回学術大会北海道大会 大会長の委嘱			

<発表>	
2007年7月15日	第7回日本外来精神医療学会一般演題発表 「薬物依存関係機関（関係者）の連携に関する調査結果について」
2007年11月9日	第18回日本嗜好癖行動学会学術大会松江大会一般演題発表 「摂食障害者の回復に向けた支援の実践」
2008年11月28日	第19回日本嗜好癖行動学会学術大会東京大会一般演題発表 「摂食障害者の回復に向けた支援の実践第2報」
2008年12月8日	第7回日本アディクション看護学会学術大会千葉大会一般演題発表 「浦河べてるの家へのセルフヘルプに関する調査結果から」
<表彰>	
2009年2月22日	第10回白鳥省吾賞最優秀賞受賞（自治体が制定するわが国でも数少ない全国公募の文学賞に応募し、最優秀作品として詩「漁川（イザリガワ）にて」が選ばれた）

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	小堀 ゆかり	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<著書>							
<論文>							
<その他>							
学会発表							

1. 産後1～6年の女性の尿失禁に関する実態調査	単著	平成17年10月	第46回日本母性衛生学会学術集会(宮崎)		抄録P221
2. 産後1～6年の女性の尿もれと生活習慣に関する検討	単著	平成17年11月	第25回日本看護科学学会学術集会(青森)		抄録P203
3. 精神的健康に関連する看護大学生のキャンパスライフの一考察	共著	平成21年9月	第19回日本看護学教育学会学術集会(北見)	岩田銀子	抄録207
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成18年7月	北海道看護協会札幌第3支部看護研究発表会座長				
平成20年6月～現在に至る	北海道母性衛生学会役員(幹事総務)				
平成21年2月27日	千歳市「地域交流研修会」講師 「看護学実習における指導のあり方」				
平成21年4月～現在に至る	北海道看護協会札幌第3支部教育委員				
平成21年4月～現在に至る	放送大学卒業研究指導教員				
平成21年6月～現在に至る	日本母性衛生学会評議員				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	榎原 千佐子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 学生授業アンケート		平成18年, 平成19年		前期1回, 学生から無記名によるアンケートを実施し, その結果約90%が興味をもつことができた授業内容であると評価した.			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 在宅看護実習		平成18年, 平成19年		在宅での生活に対する社会資源の活用状況を理解させるために, 社会資源の一覧表を作成し自己学習に役立たせた.			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
保健師専門職業能力と自己評価	共著	平成17年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第1巻	榊原千佐子、片岡泉	pp. 89-93
看護短大生の本学選択動機と描く将来像	共著	平成17年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第1巻	田中道子, 岡嶋良枝, 野田貴代, 石井成郎, 榊原千佐子	pp. 69-78
日本における看護概念の歴史的検討	共著	平成17年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第1巻	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子, 岡嶋良枝	pp. 79-88
健康に良い脂肪酸	共著	平成17年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第1巻	石原英子, 榊原千佐子	pp. 106-117
行政と在宅介護支援センターが関与した高齢者の処遇困難事例の実態	共著	平成18年3月	第36回日本看護学会論文集ー地域看護ー	小倉千恵子, 近藤あゆみ, 杉本佐榮子, 榊原千佐子	pp. 108-110
日本における激動変革期の看護ー明治初期と第二次世界大戦後における看護の軌跡ー	共著	平成18年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第2巻	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子, 岡嶋良枝	pp. 103 - 113
レポートライティングのためのe-learning環境の構築	共著	平成18年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第2巻	石井成郎, 須賀京子, 榊原千佐子	pp. 115-119
看護短大生の本学選択動機と描く将来像ー1期生と2期生の比較	共著	平成18年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第2巻	岡嶋良枝, 田中道子, 石井成郎, 坂田由紀, 榊原千佐子	pp. 135-141
市町村保健師の専門職業能力に対する育成課題ー自己評価表を用いてー	共著	平成18年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第2巻	白井裕子, 榊原千佐子, 内村祥子	pp. 143-149
看護基礎教育における看護史に関連する科目の位置づけ	共著	平成18年3月	愛知県看護教育研究会誌	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子	pp. 27-31
看護短大におけるオンライン教育のためのe-learningの教材開発	共著	平成18年3月	愛知県看護教育研究会誌第9号	石井成郎, 須賀京子, 榊原千佐子	pp. 32-36
看護における創造性教育の実施とその評価	共著	平成18年12月	電子情報通信学会研究報告	石井成郎, 榊原千佐子, 須賀京子, 白井裕子, 百合純子, 内村祥子, 水野正延, 岡嶋良枝	pp. 71-76
看護の歴史教育における視聴覚教材を用いた学習効果	共著	平成19年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第3巻	田中道子, 榊原千佐子, 竹谷英子, 白井裕子, 百合純子, 内村祥子	pp. 83-90
在宅看護における創造性教育の実施とその学習成果の評価	共著	平成19年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第3巻	榊原千佐子, 石井成郎, 須賀京子, 白井裕子, 百合純子, 内村祥子, 岡嶋良枝, 水野正延	pp. 91-96
メタ認知的技能を高める教育方法の検討	共著	平成19年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第3巻	須賀京子, 長野きよみ, 白井裕子, 百合純子, 内村祥子, 榊原千佐子, 石井成郎	pp. 127-134
看護短大生の入学の特性ー3年間の比較	共著	平成19年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第3巻	岡嶋良枝, 田中道子, 石井成郎, 内村祥子, 榊原千佐子	pp. 135-142

視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第1報）—イギリスにおける近代看護の幕開け—	共著	平成19年3月	愛知県看護教育研究会誌第10号	内村祥子, 田中道子, 榊原千佐子	pp. 8-15
視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第3報）—日本における近代看護の幕開け—	共著	平成19年3月	愛知県看護教育研究会誌第10号	百合純子, 田中道子, 榊原千佐子	pp. 23-29
視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第2報）—アメリカにおける近代看護の幕開け—	共著	平成19年3月	愛知県看護教育研究会誌第10号	白井裕子, 田中道子, 榊原千佐子	pp. 16-22
Designing effective learning environments for creativity in nursing education	共著	平成19年7月	Proceedings of International Conference on Design Education(Spain)	Ishii, N., Sakakibara, C., Suga, K., Shirai, Y., Yuri, J., Uchimura, S., Mizuno, M., & Okajima, Y.	CD版
介護保険制度開始後の行政機関が関わる事例の類型化とその役割の研究	共著	平成19年10月	保健師ジャーナル vol. 63	小倉千恵子, 榊原千佐子, 近藤あゆ子, 杉本佐榮子	pp. 1012-1017
愛知県看護教育研究会における研究についての一考察	共著	平成20年3月	愛知県看護教育研究会誌第11号	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子,	pp. 42-48
在宅看護における創造性教育の試み - 2年間の比較から -	共著	平成20年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第4巻	榊原千佐子, 石井成郎, 山本美弥, 榊本智子, 須賀京子	pp. 57-63
社会的スキルの変化に基づいたグループ学習の評価—在宅看護における創造性教育の実践から	共著	平成21年3月	愛知さわみ看護短期大学紀要第5巻	山本美弥, 榊原千佐子, 石井成郎, 須賀京子	pp. 41-48
大学生における睡眠の自覚と生活習慣との関連	共著	平成21年3月	愛知看護教育研究会誌第12号	榊原千佐子, 澤田節子, 須賀京子	pp. 13-17
在宅看護演習を対象とした授業設計とその教育評価—創造的な看護実践の育成をめざした	共著	平成21年8月	看護教育第50巻第8号	榊原千佐子, 石井成朗, 須賀京子	pp. 748-753
<その他>					
行政と在宅介護支援センターが関与した高齢者の処遇困難事例の実態	共著	平成17年10月	第36回日本看護学会地域看護(山梨県甲府市)	小倉千恵子, 榊原千佐子, 近藤あゆ子, 杉本佐榮子	p. 60
看護教育における看護士に関連する科目の位置づけ	共著	平成17年10月	第14回愛知県看護教育研究会(愛知県名古屋市)	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子	p. 5
看護学生の手書き選択の動機と描く将来像 - 1期生と2期生の比較	共著	平成17年10月	第14回愛知県看護教育研究会(愛知県名古屋市)	岡嶋良枝, 田中道子, 榊原千佐子, 石井成郎, 坂田由紀	
看護学生におけるフロンティア教育支援のためのWeb教材の設計	共著	平成17年10月	第14回愛知県看護教育研究会(愛知県名古屋市)	石井成郎, 須賀京子, 榊原千佐子	p. 7

処遇困難事例における介護支援専門員の対応の実態	共著	平成18年7月	日本ケアマネジメント学会第5回研究大会（千葉県千葉市）	榊原千佐子, 小倉千恵子, 近藤あゆ子	p. 47
視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第1報）—イギリスにおける近代看護の幕開け—	共著	平成18年11月	第15回愛知県看護教育研究学会（愛知県名古屋市）	内村祥子, 田中道子, 榊原千佐子	p. 6
視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第2報）—アメリカにおける近代看護の幕開け—	共著	平成18年11月	第15回愛知県看護教育研究学会（愛知県名古屋市）	白井裕子, 田中道子, 榊原千佐子	p. 6
視聴覚教材を用いたグループ学習効果（第3報）—日本における近代看護の幕開け—	共著	平成18年11月	第15回愛知県看護教育研究学会（愛知県名古屋市）	百合純子, 田中道子, 榊原千佐子	p. 7
看護教育における創造性育成の試み	共著	平成18年11月	日本教育工学会第22回全国大会（大阪府高槻市）	榊原千佐子, 石井成郎, 須賀京子, 白井裕子, 百合純子, 内村祥子, 水野正延, 岡嶋良枝	pp. 219-220
介護保険制度下の在宅困難事例の処遇—保健福祉行政3機関が関与した困難事例の分析から—	共著	平成19年6月	日本ケアマネジメント学会第6回研究大会（北海道札幌市）	小倉千恵子, 近藤あゆ子, 榊原千佐子	p. 64
看護における「ものづくり」を通じた創造性の育成	共著	平成19年9月	日本認知科学会第24回大会（東京都）	榊原千佐子・石井成郎・須賀京子・白井裕子・百合純子・内村祥子・岡嶋良枝・水野正延	pp. 466-467
愛知県看護教育研究学会における研究についての一考察	共著	平成19年10月	第16回愛知看護教育研究学会（愛知県）	田中道子, 竹谷英子, 榊原千佐子	p. 10
Fostering Creativity through The Creation of Self-help Devices in Nursing Education	共著	平成20年10月	2008 International Conference on Creativity Education (taiwan)	Ishii, N., Sakakibara, C., Suga, K., Shirai, Y., Yuri, J., Uchimura, S., Mizuno, M., & Okajima, Y.	pp. D37-D38
睡眠時間の自覚と生活習慣との関連	共著	平成20年11月	第17回愛知看護教育研究学会（愛知県）	榊原千佐子, 須賀京子, 澤田節子	p. 5
Difficulty in the life that a patient with idiopathic osteonrcrosis of the femoral head experience	共著	平成21年6月	ICN 24 Quadrennial Congress(South Africa)	M.Habara,C.Sakakibara,M.Kawai	P2. 163
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成17年4月～平成20年3月	名古屋市介護認定審査会委員				
平成20年1月～平成20年3月	愛知県看護教員養成講習会講師				
平成21年7月～	市立千歳市民病院経営改革会議委員				
平成21年10月28日	苫小牧市立病院臨床指導者養成研修会講師				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	羽原 美奈子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・在宅看護論における授業法の工夫 ペーパー事例とロールプレイング技法を用いて在宅看護演習を実施している。平成19年度は医療依存度の高い在宅療養者への看護を想定して、業者介入で在宅人工呼吸器・在宅酸素機器に関する演習を実施した。		平成15年11月～		広域看護学地域看護領域 (学部担当科目) 在宅看護論・領域別地域看護方法論 (高齢者保健・成人保健・産業保健) 地域診断演習・地域看護実習 (保健所・市町村、在宅看護) 看護研究演習 実践看護学地域看護学 (大学院科目) 特論Ⅲ (高齢者保健論) 演習Ⅰ (公衆衛生看護実習含む)・研究			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<著書>							
なし							

<論文>					
積雪寒冷地に居住する在宅高齢者の保健・医療・福祉サービスへの要望	共著	平成18年3月	看護総合科学研究会誌 第9巻第1号	◎羽原美奈子、北村久美子	pp. 33～40
保健師の家庭訪問に関する海外文献の検討	共著	平成19年2月	日本在宅ケア学会誌 Vol.10 No.2	◎羽原美奈子、笹原千穂、真溪淳子、大西章恵、北山明子	pp. 83～90
北海道における保健所・市町村保健師の家庭訪問に関する認識 比較	単著 【分担執筆】	平成19年3月	行政保健師の家庭訪問に対する認識の実態と今後の課題 【課題番号 16592219 研究代表 大西章恵】 平成16年度～18年度 科学研究助成金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書		pp. 51～65
行政保健師の家庭訪問に対する認識	共著	平成19年10月	日本地域看護学会誌 Vol.10 No.1	近藤明代、大西章恵、羽原美奈子、笹原千穂、真溪淳子、北山明子、河野啓子	pp. 35～41
総説「行政保健師の家庭訪問の実施に影響する要因についての文献検討」	共著	2008.3月	北海道公衆衛生学雑誌 Vol.21 No.2	笹原千穂・大西章恵・近藤明代・羽原美奈子・真溪淳子・北山明子・河野啓子	pp. 51-57
論文 特集家庭訪問 現代の保健師活動における意味を問う 「現場の声から探る家庭訪問の現状」	共著	2008.8月	保健師ジャーナル Vol.64 No.08	大西章恵・近藤明代・笹原千穂・真溪淳子・羽原美奈子・北山明子・河野啓子	pp. 684-689
特発性大腿骨頭壊死症患者が体験する生活上の困難	共著	2008.12月	社会医学研究第26号	◎羽原美奈子・前沢政次	pp. 31-40
“ Difficulty in the life that a patient with idiopathic necrosis of femoral head experiences”	共著	2008.12月	ICN Conference and CNR 2009 Program Abstract CD-ROM	◎HABARA, M. SAKAKIBARA, C. IZUMISAWA, M. KAWAI, M.	
The current state of nursing education in Japan and promising role that caring may play in nursing ethics education	共著	2008.12月	ICN Conference and CNR 2009 Program Abstract CD-ROM	IZUMISAWA, M HABARA, M. HOSOI, A. IWATA, G	

＜その他＞学会発表					
保健師の家庭訪問に関する海外文献の検討	共同	平成17年9月	第64回日本公衆衛生学会	◎羽原美奈子、近藤明代、笹原千穂、真溪淳子、大西章恵、北山明子、河野啓子	
行政保健師の家庭訪問に対する認識	共同	平成17年10月	第36回日本看護学会（地域看護）	近藤明代、大西章恵、羽原美奈子、笹原千穂、真溪淳子、北山明子、河野啓子	
積雪寒冷地に居住する在宅高齢者の保健・医療・福祉サービスへの要望	共同	平成17年12月	第9回看護総合科学研究会	◎羽原美奈子、北村久美子	
新任期の保健師が持つ家庭訪問に対する認識	共同	平成18年10月	第37回日本看護学会（地域看護）	近藤明代、真溪淳子、羽原美奈子、笹原千穂、大西章恵、北山明子、河野啓子	
Study on overseas literature concerning home visits provided by public health nurses.	共同	2007 1 June	ICN Conference and CNR 2007	◎ Minako HABARA, Akie Onishi.	
北海道の市町村で働く保健師のストレス反応に影響を与える要因	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会	武田富美子、大西章恵、羽原美奈子	
新人保健師の家庭訪問に対する苦手意識に影響を与える要因	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会	笹原千穂、大西章恵、近藤明代、羽原美奈子、真溪淳子	
市町村保健師管理者の家庭訪問に対する認識	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会	大西章恵、近藤明代、羽原美奈子、笹原千穂、真溪淳子	
特発性大腿骨頭壊死症患者が体験する生活上の困難	単独	平成19年11月	第11回看護総合科学研究会学術集会		
北海道における保健所・市町村保健師の家庭訪問に関する認識の比較	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会	◎ 羽原美奈子、大西章恵、近藤明代、笹原千穂	
“ Difficulty in the life that a patient with idiopathic necrosis of femoral head experiences”	共同	2009 2 July	ICN Conference and CNR 2009	◎HABARA, M. SAKAKIBARA, C. IZUMISAWA, M. KAWAI, M.	
The current state of nursing education in Japan and promising role that caring may play in nursing ethics education	共同	2009 3 July	ICN Conference and CNR 2009	IZUMISAWA, M HABARA. M. HOSOI. A. IWATA. G	

特発性大腿骨頭壊死症患者が体験する生活上の困難	共同	平成21年10月23日	第68回日本公衆衛生学会総会	◎羽原美奈子・前沢政次	
特発性ステロイド性大腿骨頭壊死症患者の生活の質研究	単独	平成21年11月7日 (予定)	第13回看護総合科学研究会学術集会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
昭和60年4月～(現在に至る)	日本看護協会会員				
昭和60年4月～(現在に至る)	北海道公衆衛生学会会員				
平成7年4月～(現在に至る)	日本公衆衛生学会会員				
平成8年4月～(現在に至る)	日本社会医学会会員				
平成17年4月～(現在に至る)	日本地域看護学会会員				
平成18年4月～(現在に至る)	日本在宅ケア学会会員				
平成19年4月～(現在に至る)	日本看護科学学会会員				
平成17年4月～(現在に至る)	看護総合科学研究会				
平成19年1月～1年間	看護総合科学研究会査読委員				
H20. 12. 1～H23. 11. 30	北海道公衆衛生学会評議員				
H21. 6. 1～H24. 5. 31	看護総合科学研究会評議員				
H21. 4. 10～H22. 10. 31	日本地域看護学会第13回学術集会企画委員				
H21. 6. 27	日本社会医学会第50回総会 一般演題座長				
2008. 9. 4	平成20年度北海道文教大学公開講座講師 「高齢者の心の健康と若返り法」				
2009. 12. 2 (予定)	恵庭市高齢者長寿大学 生活習慣病予防 講義予定				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	辻 慶子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 学生のアセスメント能力を引き出すための実践 (長崎大学医学部保健学科)				平成15年12月 ～平成19年3月	1年生の看護技術の清潔において、全身清拭時に患者役の学生の皮膚の状態、清潔習慣などからより健康な皮膚にするためのアセスメントを行い洗浄剤を選択した。学生の思考能力を高めることに役立てた。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 授業ごとの学生による授業評価 ・ 学生による授業評価				平成11年度 ～平成18年度 平成12年度 ～平成18年度	大学の講義を担当し始めてから現在に至るまですべての講義において学生の講義感想を毎時間得ている。学生の意見は次回の講義に反映し、さらには次年度の講義へ還元している。 担当科目についての学生評価を大学の授業評価に基づき行っている。その結果、講義方法、内容、学生の参画、講師の熱意、講義の価値等において高い評価が得られた。今後は、提出された課題の評価等について学生への提示を含めた検討が課題となった。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 大学のFDに参加 ・ 臨床実習指導者研修会の講師				平成11年度 ～平成18年度 平成14年度 ～平成18年度	大学主催のFDに参加し、教員、ならびに研究者としての学びを深めている。特に新しい講義方法としてのe-learning等については繰り返しの出席により、今後取り入れることが可能となった。 長崎県看護協会研修センター主催の臨床実習指導者研修会において、基礎看護学と基礎看護学実習について講義と実習指導案作成の指導を行った。		
II 研究活動							

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
看護のための薬事典	共著	平成17年3月	中央法規	尾鳥勝也, 溝井伸恵, 陣田泰子, 宮城領子, 北原和子, 上谷いつ子, 辻慶子, 他62名	pp. 471-564
< 論文 >					
喉頭摘出者のセルフヘルプ・グループから得ている支援とストレス対処との関連	共著	平成18年12月	日本看護科学学会誌 (第26巻4号)	寺崎明美, 間瀬由記, 辻慶子	pp. 37-45
連想法調査を用いた実習評価の試み— 情意ベクトルによる基礎看護学実習Ⅱの評価 —	共著	平成19年11月	長崎大学医学部保健学科紀要 (第20巻1号)	辻慶子, 濱野香苗, 野村亜由美, 井上昌	pp. 29-37
喉頭摘出者におけるライフスタイル再編成の過程-食道発声教室参加まもない参加者を対象に-	共著	平成20年6月	日本看護研究学会雑誌 (第31巻2号)	辻慶子, 間瀬由記, 寺崎明美	pp. 83-96
看護学生生活技術の実態調査	共著	平成21年3月	北海道文教大学研究紀要 (第33号)	辻慶子, 滋野和恵, 泉澤真紀, 細井明美	pp. 109-115
単元「清潔の援助」における演習方法の違いによる清潔のイメージ比較-連想法調査を用いて-	共著	平成21年3月	日本看護学教育学会誌 (第18巻3号)	辻慶子, 濱野香苗	pp. 55-62
喉頭摘出者の食道発声法訓練継続に関する自己決定行動の分析	共著	平成21年9月	日本がん看護学会誌 (第23巻2号)	間瀬由記, 寺崎明美, 辻慶子	pp. 42-49

<その他>					
学生と看護師の清潔に関する認識の比較―連想法を用いて―	共同	平成17年7月	第15回日本看護学教育学会(埼玉)	辻慶子, 濱野香苗	
Emotional Responses of Laryngectomy Patients Participating in the Beginners' Class of a Self-help Group of Esophageal Speech Trainees and Their Efforts to Cope with the Situation (初心クラスの喉頭摘出者が食道発声訓練を継続する要素)	共同	平成17年10月	12th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research (San Francisco, CA, USA)	辻慶子, 寺崎明美, 間瀬由記	p. 2127
学生と看護師の個別性に関する認識の比較―連想法を用いて―	共同	平成17年10月	第10回日本看護研究学会九州地方会学術集会(長崎)	辻慶子, 濱野香苗	p. 105
入学時から1年間の清潔と個別性の概念変化-単元「清潔」の授業方法を工夫して	共同	平成17年11月	第4回日本看護技術学会(つくば)	辻慶子, 濱野香苗	p. 109
発達段階の相違による清潔の概念の変化	共同	平成18年8月	第16回日本看護学教育学会(名古屋)	近藤幸, 辻慶子, 濱野香苗	p. 108
大学生の「死のイメージ」―看護学生と他学科学生の比較―	共同	平成18年11月	第11回日本看護研究学会九州地方会学術集会(福岡)	近藤幸, 辻慶子, 濱野香苗	
家族・友達の喫煙に対するイメージ―連想法を用いて―	共同	平成18年11月	第11回日本看護研究学会九州地方会学術集会(福岡)	福迫美香, 辻慶子	
妻が不妊治療中の夫の不安の実態調査	共同	平成18年12月	第11回日本看護研究学会九州地方会学術集会(福岡)	今井綾佳, 辻慶子	
連想法調査を用いた実習評価の試み	単独	平成19年6月	第17回日本看護研究学会北海道地方会学術集会	辻慶子	p. 10
看護師職場体験からみた高校生の看護師イメージ―看護師志望群と非志望群の違い―	共同	平成19年7月	第83回日本看護学会(総合看護)(那覇)	久保山悠, 吉田千賀子, 西田隆宏, 辻慶	p. 90
高校3年生の看護師のイメージ―看護師志望群と非志望群の比較―	共同	平成19年8月	第33回日本看護研究学会学術集会(盛岡)	吉田千賀子, 西田隆宏, 久保山悠, 辻慶	pp. 275

III 学会等および社会における主な活動	
昭和53年4月	日本看護協会会員（現在に至る）
平成13年10月	日本看護研究学会会員（現在に至る）
平成13年10月	日本看護教育学会会員（現在に至る）
平成14年 4月	日本看護科学学会会員（現在に至る）
平成14年 9月	日本医学・哲学倫理学会会員（現在に至る）
平成15年10月	日本がん看護学会会員（現在に至る）

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	松本 真希	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	教授	氏名	矢嶋 俊彦	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2005-2009年		北海道医療大学歯学部にて			
・学生による授業評価		2005-2008年		北海道医療大学歯学部にて			
・ホームページに講義概要・まとめを添付							
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年		口腔組織学・発生学の教科書・参考書			
・口腔組織学・発生学		2006年		口腔組織学・発生学の教科書・参考書			
・Ten Cate 口腔組織学		2006年		解剖学の教科書・参考書			
・科学のための解剖学							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項		2005-2008年		北海道医療大学大学院歯学研究科にて			
・大学院生の研究指導		2005-2008年		北海道医療大学大学院歯学研究科にて			
・学位論文審査							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
<著書>							
歯の移動の臨床バイオメカニ ズムー骨と歯根膜のダイナミ ズム	共著	2006年	医歯薬出版	下野正基、前田健康、溝口到 編 矢嶋俊彦 他執筆	pp. 16-23		
口腔組織学・発生学	共著	2006年	医歯薬出版	脇田稔、前田健康、山下靖雄、明坂年 隆 編矢嶋俊彦 他執筆	pp. 163-167 pp. 178-190		

Ten Cate 口腔組織学	共著	2006年	医歯薬出版	川崎堅三 監訳 矢嶋俊彦 他訳	pp. 1-17
歯科学のための解剖学	共著	2006年	西村書店	矢嶋俊彦、高野吉郎 監訳	pp. 1-33 pp. 33-397
<論文>					
Microfibril-associated glycoprotein-1 and fibrillin-2 are associated with tropoelastin deposition in vitro.	共著	2005年	Int. J. Biochem. Cell Biol., 37	Tsuruga E, Yajima T, Irie K	pp. 120-129
Impaired alveolization in mice deficient in membrane-type matrix metalloproteinase 1 (MT1-MMP).	共著	2005年	Med. Mol. Morphol., 38	Irie K, Komori K, Seiki M, Tsuruga E, Sakakura Y, Kaku T, Yajima T	pp. 43-46
Tumor growth, local invasion, micrometastasis, and lymph node metastasis of oral squamous cell carcinoma visualized in live tissue by green fluorescent protein expression.	共著	2005年	Oral Sci. Int., 2	Itih A, Okumura K, Abiko Y, Arakawa T, Takuma T, Hosokawa Y, Yajima T, Shibata T	pp. 45-53
Radiation-induced apoptosis is independent of caspase-8 but dependent on cytochrome c and the caspase-9 cascade in human leukemia HL60 cells.	共著	2005年	J. Radiat. Res., 46	Hosokawa Y, Sakakura Y, Tanaka L, Okumura K, Yajima T, Kaneko M	p. 293-303
Immunolocalization of receptor activator of nuclear factor- κ B ligand (RANKL) and osteoprotegerin (OPG) in Meckel's cartilage compared with developing endochondral bones in mice.	共著	2005年	J. Anat., 207	Sakakura Y, Tsuruga E, Irie K, Hosokawa Y, Nakakamura H, Yajima T	pp. 325-337

Operating behind Denonvilliers' fascia for reliable preservation of urogenital autonomic nerves in total mesorectal excision: A histologic study using cadaveric specimens, including a surgical experiment using fresh cadaveric models.	共著	2006年	Dis.Colon Rectum., 49	Kinugasa Y, Murakami G, Uchimoto K, Takenaka A, Yajima T, Sugihara K	pp.1024-1032
実験的歯の移動時のラット歯周組織圧迫側におけるMMP-13の局在	共著	2006年	北医療大歯誌, 25	水上和博、浜谷明里、坂倉康則、矢嶋俊彦、溝口 到	pp. 53-61
Globulomaxillary lesion の1例	共著	2006年	北医療大歯誌, 25	藤井茂仁、細川洋一郎、大内知之、高橋陽夫、松嶋宏篤、金子昌幸、賀来亨、矢嶋俊彦	pp. 73-76
Contributions of matrix metalloproteinase toward Meckel's cartilage resorption in mice: immunohistochemical studies, including comparisons with developing endochondral bones.	共著	2007年	Cell Tissue Res., 328	Sakakura Y, Hosokawa Y, Tsuruga E, Irie K, Nakamura M, Yajima T	pp.137-151
Elastic system fibers—Molecular properties of tropoelastin and microfibrils—	共著	2007年	Dentistry in Japan, 43	Tsuruga E, Yajima T	pp.119-122
Fibrillin-2 degradation by matrix metalloproteinase-2 in periodontium.	共著	2007年	J. Dent. Res., 86	Tsuruga E, Irie K, Yajima T	pp.352-356
Potential foramen to allow communication between the pleural cavity and retroperitoneal space during laparoscopic surgery: a cadaver study of Bochdalek's triangle.	共著	2007年	Surg.Radiol.Anat., 29	Kawada M, Murakami G, Yajima T, Sato T, Mizobuchi S, Sasaguri S	pp.105-113

In situ localization of gelatinolytic activity during development and resorption of Meckel's cartilage in mice.	共著	2007年	Eur. J. Oral Sci., 115	Sakakura Y, Hosokawa Y, Tsuruga E, Irie K, Yajima T	pp. 212-223
Effect of local and whole body irradiation on appearance of osteoclasts during wound healing of tooth extraction sockets in rats.	共著	2007年	J. Radiat. Res., 48	Hosokawa Y, Sakakura Y, Tanaka L, Okumura K, Yajima T, Kaneko M	pp. 273-280
A histotopographic study of the perineal body in elderly women: the surgical applicability of novel histological findings.	共著	2007年	Int. Urogynecol. J., 18	Soga H, Nagata I, Murakami G, Yajima T, Takenaka A, Fujisawa M, Koyama M	pp. 1423-1430
Matrix mineralization as a trigger for osteocyte maturation.	共著	2008年	J. Histochem. Cytochem., 56	Irie K, Ejiri S, Sakakura Y, Yajima T	pp. 561-567
Metabolic mode peculiar to Meckel's cartilage: immunohistochemical comparisons of hypoxia-inducible factor-1 α and glucose transporters in developing endochondral bones in mice.	共著	2008年	Eur. J. Oral Sci., 116	Sakakura Y, Shibui T, Irie K, Yajima T	pp. 341-352
Stretching modulates oxytalan fibers in human periodontal ligament cells.	共著	2009年	J. Periodontal Res., 44	Tsuruga E, Nakashima K, Ishikawa H, Yajima T, Sawa Y	pp. 170-174
Integrin α v β 3 regulates microfibril assembly in human periodontal ligament cells.	共著	2009年	Tissue Cell, 41	Tsuruga E, Sato A, Ueki T, Nakashima K, Nakatomi Y, Ishikawa H, Yajima T, Sawa Y	pp. 85-89
<その他>					

刺繡組織における弾性系繊維の形成及び分解・改造機構の解明	単著	2008年	平成17年度～平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書	矢嶋俊彦 ほか	pp. 1-22
III 学会等および社会における主な活動					
1969年4月—現在	日本解剖学会会員(昭和44-56年)、評議員(昭和57-平成20年)、永年会員(平成21-現在)				
1969年4月—現在	歯科基礎医学会会員(昭和44-56年)、理事(平成14—16年)、評議員(昭和57-現在)				
1972年4月—現在	日本骨代謝学会会員				
1972年4月—現在	日本顕微鏡学会会員				
1981年4月—現在	日本歯周病学会会員(昭和56-57年)、評議員(昭和58-平成20年)、理事(平成12-20年)、名誉会員(平成20-現在)				
1996年—現在	日本老年歯科医学会評議員				
1994年—現在	日本咀嚼学会評議員				
1994年—現在	日本歯科教育学会評議員				
2005年7月20日	第13回骨の健康づくりセミナーin 札幌(札幌エルプラザ)開催				
2006年6月5日	第16回骨の健康づくりセミナーin 札幌(北海道立道民活動センター・かるで)開催				
2007年6月25日	第22回骨の健康づくりセミナーin 札幌(北海道立道民活動センター・かるで)開催				
2008年7月18日	第25回骨の健康づくりセミナーin 札幌(北海道立道民活動センター・かるで)開催				
2007年4月—現在	NPO法人 科学映像館 監事				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	人間科学部看護学科	職名	准教授	氏名	泉澤 真紀	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・「生活援助看護技術Ⅱ」における授業の取り組み			2009. 4～9	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-learning「moodle」を活用し、円滑な授業の工夫と学生の対応を図った。 ・ エンカウンタ・グループを活用したグループ学習により、演習等における学生の自主的参加と学びを促した。 		
2	作成した教科書、教材、参考書						
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4	その他教育活動上特記すべき事項 ・ 短期海外研修			2009. 4～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際交流委員として、はじめて学生を短期海外研修に送るための企画委員として活動した。 		

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >					
ケアリングを教えていくために	共	2005. 5	看護教育(医学書院)	◎泉澤真紀、今野理恵	
< 論文 >					
臨地実習における学生と教員の 臨地実習教育の評価の差異に関 する検討	単	2007. 1	第37回日本看護学会論文集 (看護教育2006)		369頁～371頁
思春期生徒の月経痛と月経に関 する知識の実態と教育的課題	共	2008. 7	日本母性衛生学会 (49巻 2号)	◎泉澤真紀、山本八千代、宮越由美 子、岸本信子	347頁～356頁
ケアリングは看護の何なのか： テクノロジー時代におけるケアの 倫理と看護	単	2009. 3	北海道文教大学研究紀要 (第33巻)		1頁～10頁
看護学生の生活技術の実態調査	共	2009. 3	北海道文教大学研究紀要 (第33巻)	◎辻慶子、滋野和子、泉澤真紀、細井 明美	109頁～115頁
< その他 >					
臨地実習における学生と教員の 臨地実習教育の評価の差異に関 する検討	単	2006. 8	第37回日本看護学会(看護教育)		218頁
ケアリングは看護の何なのか： テクノロジー時代におけるケアの 倫理と看護	単	2006. 10	第25回日本医学・哲学倫理学会		16頁
アクションリサーチを現場の研究 に：「助産師外来／院内助産 院開設の試み」のための研究計 画	単	2006. 12	第26回日本看護科学学会学術集会		399頁
高校生の受けた性に関する教育 の実態	共	2007. 10	第47回母性衛生学会学術集会	◎山本八千代、宮城由美子、山本麻優 美、泉澤真紀	251頁
月経に関する保健教育の実態と 課題	共	2007. 10	第47回母性衛生学会学術集会	◎山本八千代、宮城由美子、岸本信 子、泉澤真紀	186頁

母性看護学実習におけるエンカウンター・グループを用いた学生カンファレンスでの学生の体験	単	2008. 8	第18回日本看護教育学会学術集会		122頁
ケアリング教育は看護教育にあり得るか：ネル・ノディングス批判と看護教育のこれから	単	2008. 10	第28回日本医学・哲学倫理学会		
The current state of nursing education in Japan and the promising role that caring may play in nursing ethics education	共	2009. 6	ICN24 th Quadrennial Congress (Durban South Africa)	©Izumisawa.M, Habara.M, Hosoi.A, Iwata.G	p35
Difficulty in the life that a patient with Idiopathic Osteonecrosis of the femoral head experience	共	2009. 6	ICN24 th Quadrennial Congress (Durban South Africa)	©Habara.M, Sakakibara.C, Izumisawa.M, Kawai.M	p22

III 学会等および社会における主な活動

1986. 4～現在	日本看護協会 協会員
2004. 10～2007. 9	ラ・トローブ大学大学院(豪州) 大学院 (健康科学学部看護助産学科) で学ぶ日本学生のための指導教員(tutor)
2004. 4～現在	母性衛生学会 学会員
2006. 4～現在	日本医学哲学倫理学会員 2008. 10学術集会実行委員
2007. 1	ラ・トローブ大学大学院(豪州) 大学大学院修士論文審査委員
2009. 3. 25	札幌新陽高校 進路のための出前講座 対象人数約20名
2008. 4～現在	看護教育学会 学会員
2009. 4～ (5年任期)	苫小牧市次世代育成推進委員
2009. 4～ (2年任期)	苫小牧市男女共同参画推進委員

2009. 4～現在	日本看護研究学会 学会員
2009. 4～現在	日本看護倫理学会 学会員
2009. 6. 12	苫小牧東高校「0Bのための進路講演会」対象人数約300人 (6. 13北海道新聞掲載)
2009. 10. 1	北海道文教大学附属明清高校 高校生のための体験実習 対象人数18名

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	准教授	氏名	長多 好恵	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
Relationship between hepatocellular carcinoma and impaired glucose tolerance among Japanese.	共著	2006年	Hepato-Gastroenterology 53	Khan MMH, Saito S, Takagi S, Nagata Y, Asakura S, Konayashi K	
健常人を対象にした大豆蛋白摂取量と血中・尿中濃度の世代間調査	共著	2007年	腎泌尿防医学誌 15(1)	田中雅博、藤本清秀、平尾佳彦、長多好	
加速度センサー装置での身体活動量測定と身体活動と関連する要因の検討	共著	2007年	北海道公衆衛生学雑誌 20(2)	森満、尚爾華、和泉比佐子、長多好恵	
Dietary isoflavones may protect against prostate cancer in Japanese men	共著	2007年	Journal of Nutrition 137(8)	Nagata Y, Sonoda T, Mori M, Miyanaga N, Okumura K	pp.1974-1979
札幌市における基本健康診査と国民健康保健医療費の関連性についての断面研究	共著	2007年	札幌医誌 76	森満、坂内文夫、大浦麻絵、長多好恵	
Age-stratified serum levels of isoflavones and proportion of equol producers in Japanese and Korean healthy men	共著	2008年	Prostate Cancer and Prostatic Diseases 11	Fujimoto K, Tanaka M, Hirao Y, Nagata Y, Mori M	
Traditional Japanese diet and prostate cancer (review)	共著	2009年	Mol. Nutr. Food Res. 53	Mori M, Masumori N, Fukuta F, Nagata Y, Sonoda T, Sakauchi F	
<その他>					
学会発表					
前立腺がんの宿主・環境要因に関する症例対照研究	共著	2005年9月	第64回日本がん学会総会（札幌市）	長多好恵、園田智子、森満、高橋敦	
唾液α-アミラーゼ活性とストレスとの関連性	共著	2009年4月	第20回日本臨床モニター学会（東京）	長多好恵、大西浩文、坂内文夫、森満	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2001年9月～現在に至る	日本癌学会会員
2008年12月～現在に至る	日本公衆衛生学会会員

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	准教授	氏名	永谷 智恵	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成17年4月～		子どもを観察できる場所に足を運び、意図的に発達を観察して理解していく。			
・意図的観察学習子どもウォッチング		平成18年4月～		子どもの発達段階別に状況 (検査・処置、痛み、説明、プレパレーションなど) に応じた小児・家族の看護を考え、グループでロールプレイを実践していく。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成19年4月		「小児看護学実習における看護学生の家族像の捉え方」についてインタビュー結果を質的研究の視点から2事例の報告して検討する。			
・北海道看護教育研究会における教育研究実践発表		平成20年4月		「小児看護学実習における家族成員個々の学生の捉えの変化」についてアンケート調査より家族成員の捉えを報告して検討する。			
・北海道看護教育研究会における教育研究実践発表							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

＜論文＞					
1 実習における学生の経時的成長	共著	平成17年2月	日本看護学会誌vol. 14 No2	高橋久江、永谷智恵、浅野目幸子、浦田みどり	pp. 69～76
2 子ども虐待の家族支援に携わる保健師の体験—インタビューを通して—	共著	平成17年11月	日本看護科学学会学術集会	◎永谷智恵、岡田洋子	p. 147
3 子ども虐待支援への保健師の体験—インタビューを通して—	単著	平成18年11月	日本看護科学学会学術集会		p. 546
4 小児看護学実習における看護学生が捉えている家族像	共著	平成19年12月	北海道看護教育研究会記念誌	永谷智恵、江崎絹枝、寫田美穂子、岩崎美子	pp. 81～91
5 小児看護学実習における学生が捉えた家族像	共著	平成20年6月	日本小児看護学会学術集会	◎永谷智恵、江崎絹枝、寫田美穂子、岩崎美子	p. 215
6 子ども虐待の支援に携わる保健師が抱える困難さ	単著	平成20年7月	日本小児看護学会誌vol. 18 No. 2		pp. 16～21
＜その他＞					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成20年4月～平成20年6月		日本小児看護学会 第19回学術集会 実行委員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	講師	氏名	坂田 朋子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・行政保健師の記録について ・看護職における効果的なコミュニケーションスキル (コーチ		平成20年 1月 平成21年10月		空知保健福祉事務所及び管内市町保健師対象の研修会講師 北海道看護協会後志支部 教育研究会講師			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成20年 6月1日～現在に至る		北海道公衆衛生セミナー幹事			
平成20年10月1日～現在に至る		恵庭市障がい者地域自立支援協議会メンバー			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	講師	氏名	滋野 和恵	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
学内E-learning「MOODLE」の活用				担当科目において単元ごとの小テストを作成し学習内容の確認および授業の学び・感想のフォーラム掲載で学生間で学びが共有できるよう取り組んでいる。また自由参加の体験型ゼミを行い学びを深め、学生のコミュニケーションスキルが向上するようめざしている。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
・「自己理解、他者理解に導く精神看護学における学生の体験をもとにした演習の評価」		2009/3/1		日本福祉看護学院H19年度教育実践報告 p 53～65			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
・北海道文教大学公開講座		2009/9/4		テーマ「ストレスマネジメントー考え方のクセと気分の関係」			
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
< 著書 >							

＜論文＞					
看護学生の職業Identityに関する実証的研究	単著	2006.3	平成17年度北海道大学大学院教育学研究科修士論文		
精神看護学におけるカウンセリング技術養成に想定書簡法を用いた演習の効果	単著	2009.3	北海道文教大学研究紀要第33号		pp.11-18
看護学生の生活援助技術の実態調査	共著	2009.3	北海道文教大学研究紀要第33号	◎辻慶子 泉澤真紀 細井明美	pp. 109-115
＜その他＞					
認知症高齢者を介護する配偶者の介護継続意思を支える要因—配偶者特有の認識—(学会発表)	共著	2009/8/4	日本看護研究学会雑誌第32巻3号	◎高橋順子	p. 389
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2009/3～		日本アクション看護学会第9回学術大会実行委員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	講師	氏名	出村 由利子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
① NPO法人葬送を考える市民の会 講演会			平成21年7月11日	リラプレカリア (折りの堅琴) について			
② 東海大学社会福祉学科 講演セミナー			平成21年7月17日	「介護に生かすアロマセラピー」			
③ Npo法人 在宅ケアを支え合う会 講演セミナー			平成21年7月18日	介護教室ー「日ごろのケアに生かすアロマとリフレ」			
④ 神奈川県介護福祉士会 講演セミナー			平成21年11月7日	現場で役立つリフレクソロジー			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行 または 発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
<著書>							

<論文>					
退学の危機を脱した体験から学ぶ学生指導のあり方	共著	2009. 3月	和泉短期大学研究紀要第29号		pp. 37-48
ハープと歌によるスピリチュアルケアの試み	単著	2009. 10. 24発表	日本ヒューマンケア科学学会誌vol2.No2.2009		p. 29
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
平成21年9月5日および6日		パストラルケア全国大会参加			

[注] 1

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	助教	氏名	岡本麗子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2007年～2006年		臨地実習指導においては、対象理解とケアの意味をどの様に理解しているのかを把握するため、カンファレンス等の討論の場を設定し、この結果を評価方法の一部とした。演習においては、視聴覚教材とデモンストレーションにて十先の手技と注意点を説明し、学生8名に対し1名の教員を配置し指導。実施した内容をその都度記録し、それを学習理解度の評価とした。また、座学においては、全講義終了後、授業評価アンケートを実施。			
・老年看護学実習における指導		2007年4月～2008年2月					
・精神看護学の基本的な考え方の教授・精神看護学実習における指導		2009年5月～7月					
・検査・与薬に関する基礎看護技術の教授と演習指導							
2 作成した教科書、教材、参考書				実習に関連する授業に対しては、対象理解と生活者としての視点もてるようプリントを作成した。			
・教材プリント作成							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
< 著書 >							
生活機能からみた老年看護過程	共著	2008年9月	医学書院	山田律子・井出訓	pp. 438－449		

<論文>					
ホームレス生活をする高齢者の心理社会的発達課題としての統合性とその関連要因	単著	2009年3月	修士論文		
<学会発表>					
臨床におけるスピリチュアリティケアの「現場」から見えてくるもの	共著	2009年6月	第51回老年社会科学学会大会	井出訓・高橋正実・河野直子・木村哲夫	
高齢者の心理社会的発達課題としての「統合性」－ホームレス体験をした高齢者の語りから－	共著	2009年9月	第14回老年看護学会大会	井出訓	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
学会：2007年～現在に至る	老年社会科学学会会員				
2007年～現在に至る	認知症ケア学会会員				
2009年5月～現在に至る	日本老年看護学会会員				
2009年6月～現在に至る	日本老年行動科学学会会員				
社会活動：2007年～現在に至る	認知症フレンドシップ				

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	助教	氏名	高井 奈津子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	助教	氏名	早坂 寿美	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・介護技術演習の指導方法		平成17年4月～19年3月		授業開始5分間に小テストを行い、前回の理解度を確認していた。講義後、演習に入り、初めに教員がデモを行い、その後グループ毎に演習を進め、まとめを行った。最後にコメントシートに本日の学びや疑問点などを記載してもらい、次回の授業時にフィードバックを行っていた。理論と技術を関連させ、学びを深める一つの方法と考える。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
III 学会等および社会における主な活動					
平成19年4月1日～現在に至る		健康心理学会会員			
平成21年4月1日～現在に至る		日本サイコオンコロジー学会会員			
平成21年4月1日～現在に至る		日本緩和医療学会会員			
平成21年4月1日～現在に至る		日本死の臨床研究会会員			

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属	看護学科	職名	助教	氏名	前垣 綾子	大学院における研究指導担当資格の有無	(無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行 または 発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書 >							

<論文>					
<その他>					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

[注] 1 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。

2 「研究活動」については、下記の点に留意してください。

- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった方については、お名前を挙げて著書・論文等の部分を空欄にしておいてください。